FUKUSHIMA・MUSEUM

平成27年度

年報 第30号

福島県立博物館

年報発刊に寄せて

福島県立博物館はいま、三十周年の大きな節目を迎えようとしています。誕生のときはバブル経済の真っただ中でしたから、施設的にも、運営的にもたいへん恵まれた船出ができました。つい十年ほど前までは、福島県博は全国でも数本の指に数えられる県立博物館として知られていました。残念ながら、いま福島県博はとても厳しい状況下に置かれています。

同じ時期に創られた県立博物館はみな、すでにリニューアルの必要な段階に差しかかっています。衣替えが成功して、入館者数が増加し、にぎやかに生まれ変わった博物館もたくさんあります。われわれもまた、自己検証を重ねながら、明日の福島県博の姿をもとめて開かれた議論を起こそうと努めてきました。じつは、この十数年のあいだ、何度となくリニューアルへの動きは頓挫してきたのです。その間に、われわれは厳しい財政上の制約にぶつかり、何より東日本大震災という未曾有の震災に遭遇することによって、無力さに打ちのめされながら、博物館とは何か、という問いを深刻に背負わざるを得なくなりました。震災遺産をいかに継承するか、自然史博物館はいかにして可能か、文化やアートの担い手をいかに育ててゆくか……といった、新しいテーマにたいして真っ向から向かい合わねばなりません。

あらためて、三十周年を迎えて、われわれの福島県博は県民のみなさんとともに在ることを、使命の第一に掲げて、再出発しなければならないと感じています。博物館はたくさんの人々と手を携えて、歴史や文化や自然風土を掘り起こし、さまざまに問いかけ、学び直すための開かれた広場になるべきなのかもしれません。もはや、博物館はたんなるモノ（文化財）の収集・保存・展示のための施設ではなく、まさに多様な文化交流のための広場へと再生を遂げることが求められています。

震災からの復興と、ふくしまの再生のために力を尽くしましょう。ささやかなものではあれ、文化のもつ力への信頼を新たにしながら。

福島県立博物館長　**赤坂　憲雄**

トピックス

福島県立美術館の名品を公開！

美術館移動展「ふるさと会津の人と四季―福島県立美術館名品展―」

平成27年度春、美術館移動展「ふるさと会津の人と四季―福島県立美術館名品展―」を開催した。この展示は、福島県立美術館と福島県立博物館の共催である。

福島県立美術館は福島市にあり、近代以降の美術作品の収集を行っている。平成26年に開館30周年を迎えた。福島県立美術館で収蔵している美術品の中から、会津若松にゆかりのある作家の日本画、水彩画、版画作品約50点を公開した。

福島県立美術館、福島県立博物館はともに県立の施設であるが、展示事業の共催は初めであった。

広い県土の福島県において、県立施設間で共同展示事業を展開することは、県民への教育普及のひとつのあり方ではないだろうか。

目　　次

年報発刊に寄せて
福島県立博物館の使命…… 1
Ⅰ　事業の概要…… 10
　1．資料収集事業…… 10
　　（1）収集展示委員会 …… 10
　　（2）受贈・受託 …… 10
　　（3）購入 …… 10
　2．保存管理事業…… 11
　　（1）資料の収蔵 …… 11
　　（2）登録・整理 …… 12
　　（3）貸出 …… 13
　　（4）保存 …… 14
　3．展示事業…… 15
　　（1）常設展示 …… 15
　　（2）企画展示 …… 18
　　（3）特集展 …… 22
　　（4）移動展 …… 24
　　（5）共催展 …… 28
　　（6）指定文化財の公開 …… 29
　　（7）展示解説 …… 29
　　（8）体験学習室 …… 30
　　（9）博物館新情報収集・展示室改善プロジェクト …… 30
　4．調査研究事業…… 31
　　（1）展示資料調査研究 …… 31
　　（2）その他の調査研究事業 …… 32
　　（3）職員の研究活動 …… 32
　5．教育普及事業…… 35
　　（1）講座・講演会 …… 35
　　（2）学校・文化施設との連携 …… 42
　　（3）生涯学習・研究支援 …… 47
　　（4）博物館友の会活動への支援 …… 48
　6．広報公聴活動および出版事業…… 50
　　（1）広報活動 …… 50
　　（2）公聴活動 …… 54
　　（3）出版事業 …… 54
　7．東日本大震災からの復興支援…… 55
　　（1）文化財レスキュー …… 55
　　（2）ふくしま応援ミュージアムイベント …… 58
　8．次世代ミュージアム機能…… 60
　　（1）はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト …… 60
　　（2）ふくしま震災遺産保全プロジェクト …… 67
　9．連携事業…… 72
　　（1）磐梯山ジオパーク推進事業 …… 72
　　（2）ふくしまサイエンスぷらっとフォーム …… 73
　　（3）福島藝術計画 × Art Support Tohoku – Tokyo …… 75

Ⅱ　管理運営…… 76
　１．組織・職員…… 76
　２．予　　算…… 77
　３．運営協議会の開催…… 78
　　（１）福島県立博物館運営協議会 …… 78
Ⅲ　利用状況…… 79
　１．入館者統計…… 79
　　（１）平成27年度入館者統計 …… 79
　　（２）入館者の推移 …… 80
　　（３）企画展入館者統計 …… 82
　２．出版物販売…… 85
Ⅳ　法　　規…… 87
　福島県立博物館条例…… 87
　福島県立博物館運営協議会条例…… 88
　福島県立博物館条例施行規則…… 88
　福島県立博物館組織規則…… 91
　福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則…… 92
　福島県立博物館収集展示委員会設置要綱…… 92
　福島県立博物館資料所在調査要領…… 92
　福島県立博物館資料調査員設置要綱…… 93
　福島県立博物館友の会規約…… 93
Ⅴ　施設の概要…… 95
　１．建築概要…… 95
　２．設　　備…… 95
　３．平面図・各室一覧…… 96
　４．施設の修理・改築…… 98
　５．沿　　革…… 99
Ⅵ　利用案内…… 101

福島県立博物館の使命

平成19年７月公表　平成25年４月改正　平成26年６月改正　平成28年３月改正

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動を行ってきました。そして、平成19年には、新しい時代の博物館として目指すべき目標を「使命」としてとりまとめ、その内容を公表しました。そこには、歴史・自然に関する資料の収集・保存・調査研究・活用という博物館の基本的な使命を核として、それらを実践するための活動指針が明示されていますが、平成23年３月に発生した東日本大震災以降、従来の博物館活動に加え、新たな視点に立った活動が不可欠になったと考えられることから、ここに改めて博物館の「使命」をとりまとめました。ついては、当館の社会に対する責務を明確にするとともに、皆さんに博物館活動について理解を深めていただくため、その内容を公表します。

目　標

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

また、人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にする楽しい環境を整えます。

現在、特に浜通り地域では、平成23年３月に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故により、これまで地域社会のなかで培われてきた紐帯が崩壊し、未来に継承すべき地域の文化財や伝統文化の保全が困難な情勢となっています。このような危機的状況のなか、福島県立博物館では、地域社会の再生と活性化に向けた取り組みとして、従来から行ってきた博物館活動を継続するとともに、被災地域の関係機関や地域の人々と連携して、震災の資料化と地域内に残された文化財等の調査研究、救出・収集活動および文化的交流活動を行います。そしてそれらの成果をさまざまな形で発信していきます。

これらを基本に、次のような博物館を目指します。

１．ふくしま発見 博物館

ふくしまの文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、ふくしまの魅力を再発見する場とします。そして、地域独特の文化の価値を共に学び、新たな文化を創りだす手助けをします。

２．出会いふれあい 博物館

楽しい時が学ぶ時です。かた苦しくなく、気軽に入れて人と人とが楽しく語り合える博物館を目指します。そのために、居心地がよく、自らが体験でき、楽しさを体感できる空間を演出します。

３．あなたも主役 博物館

博物館を利用するみなさんも主役です。博物館はみなさんからの意見・要望を尊重して運営に活かします。また、友の会の会員やボランティアとして博物館の事業に参加することができます。みなさんと共により良い博物館を目指します。

４．ふくしまを元気に 博物館

東日本大震災によって危機的な状況に陥っている地域の文化・自然遺産を保存し、調査研究するとともに、それらを活用して、地域社会の再生と活性化に向けた新たな取り組みを行います。

活動の指針

目標を達成するため、次のような機能を充実させます。

【専門機能】

１．地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特色を現す歴史・文化遺産および自然史資料を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。また、資料情報をデータベースとして整備し活用します。

２．最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。また、地域の課題であるテーマを設け調査を行い、その

成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

３．来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できます。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、利用者のニーズに応じて、資料についてさらに詳しい情報を準備し提供します。また、未来を担う子供たちにも対応したきめ細やかな学習支援を行います。

【交流機能】

４．楽しめて出会いのある空間の創出

居心地がよく楽しめ、いろいろなことを体験・体感できる博物館を目指します。また、人と人とが出会い、楽しく知的なコミュニケーションのとれる場所を提供します。

５．博物館事業への住民参加

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館の運営に反映させます。また、友の会会員やボランティアの協力を得ながら博物館の事業を推進します。

６．博物館情報の発信と公開

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、展示や講座など館活動の情報を広く県内外に発信するため、積極的な広報活動を行います。

７．地域ネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、市民団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換や共同研究、事業の共同実施を進めます。

８．新しい観光ニーズへの対応

会津という観光地に立地することを踏まえ、地元の市町村や文化・観光施設と連携、共同し、新しいタイプの観光のニーズに対応できるよう努めます。

【運営機能】

９．使命の明示と事業の点検

博物館の使命と目標を社会に明示し、オープンな運営を目指します。目標に向かって計画を立て、常に成果を点検し、目標を達成できるように努めます。

10. 人材の育成と機能的な組織

博物館の使命を達成するため、優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

11. 危機管理

災害の発生に備え、避難・誘導経路や手順を確認するための訓練を毎年実施します。また、博物館資料の保全のため、展示室および収蔵庫の環境を適切に保ちます。

【震災からの復興支援】

12. ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努めます。

13. ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図ります。

14. ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図ります。

【次世代ミュージアム機能】

従来の博物館活動の枠組みを超えた機能の充実を目指して新設した活動の指針です。

15.「震災遺産」の保全による震災の共有と継承

震災が産みだしたモノや震災を示すバショを「震災遺産」と呼び、これらの保全と資料化を通じて、東日本大震災で福島県に起きた多様な出来事を歴史として共有し継承してゆくことを目指します。

16. 新たな文化事業の創出と定着

博物館が蓄積してきた情報・手法・ネットワークなどを基盤に、県内各地域における文化事業の創出を支援し、地域への定着を目指します。

福島県立博物館　第２期中期目標　　目標年度：平成30年度

福島県立博物館では、使命に沿った「活動の指針」に基づき、それぞれに「重点目標」を掲げ、それを平成21年度から25年度までの５年間で達成するための具体的な活動計画（中期目標）を定め、毎年度ごとに実績の評価を行ってきました。この中期目標は平成25年度に最終年度を迎えたため、これまでの実績を精査し、それに基づいて重点目標の見直しを行いました。そして、それを踏まえ、震災からの復興支援と博物館リニューアルの具体化を重要な課題として、新たに平成26年度から30年度までの５年間で達成するための第２期中期目標を策定しました。年間の利用者数については、従来どおり概ね９万人を目指し努力します。

平成27年度はこの計画に沿って事業を実施し、年度終了時に「評価指標」に基づいて実績を評価し、年報やホームページなどで公表します。評価の低かった項目についてはその原因を分析し、事業内容や実施方法を改善し、次年度には設定した指標を達成できるように努めます。利用者のみなさんには引き続き中期目標をご理解いただき、博物館の運営について忌憚のないご意見をいただければと思います。

また平成27年度には、東日本大震災後の館活動をめぐる変化に伴い、新たに始まった震災遺産や文化連携に関するプロジェクトを「活動の指針」の中に位置づけました。さらに、従来の利用者数以外に、職員が館外に出て行ったアウトリーチ事業やプロジェクト等の事業への参加者についても「館外事業利用者数」として把握し、当館の社会的な貢献度をはかる指標の試みとして公表することにしました。

福島県立博物館　第２期中期目標　　目標年度：平成30年度

	平成25年度（実績）	平成26年度（実績）	平成27年度（実績）	平成28年度（目標）	平成29年度（目標）	平成30年度（目標）	説　　明
①館内事業利用者数	109,838	63,739	67,490	90,000	90,000	90,000	常設展・企画展・移動展など展示への入場者、講座・講演会など行事への参加者 ※平成26年度まで「利用者数」
累計利用者数	4,325,720	4,389,459	4,456,949				
②館外事業利用者数１	—	—	1,765				職員の講師派遣・ゲストティーチャーなどアウトリーチ事業への参加者 ※平成27年度から新規
③館外事業利用者数２	—	—	9,881				当館が構成団体になっている組織（実行委員会・協議会など）が主催し、当館職員が主体的に関わった行事などへの参加者 ※平成27年度から新規
②③合計	—	—	11,646				※平成27年度から新規
①②③合計	—	—	79,136				上記①②③を合計したもの ※平成27年度から新規

平成27年度利用者数　79,136人

②③内訳

②館外事業利用者数１　内訳

事　業　名	日　時	団体名	内容ほか	当館担当職員	参加者
学校派遣（ゲストティーチャー）	詳細　別表１				490
館長出前講座	詳細　別表２				536
講師派遣	詳細　別表３				739
					合計 1,765

③館外事業利用者数２　内訳

事　業　名	行　　事	日時	会　　場	当館担当職員	参加者
ふくしま震災遺産保全プロジェクト	詳細　別表４				5,639
はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2015	詳細　別表５				4,069
磐梯山ジオパーク推進事業	地質の日ジオツアー	5月10日	磐梯山噴火記念館他	竹谷陽二郎	25
	ガイド研修フィールド版	3月28日	猪苗代町・磐梯町	竹谷陽二郎	8
ふくしまサイエンスぷらっとフォーム	サイエンス屋台村　県博ブース	11月28日	須賀川市ムシテックワールド	相田優・香内修・猪瀬弘瑛	140
					合計 9,881

別表 1

No.	年	月	日	曜	種別	県	市町村	団体名	区分	員数	学年	科目	分野	内　容	時間	担　当	詳　　細
1	27	5	22	金	ゲスト	福島	田村市	福島県立 船引高等学校	高	120	1	行事	歴史 自然	片曽根山登山	9:30 ～ 11:00	高橋　充 猪瀬弘瑛	山頂にて「片曽根山の成り立ち」、「片曽根三十三観音」について講話
2	27	6	18	木	ゲスト	福島	会津若松市	東山小学校	小	60	6	総合	歴史	会津の偉人～戊辰戦争を経験した人々～	14:00 ～ 14:45	田中伸一	６年生の総合学習「会津から世界へ～見つけよう宝人」大山捨松を中心に
3	27	7	7	火	ゲスト	福島	会津若松市	会津学鳳 中学校	中	14	1	総合	美術	会津の漆器	13:20 ～ 14:20	小林めぐみ	総合的な学習の時間「会津の調べ学習」
4	27	9	18	金	ゲスト	福島	会津若松市	謹教小学校	小	81	6	総合	歴史	会津の偉人～戊辰戦争を経験した人々～	9:30 ～ 10:15	田中伸一	会津っ子人材育成プロジェクトとして、会津出身で活躍した人々について学ぶ
5	27	10	20	火	ゲスト	福島	会津若松市	会津慈光 こども園	幼	85	年長	行事	自然	環境教育－自然に学ぶ	10:15 ～ 10:45	相田　優	東山浄水場前の安山岩「柱状節理」を見ながら、火山活動によって出来た岩について学ぶ
6	27	10	21	水	ゲスト	福島	会津若松市	慈光 第二幼稚園	幼	50	年長	行事	自然	環境教育－自然に学ぶ	10:15 ～ 10:45	相田　優	東山浄水場前の安山岩「柱状節理」を見ながら、火山活動によって出来た岩について学ぶ
7	27	10	29	木	ゲスト	福島	喜多方市	耶麻支部 社会科部会	中	30	1	社会	歴史	武士の台頭と鎌倉幕府	13:40 ～ 16:45	高橋　充	研究授業とその後の研究協議会にて、授業内容、学校と博物館の連携の在り方について助言
8	27	11	7	土	ゲスト	福島	会津若松市	ザベリオ学園 小学校	小	50	全学年	行事	考古	火おこし体験	9:20 ～ 11:30	森　幸彦	サタデースクール講師として火おこしの方法の説明と火おこし体験の指導

受講者総数	490	(参考) 平成26年度	773
昨年度比	-283		

別表 2

No.	年	月	日	曜	種別	県	市町村	団体名	区分	員数	学年	内容
1	27	6	5	金	ゲスト	福島	会津若松市	福島県立会津高等学校	高	280	2	木を伐る人／植える人
2	27	9	18	金	ゲスト	福島	新地町	福島県立新地高等学校	高	58	1	宮崎駿アニメを素材に東北・日本文化を考える
3	27	10	2	金	ゲスト	福島	伊達市	伊達市霊山中央公民館	一般	150		震災からの地域作り
4	27	11	13	金	ゲスト	福島	平田村	福島県立小野高等学校平田校	高	48	全	宮崎駿アニメを素材に東北・日本文化を考える

受講者総数	536

別表 3

No.	年	月	日	曜	種別	県	市町村	団体名	区分	員数	対象	形式	分野	内容	担当
1	27	5	31	日	講師依頼	福島	会津若松市	慶山自主防災会	一般	20	参加者	調査	自然	地質調査・説明会	香内　修
2	27	6	4	木	講師依頼	福島	福島市	福島県自然史博物館 設立推進協議会	一般	80	参加者	講演	自然	シンポジウム「国立自然史博物館をふくしまに！」	竹谷陽二郎
3	27	7	3	金	講師依頼	福島	会津美里町	会津美里町公民館 「いさすみ学園」	公	30	受講者	講演	歴史	会津の戦国武将	高橋　充
4	27	8	30	日	講師依頼	福島	大玉村	大玉村教育委員会	一般	30	受講者	講演	考古	ふくしまの弥生時代とおおたま下高野遺跡	田中　敏
5	27	9	5	土	講師依頼	福島	福島市	桜の聖母大学 生涯学習センター	一般	36	受講者	講演	民俗	会津の観音さまと安産への祈り －女性の暮らしと観音信仰－	内山大介
6	27	10	3	土	講師依頼	福島	福島市	桜の聖母大学 生涯学習センター	一般	33	受講者	講演	民俗	観音堂の吊るし飾り －酒田の傘福と会津のカサボコ－	内山大介
7	27	10	16	金	講師依頼	福島	福島市	社会福祉法人 恩賜財団済生会	一般	150	参加者	講演	歴史	社会福祉の母　瓜生岩子	田中伸一
8	27	10	22	木	講師依頼	福島	会津若松市	会津若松市 生涯学習センター	公	35	受講者	講座	歴史	戦国武将：葦名氏・伊達氏・蒲生氏・上杉氏	高橋　充
9	27	11	21	土	講師依頼	福島	猪苗代町	猪苗代町教育委員会	一般	150	参加者	講演	歴史	斗南藩とその史跡	阿部綾子
10	27	11	29	日	講師依頼	福島	会津若松市	会津若松市北公民館	公	30	受講者	講演	民俗	山間部の民俗「福島市茂庭の民俗」	二瓶浩伸
11	27	12	13	日	講師依頼	新潟	新潟市	新潟大学災害・ 復興科学研究所	一般	40	参加者	講演	ふくしま震災遺産 保全プロジェクト	シンポジウム「震災資料・資料保存・災害史研究の融合をめざして」	高橋　満
12	27	12	14	月	講師依頼	新潟	長岡市	新潟大学災害・ 復興科学研究所	一般	40	参加者	講演	ふくしま震災遺産 保全プロジェクト	シンポジウム「震災資料・資料保存・災害史研究の融合をめざして」	高橋　満
13	27	12	17	木	講師依頼	福島	会津若松市	会津若松市 生涯学習センター	公	35	受講者	講座	歴史	会津藩の歴史	阿部綾子
14	28	2	24	水	講師依頼	福島	会津美里町	会津美里町本郷公民館	一般	30	参加者	講演	歴史	江戸時代の会津人の旅 －会津三十三観音と相馬野馬追－	高橋　充

受講者総数	739	(参考) 平成26年度	457
昨年度比	282		

別表 4

事　　業	プログラム	開催日・回数等	人数	備　　考
学校連携	震災遺産教育活用研修会	7月31日	11	県立博物館利用指導者研修会と合同開催
先進事例調査	磐梯山ジオパーク研修	8月23日	8	いわき市田人地域協議会参加
郡山セッション	震災遺産展示会	9月 5日	78	於　郡山市中央公民館
	展示解説会	9月 5日	10	
学校連携	震災遺産見学会	9月11日	5	若松商高教員・生徒
	被災地視察	9月26日	4	
福島大学セッション	震災遺産展示会	9月26日-(12日)	371	
	シンポジウム	9月26日	40	
	解説会	5回	86	
活断層　関連事業	見学者	10月13日-(5日間)	67	
	体験参加者	10月13日-(5日間)	65	
学校連携	震災遺産展示会	11月 3日	集計なし	県立若松商高文化祭
いわきセッション	震災遺産展示会	12月5日-(15日間)	4,791	於　いわき市石炭・化石館
	解説会	4回	37	
	講演会	12月12日	43	
	見学会	12月13日	23	
		合計	5,639	
会津セッション ※館内事業利用者数としてカウント	展示会	2月11日-(35日間)	4,450	於　福島県立博物館
	展示解説	15回	164	
	MR体験	会期中	1,531	
	トークセッション	2月18日	95	
	シンポジウム	3月19日	125	
			計 12,004	

別表 5

No.	開催月日	プロジェクトNo.	プロジェクト名	イベント名	来場数 *概数を含む	備　　考
1	6月13日	8	グランド・ラウンドテーブル	グランド・ラウンドテーブルいわき 第1部	19	
2	6月13日	8	グランド・ラウンドテーブル	グランド・ラウンドテーブルいわき 第2部	17	
3	6月14日	8	グランド・ラウンドテーブル	グランド・ラウンドテーブルいわき 第3部	18	
4	6月14日	8	グランド・ラウンドテーブル	グランド・ラウンドテーブルいわき 第4部	17	
5	6月25日	1-4	いわき七夕プロジェクト	復興公営住宅七夕WS　1	25	
6	7月 4日	4-1	いわき学校プロジェクト	好間土曜学校1「光の鳥と好間の空」	30	
7	7月 4日	1-4	いわき七夕プロジェクト	七夕平ワークショップ1	20	
8	7月 5日	1-4	いわき七夕プロジェクト	七夕平ワークショップ2	20	
9	7月 6日	1-4	いわき七夕プロジェクト	復興公営住宅七夕WS 2	25	
10	7月10日	4-1	いわき学校プロジェクト	豊間ことばの学校1 「くじ引きドローイング」	27	
11	7月11日	1-4	いわき七夕プロジェクト	七夕平ワークショップ3	20	
12	7月13日	1-4	いわき七夕プロジェクト	復興公営住宅七夕WS 3	25	
13	7月19日	1-4	いわき七夕プロジェクト	七夕平ワークショップ4	20	
14	7月26日	1-4	いわき七夕プロジェクト	七夕平ワークショップ5	20	
15	7月31日	9	発信事業	成果展大町ギャラリートーク	12	
16	7月31日	9	発信事業	成果展大町	189	～8月23日まで
17	8月 1日	6-3	成果展	写真美術館　成果展大町	261	～8月24日まで
18	8月 2日	1-4	いわき七夕プロジェクト	七夕平ワークショップ6	20	
19	8月24日	9	発信事業	写真美術館 成果展大町トーク	25	主催：大町リノプロ
20	8月27日	2	北を学び知るプロジェクト	北を学ぶエクスカーション	17	1日目
21	8月27日	2	北を学び知るプロジェクト	北を学ぶシンポジウム喜多方	19	

No.	開催月日	プロジェクトNo.	プロジェクト名	イベント名	来場数 *概数を含む	備　　考
22	8月28日	2	北を学び知るプロジェクト	北を学ぶエクスカーション	12	2日目
23	8月28日	2	北を学び知るプロジェクト	北を学ぶトークセッション昭和村	28	
24	10月10日	4-1	いわき学校プロジェクト	好間土曜学校2「テトテトハアト葉っぱの足あとをお皿に残そう」	20	
25	10月17日	5	岡部昌生フロッタージュプロジェクト	プロジェクト成果展福島	150	～10月30日まで
26	10月18日	5	岡部昌生フロッタージュプロジェクト	トークセッション被曝樹/被爆樹	22	
27	10月24日	5	岡部昌生フロッタージュプロジェクト	プロジェクト成果展いわき	480	～11月27日まで
28	10月30日	4-1	いわき学校プロジェクト	豊間ことばの学校2「ことばとカラダ感じて動いてみんなの物語を作ろう」	30	
29	11月 6日	4-1	いわき学校プロジェクト	豊間ことばの学校3「ことばとカラダ感じて動いてみんなの物語を作ろう」	30	
30	11月 7日	4-1	いわき学校プロジェクト	好間土曜学校3「墨流し～夏井川水系の恵を和紙で表現する～」	30	
31	11月27日	8	グランド・ラウンドテーブル	グランド・ラウンドテーブル南相馬	14	1日目
32	11月28日	8	グランド・ラウンドテーブル	花を生けるワークショップ	25	
33	11月28日	8	グランド・ラウンドテーブル	グランド・ラウンドテーブル南相馬	33	2日目
34	12月11日	4-1	いわき学校プロジェクト	豊間ことばの学校4「音楽で何が見える？音を描こう」	30	
35	12月12日	4-1	いわき学校プロジェクト	好間土曜学校4「プリオルガノンの作り方」	30	
36	12月18日	4-1	いわき学校プロジェクト	豊間ことばの学校5「みてみてはなそう！絵の世界」	30	
37	12月20日	7	「黒塚」発信プロジェクト	対談　大野慶人×渡邊晃一	10	
38	12月21日	7	「黒塚」発信プロジェクト	公演　kurozuka黒と光	10	
39	1月 9日	9	発信事業	成果展静岡	265	～1月22日まで
40	1月10日	9	発信事業	トークイベント福島×アート×静岡	55	
41	1月22日	9	発信事業	成果展京都	500	～1月31日まで
42	1月22日	9	発信事業	ギャラリートーク	10	
43	1月22日	9	発信事業	クロストーク1「福島の記憶の記録」	22	
44	1月23日	9	発信事業	クロストーク2「原発30㎞圏内に咲く花たちの言葉」	25	
45	1月24日	9	発信事業	クロストーク3「福島の奥へ」	25	
46	1月30日	4-1	いわき学校プロジェクト	好間土曜学校5「実物大 フタバサウルスの海をつくろう」	30	
47	1月30日	9	発信事業	クロストーク4「Off grid dialogue」	25	
48	1月31日	9	発信事業	クロストーク5「福島後～表現者にとっての3.11」	25	
49	2月 3日	1-3	相馬野馬追の記憶プロジェクト	野馬追ダイアログ	220	～2月12日まで
50	2月 8日	6-3	成果展	写真美術館 成果展福島	140	～2月21日まで
51	2月11日	1-3	相馬野馬追の記憶プロジェクト	トークイベント小高ダイアログ	30	
52	2月11日	6-3	成果展	山で生きる	273	～2月21日まで
53	2月13日	6-3	成果展	移動式赤阪写真館	36	～2月14日まで
54	2月18日	9	発信事業	成果展浜松	289	～2月28日まで
55	2月20日	6-3	成果展	移動式赤阪写真館	70	～2月21日まで
56	2月22日	9	発信事業	トークセッション黒塚	140	
57	2月28日	9	発信事業	成果展浜松トーク	24	
58	3月 6日	8	グランド・ラウンドテーブル	クロージングフォーラム	35	
					計 4,069	

達成度の記入方法　◎：達成　○：ほぼ達成　△：一部達成　×：達成できず

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	30年度目標	27年度評価指標	27年度実績	達成度
専門機能	1．地域の文化遺産の収集と継承	①博物館資料の系統的収集とデータベース化の推進	収集方針に沿って系統的に資料を収集し、受け入れた資料の整理・登録を行う。	5年間で収蔵資料5,000件の整理登録達成	各分野の整理計画に基づき実施。5分野合計で1,000件の整理・登録	考古：169件、民俗：203件、歴史：4,165件、美術：5件、自然：228件、合計：4,770件の資料登録を行った。	◎
		②二次資料の整理とデータベース化の促進	司書を継続雇用し、学芸員の研究に資するため、新規収蔵図書の整理・登録を進める。また、5年後までに既存図書の未修正データの修正を完成する。さらに、増加する図書の収蔵スペースを確保するための計画を立てる。	5年後までに既存図書の未修正データ4,394件の修正完了。	既存図書のデータ900件の修正を行う。	既存図書のデータ1,022件の修正を行った。	◎
		③博物館資料に関する情報の公開	平成25年度において資料管理システムの更新が完了したので、収蔵資料情報の確認と修正が済んだデータから順次インターネットで公開する。	5年間で25,000件のデータをインターネットで公開する。	5分野合計で5,000件のデータをインターネットで追加公開する。	考古：1,309件、民俗：1,364件、歴史：1,277件、美術：0件、自然：2,905件、合計：6,855件の資料データを追加公開した。	◎
		④資料の安全な保存	収蔵資料数の増加に伴い収蔵スペースの確保が課題となってきたため、収蔵庫内の再整理を行うとともに、関係機関と協議して、新たな収蔵場所確保に努める。	資料の新たな収蔵場所を確保する。	収蔵庫内の整理を計画的に進める。第2収蔵庫の棚増設について検討を進めるとともに、予算要求の準備を行う。	収蔵庫内の整理を各分野ごとに実施。第2収蔵庫については棚増設の仕様を検討し、見積書を徴取。次年度当初予算要求をするが、査定され事業化ならず。	○
		⑤新たな視点に立ったIPM（総合的有害生物管理）の導入	資料の生物被害を防止するために使用する化学物質の排出量を最小限に抑える方策を具体化する。	IPM活動の観点から、収蔵庫の定期清掃など、環境整備を行う体制を確立する。	昨年度作成した試案に基づいて、第1、2、3、4、6収蔵庫の清掃を実施する。	IPM活動に関する職員講習を実施した。資料整理業務で実施している清掃を、IPM活動の実績とした。環境調査の結果に基づき、一部の収蔵庫の清掃方法を改善した。	○
	2．最新の研究による資料価値の発見	①連携した研究活動の推進	研究活動の充実を図るため、大学や文化施設、民間の研究団体等との共同研究を進める。また、それらの研究成果をさまざまな場で公開する。	共同研究の継続実施と研究成果の公開	引き続き、さまざまな機関との共同研究を実施し、その成果を館内外で公開する。	国立歴史民俗博物館や福島大学・明治大学など5件の共同研究に当館学芸員が加わった。考古分野の学芸員が古墳時代の研究で、報告書を作成して成果を公開した。	◎
		②多様な外部資金の確保	調査研究事業などの博物館事業を円滑に推進するため、引き続き財源確保に努める一方、外部助成資金の導入など新たな財源の確保を図る。	調査研究事業などの博物館活動を円滑に推進するために、新たな資金確保のシステムを構築する。	引き続き情報収集を行うとともに、博物館活動として円滑に推進するための体制づくりに努める	館として研究助成を得られる体制はできなかった。学芸員が、科学研究費補助金（奨励研究）2件を受けた。	△
	3．来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援	①リニューアルの推進	次世代博物館のあるべき姿を検討するため、新設館や先進的な取り組みをしている他館の状況を現地調査する。そして、その結果などを踏まえ、後半期にはリニューアルに関わる検討委員会を設置し、基本構想および基本計画の策定に着手する。	博物館リニューアル基本計画の策定	当館の現状把握と課題の抽出を行い、リニューアルによって実現すべき当館の役割、目指す姿を検討、リニューアル骨子としてまとめる。その骨子に応じて必要な他館の参照例を調査する。	当館の現状把握と課題の抽出に着手したが、取りまとめるに至らなかった。把握できた課題に応じて、他館視察（先進地視察）を実施し、館内での報告を行った。	△
		②誰にでもわかりやすい常設展の展開	学校で学ぶ子供たちがより利用しやすくなるように、展示室内の表示の工夫や解説の改善を展示室ごとに順次実施してゆく。さらに、外国語による解説の充実に向けて検討を進める。	すべての展示室において、学校団体向けの表示や解説の改善を完了させる。	総合展示室における表示の工夫や解説の改善を進めるとともに、外国語による解説の充実に向けた年次計画を策定する。	展示室の各所に「おすすめ」展示の表示を設け、解説改善の試行を行った。外国語による解説の充実は、予算措置を含めた年次計画策定までには至らなかった。	△
		③魅力あふれる企画展・特集展の開催	福島の復興や再生に寄与するテーマ・内容を優先し、時間をかけて準備するオリジナル企画と、タイムリーな企画などをバランスよく組み合わせて、企画展・特集展を計画的に実施する。	バラエティーに富んだ企画展・特集展を計画的に実施する。	オリジナル企画による企画展や特集展を最低1回実施	オリジナル企画展として「被災地からの考古学1」「相馬中村藩の人びと」、特集展として「震災遺産を考える」を実施。	◎
		④来館者とのコミュニケーションを大切にした展示解説の推進	来館者と職員が直接に触れあい、コミュニケーションを図ることを重視した展示解説を今後も心がける。	きめ細かな展示解説のシステムを維持するため、展示解説員の人員を確保する。	解説員による「やさしい展示解説」や「通し解説」の実施	「やさしい展示解説」を40回（参加者112名）実施し、「通し解説」は来館者の要望に応じて実施した。対話型解説システムの試行を行い、28年度の本格実施に備えた。	◎
		⑤継続性のある講座の開催	講座の体系化とストーリー性をもたせたシリーズ化を引き続き進め、利用者の継続参加を促進する。また、企画展に合わせたタイムリーな連続講座の開催も試みる。	生涯学習に効果的な魅力ある講座・講演会を継続開催する。	次年度へ向けて、魅力的な講座・講演会を企画する。	講座等開催回数は116回、参加者は7,295人。参加者の前年比は120％。今年度より主に高校生を対象にした館長出前講座を実施し、4回、536人が受講した。学芸員が館外で講義するゲストティーチャーは8回490名に対して行った。企画展・特集展関連事業は昨年の19回から27回と大幅に増やした。	◎

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	30年度目標	27年度評価指標	27年度実績	達成度
交流機能	4．楽しめて出会いのある空間の創出	①利用者の快適性と利便性の促進	ミュージアムショップを友の会を活用して設置することは困難な状況のため、その運営のあり方をリニューアルに向けた計画案を策定するなかで検討する。	ミュージアムショップの設置を目指す。	ミュージアムショップの運営のあり方について、再検討する。	ミュージアムショップの運営方法、グッズ開発について検討した。先進地視察でも情報収集を行った。	△
		②体験型学習機会の促進	新たな体験学習メニューを開発し、学校団体の選択肢を増やすとともに、内容を充実させる。学校との連携強化を図るため、ワークショップなどの体験型学習を効果的に取り入れたイベントを企画する。	学校との連携を強化し、利活用を容易にする。	現在行っていない分野の良質かつ固有の新たな体験メニューの開発をめざす。	昔の暦を使った講座などを実施して試行したが、新しいメニューの開発までには至らなかった。体験学習メニューの実施回数は27回、参加者は670名であった（前年度は29回、989名）。	△
	5．博物館事業への住民参加	①各種団体との連携促進	NPOなど地域の文化団体や各種学会などからの展示会や講演会の開催依頼には、博物館活動の趣旨に沿うことを条件に積極的に対応する。また、共同企画を立ち上げるなど、事業の連携を進める。	共催事業などの受け入れを行う。	共催事業、後援事業は活動趣旨精査の上で積極的に推進する。ミュージアムイベントなどで、文化団体との連携を推進する。	共催事業を11回、後援事業を７回実施した。延べ参加者は2,991人と多く、講座参加者全体数の40％を占める。前年比160％と増加した。	◎
		②ボランティアの受入	資料整理を中心としたボランティアの受け入れを推進するとともに、今後のボランティアのあり方について検討する。	自然資料整理ボランティア（通年）、古文書整理ボランティア（月１回）を中心としたボランティアの受け入れと活動支援	自然資料整理ボランティア（通年）、古文書整理ボランティア（月1回程度）を中心としたボランティアの受け入れと活動支援。	自然資料整理ボランティアは、鈴木敬治氏寄贈資料中の調査露頭写真の整理（延べ31日）、個人寄贈化石標本の整理（延べ10日）実施。古文書整理ボランティアは、12名のボランティアによる館蔵古文書の整理を月１回実施。民俗資料整理ボランティアは、館蔵民具および山口弥一郎関連資料の整理を毎月各１回実施。	◎
	6．博物館情報の発信と公開	①効果的な広報の展開	外部の各種メディアおよび学校や社会教育施設への情報提供を継続する。また、ホームページによる広報も継続するとともに、新しい広報媒体も活用する。	ホームページによる広報の強化を図るとともに、新しい広報媒体を活用する。	広報対象者に即した効果的広報内容の集約・検討を行うため、館内での情報検討・共有の機会・場を定期的に設ける。	班内での検討・試行の結果、送付物の集約・効率化を行った。ホームページとリンクしたフェースブックの開設準備を行った。館内での情報検討の場作りは達成できていない。	△
	7．地域ネットワークの拠点	①市町村の関係機関との連携促進	調査研究・展示・学習支援・広報活動などの場をとおして、県内の社会教育・生涯学習施設などとの連携をさらに促進させて事業を展開する。	県内市町村関係機関との連携事業を計画的に実施する。	引き続き、県内の学校教育・社会教育・生涯学習担当者を対象とした研修会などの連携事業を実施する。移動展実施に努める。	博物館利用指導者研修会を実施し、震災資料を用いた防災教育の可能性を連携して模索する機会とした。移動展は三春町歴史民俗資料館・いわき市考古資料館・南相馬市博物館・福島県立図書館で実施した。	◎
	8．新しい観光ニーズへの対応	①観光集客力の回復	東日本大震災以降低迷が続いている学校団体による学習旅行件数を回復させるため、また、新たな地域からの集客数増加を目指すため、県の関係機関や観光事業団体とも連携して、効果的な広報のあり方を検討する。	学習旅行などの観光集客力の回復と新たな地域からの集客数の増加を目指す。	紙媒体郵送による現在の広報手段を点検するためのアンケートを行い、各学校・公民館のニーズに合致した情報提供のメディアを開発し実施する。	紙媒体整理・メディア開発を優先して行ったため、アンケートは実施しなかった。	△
運営機能	9．使命の明示と事業の点検	①使命・目標の策定	使命に基づき、平成30年度を目標年度とした中期目標を作成する。目標はその達成度などから評価・点検を毎年行い、それをもとに事業計画の修正を行うとともに、評価・点検の結果を年報やホームページで公表する。	第２期中期目標に基づいた評価・点検の実施と５年間の総括	平成26年度の達成状況を年報・ホームページで公表する。	平成26年度の達成状況を年報・ホームページで公表した。また使命の内容の一部見直しを行った。	◎
		②利用者ニーズの把握と対応	運営・設備・展示・講座・イベント・広報効果等に関する各種アンケートや統計調査を実施し、結果を分析することで、博物館活動における課題や利用者のニーズを把握する。その結果は広報活動や各種事業の企画立案に反映させる。	各種アンケートの結果を分析して、博物館活動の課題および利用者ニーズを的確に把握する。そして、それらに対する具体的な対応状況をホームページで公表する。利用者満足度80％以上達成の維持。	できるだけ多くの機会にアンケート調査を実施し、それらの集計結果を利用者の声として公表する方策について検討する。利用者満足度80％以上を達成する。	企画展入館者や講演会参加者に対してアンケートを実施し、満足度は75～85％であった。さらに詳しい集計や分析は行えず、利用者の声を公表することもできなかった。	×
	10. 人材の育成と機能的な組織	①学芸員の専門性の重視	各種学会や研修会に積極的に参加し、新しい博物館活動を進めていく上で学芸員に求められる多様な能力の向上に努める。	各種学会や研修会に参加し、その成果を学芸員全体で共有するとともに、博物館業務へも効果的に反映させる。	各種学会や研修会への参加（５回以上）と館内での報告会の開催	考古・自然・保存等の学会５回、その他各種の研修・研修会等に参加した。報告会は行わなかったが、館職員で共有すべき内容は報告書などを配布して周知をはかった。	△
	11. 危機管理	①来館者の安全確保	火災や地震に備えて避難手順や救命措置を確認するため、各種訓練を実施する。	防災訓練およびAED研修の年１回実施	大規模災害にも対処できる組織作り及び対処訓練を抜かりなく実践できるよう周知・徹底を図る。県地域防災計画に基づいてより実戦的な避難応急対応訓練の実施を行う。	自衛震災訓練として、平成27年10月20日に、実施した。地震対応訓練：緊急地震速報訓練キットの活用。避難訓練：地震によって発生した火災の避難誘導等訓練。参加人員は38名	○

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	30年度目標	27年度評価指標	27年度実績	達成度
運営機能	11. 危機管理	②施設の安全管理	建築物および設備の劣化状況を、建築基準法第12条に基づき定期的に点検する。	保守管理の徹底による施設の安全性確保に努める。	劣化状況や施設の重要性により、修繕の優先順位を決め、施設保全計画を早急に立てながら、修繕工事を計画的に実施していく。特に、財政当局に対しては、この施設保全計画に基づいて、適正に予算措置がなされるよう機会あるごとに要望していくこととしたい。	施設. 設備等の調査を実施し、更新. 修繕等について、法規制、劣化の常態、緊急性等を勘案し、年次別に整理した長期保全計画を策定し、平成28年度の予算要求から活用している。	○
震災からの復興支援	12. ふくしまの宝の発掘と保全	①被災文化財等の救出と保全	県や市町村の関係機関、文化施設、大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、当該地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・研究し、その価値を明らかにすることに努める。	博物館活動の一環として、被災地域から救出・収集された文化財や自然史資料の保全を図るとともに、それらに関する調査研究の成果を報告書としてまとめる。	関係機関と連携して、被災地からの文化財レスキュー活動を継続するとともに、新たな視点に立った被災資料収集保全活動を行う。	引き続き「福島県被災文化財等救援本部」等に参画して文化財レスキュー事業を行った。対応のべ日数19日、人数31人	◎
	13. ふくしまの宝の公開と活用	①救出文化財等に関する情報公開	救出および新たに収集した文化財等やそれらに関する研究成果を、さまざまな形で発信する。関係機関からの協力を得ながら、被災地域から救出された資料を中心に、常設展などで公開する。	被災地域から救出・収集された文化財や自然史資料を常設展資料の重要な核と位置づけ、新たな展示手法を駆使して公開する。	被災地域から救出・収集された文化財・自然資料等を展示公開する機会をできるだけ多く設ける。併せて文化財レスキューの活動も紹介する。	企画展・移動展「被災地からの考古学１」、企画展「相馬中村藩の人びと」、テーマ展「ふるさとの考古資料６【飯舘村】遺跡探訪」において展示公開を行った。	○
	14. ふくしまの再生と活性化	①文化資源を活用した各種事業の開催および支援	県や市町村の関係機関、各種文化団体等と連携し、地域の復興と再生、活性化に向けたさまざまな文化事業を実施するとともに、各種団体が企画する文化事業への支援も行う。特に被災地域の歴史・文化活動への支援を充実させる。	館内外において、地域の復興と再生、活性化に向けた各種支援事業を実施する。	館内外において復興支援を目的とした各種事業を継続して実施する。	会津地方振興局との共催で復興応援パートナー事業「3.11ふくしま復興への想いを込めて2016from会津」を実施し、864人の来館者があった。	◎
次世代ミュージアム機能	15.「震災遺産」の保全による震災の共有と継承	①震災遺産の保全と活用のための基盤整備	東日本大震災で生じた震災遺産を歴史資料及び博物館資料と位置付けるため、総合博物館の特色を活かした横断的な組織「震災遺産」分野を構築し、調査・保全および普及事業を実施する。	核となる職員を配置した「震災遺産」分野を確立し組織的な事業展開を実施する。	ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会に参画し、調査収集・普及事業を行う。調査収集においては「原子力災害」・「避難」・「活断層」関連資料の保全に重点を置く。また博物館活動における「震災遺産」分野の位置づけを検討する。	震災遺産の調査保全活動を浜通りだけでなく、中通り・会津の各地域で展開。「避難」や「原子力災害」などの重点目標に関わる調査保全を実施。普及事業では県内各地で展示を中心としたプログラムを開催。体験型保全事業として活断層標本の作製を実施し、学校連携事業では高校文化祭に協力した。また震災遺産の資料的位置づけの検討を実施した。	◎
	16. 新たな文化事業の創出と定着	①県内各地域における文化事業の創出支援、運営の協働	博物館が蓄積してきた情報、手法、ネットワークを基盤に、「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」等を効果的に活用し、県内各地域で新たな文化事業を創出・定着させる。	創出した事業を地域に定着させ、実施団体や事務局によって安定的に運営されるようにする。	「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」等の活動への参画・協働を通して文化ネットワークの強化をはかる。	はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト、森のはこ舟アートプロジェクト等の成果を活用し、喜多方市・柳津町・南相馬市の各自治体主催、北塩原村・猪苗代町の団体主催文化事業の創出・運営を支援した。	◎

●平成27年度総評

本年度は、目標達成を平成30年度に設定した第２期中期目標の２年目である。

○利用者数について、館内事業利用者数は、前年度とほぼ変わらず。今年度から集計・公表しているアウトリーチ事業や館外でプロジェクト事業への参加者数（「館外事業利用者数」）は11,000人を超えている。ただし、これを加えても利用者数の目標90,000人には至らなかった。

○「専門機能」では、２－②「多様な外部資金の確保」、３－①「リニューアルの推進」②「誰にでもわかりやすい常設展の展開」の３項目が「一部達成」にとどまり、課題を残した。この３項目は、前年度も「一部達成」もしくは「達成できず」であり懸案事項となっている。１－①②データベース化の推進は前年度より改善された。

○「交流機能」では、４－①「利用者の快適性と利便性の促進」②「体験型学習機会の促進」、６－①「効果的な広報の展開」、８－①「観光集客力の回復」が「一部達成」にとどまった。ミュージアムショップや広報手段については、以前から検討課題となったままで、なかなか進展しない。

○「運営機能」では、９－②「利用者ニーズの把握と対応」が「達成できず」となった。アンケートについても、実施方法や活用方法が課題となっている。

○「震災からの復興支援」、今年度から新設した「次世代ミュージアム機能」については達成度が高かった。

平成28年度は、開館30周年に当たり、通常の年とはちがった事業が展開される予定である。事業の展開と合わせて、上記の課題を含めて30年間改善されずに積み残されてきた問題をすべて洗い出し、リニューアルに結びつけてゆく作業を具体的に進めてゆかなければならない。

Ⅰ　事業の概要

1. 資料収集事業

（1）収集展示委員会

ア．収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会　委員名簿

氏　　名	役　　職　　名	備考
有賀　祥隆	元東北大学大学院文学研科教授	委員長
野沢　謙治	郡山女子大学短期大学部文化学科教授	副委員長
入間田宣夫	一関市博物館館長	委　員
大石　雅之	岩手県立博物館研究協力員、 東北大学総合学術博物館協力研究員	委　員
岡田　清一	東北福祉大学教授	委　員
佐々木利和	北海道大学アイヌ・ 先住民研究センター客員教授	委　員
設楽　博己	東京大学大学院人文社会系研究科教授	委　員
原田　一敏	東京藝術大学大学美術館教授	委　員
三上　喜孝	国立歴史民俗博物館准教授	委　員
村川　友彦	福島県史学会会長、 元福島県歴史資料館課長	委　員
柳田　俊雄	東北大学名誉教授、 東北大学総合学術博物館協力研究員	委　員
玉川　一郎	福島県考古学会長	委　員

イ．会　議

平成28年２月４日(木)

議題

①平成27年度事業の実施概要について
②平成28年度事業計画について
③平成28年度の企画展等について
④開館30周年記念事業について
⑤その他

（2）受贈・受託

ア．歴史資料

（ア）受　贈

板かるた等　10件　個人
板かるた（箱入）　1件　個人
絵はがき　118件　個人
会府世稿・蘆名家記録極楽寺本・暦　91件　個人
小学筆算例題　巻之上　1件　個人
刀（無銘）ほか　2件　個人
本郷焼壷ほか　8件　個人
青い目の人形・稚児人形・人形ケース　3件　個人
事変勃発前団入殖後の略歴ほか　2件　個人
石井研堂収集資料「皇室関係」ほか　104件　個人
石井研堂収集資料「天 翻刻 15枚」　15件　個人

（イ）受　託

御家中面々御救金一件書付　1件　個人

イ．美術資料

（ア）受　贈

桑漆絵重箱ほか　20件　個人
会津絵長手盆ほか　125件　個人
佐藤容斎筆「雛飾図」　1件　個人

（イ）受　託

日乃出図ほか　8件　個人
坂内文石筆　野宴図ほか　16件　個人
黒塗菊唐草蒔絵絵皿ほか　2件　個人
浦上春琴「山水図」　1件　個人
浦上春琴「白衣観音図」ほか　5件　個人

ウ．民俗資料

（ア）受　贈

こけしおよび関連資料　104件　個人
パラシュート生地のコート　1件　個人
踏み俵ほか　23件　個人
笹野一刀彫（お鷹ぽっぽ）　1件　個人
赤子頭巾・着物・襦袢・脚絆　4件　個人
筵織り機・脛巾・脛巾織りほか　6件　個人
ハケゴ　1件　個人
手動式洗濯機　1件　個人
婚礼儀式順序並二役付ほか　2件　個人
火鉢　1件　個人

エ．考古資料

（ア）受　贈

磨製石斧ほか　10件　個人

オ．自然資料

（ア）受　贈

栃窪層産植物化石ほか一式　1件　個人
現世貝類標本ほか　92件　個人
国内産化石標本　17件　個人
米国ワイオミング州産魚類化石　1件　個人

（3）購　入

ア．考古資料

山王遺跡出土題箋軸木簡（レプリカ）　1件

イ．自然資料

エディアカラ生物化石ほか　14件

ウ．図書資料

（ア）一般図書

歴史分野13冊、民俗分野 23冊、
美術分野 3冊、自然分野100冊、
保存分野10冊　　計149冊

（イ）定期刊行物

定期刊行物リスト　（平成28年３月31日現在）

	定期購読雑誌	分野
1	考古学研究	考古
2	宗教研究	民俗
3	ナショナルジオグラフィック	共通
4	第四紀研究	自然
5	ヒストリア	歴史
6	考古学雑誌	考古
7	日本民俗学	民俗
8	信濃	共通
9	ミュゼ	共通
10	史林	共通
11	史学雑誌	歴史
12	歴史評論	歴史
13	地方史研究	歴史
14	日本史研究	歴史
15	日本歴史	歴史
16	歴史学研究	歴史
17	仏教芸術	美術
18	美術手帖	美術
19	芸術新潮	美術
20	国華	美術
21	古代文化	考古
22	文化財発掘出土情報	考古
23	考古学ジャーナル	考古
24	季刊考古学	考古
25	日経サイエンス	自然
26	科学	自然
27	化学	保存科学
28	海洋	自然
29	地球	自然
30	月刊文化財	共通
31	たくさんのふしぎ	共通
32	ニュートン	共通

2. 保存管理事業

（1）資料の収蔵

ア．博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料も１件と数える。

収蔵資料数　（平成28年３月31日現在）

分野	件数	備考
考古	20,408	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,333	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	22,180	書籍・文書資料ほか
美術	6,426	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	49,331	化石・岩石・鉱物ほか
合計	111,678	

収蔵指定文化財一覧（寄託資料を含む）　（平成28年３月31日現在）

連番	指定順	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
1	32	国	重要文化財	絵画	1903	絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	1	国	重要文化財	絵画	6	紙本著色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	12	国	重要文化財	工芸品	2065	銅鉢	2	口	指定４口中の２口寄託
4	18	国	重要文化財	工芸品	2187	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
5	8	国	重要文化財	工芸品	981	白銅三鈷杵	1	点	寄託
6	11	国	重要文化財	工芸品	2055	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
7	23	国	重要文化財	考古資料	352	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
8	14	福島県	重要文化財	絵画	7	絹本著色仏涅槃図・如意輪観音像・愛染明王像	3	幅	寄託
9	20	福島県	重要文化財	絵画	10	絹本著色松平楽翁像	1	幅	館蔵
10	37	福島県	重要文化財	絵画	25	絹本著色達磨図	1	幅	寄託
11	38	福島県	重要文化財	絵画	26	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
12	19	福島県	重要文化財	絵画	9	絹本著色十六善神像	1	幅	寄託

連番	指定順	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資　料　名	点数	単位	備　考
13	3	福島県	重要文化財	絵画	3	紙本著色千葉妙見寺縁起	2	巻	寄託
14	25	福島県	重要文化財	絵画	13	絹本著色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
15	40	福島県	重要文化財	絵画	27	絹本著色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
16	41	福島県	重要文化財	絵画	28	絹本著色普賢菩薩像	1	幅	寄託
17	2	福島県	重要文化財	絵画	2	紙本著色両界種子曼荼羅	2	幅	寄託
18	13	福島県	重要文化財	絵画	6	絹本著色土津神社霊神画像	1	幅	指定９幅中の１幅寄託
19	4	福島県	重要文化財	彫刻	4	木造大日如来坐像	1	躯	寄託
20	15	福島県	重要文化財	彫刻	29	木造地蔵菩薩坐像	1	躯	寄託
21	9	福島県	重要文化財	彫刻	81	銅造聖観音菩薩立像（羽黒山湯上神社）	1	躯	寄託
22	10	福島県	重要文化財	彫刻	23	銅造聖観音菩薩立像（福聚寺）	1	躯	寄託
23	35	福島県	重要文化財	工芸品	58	銅鉢	1	口	寄託
24	30	福島県	重要文化財	工芸品	55	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
25	7	福島県	重要文化財	工芸品	18	鉄製釣燈籠	1	箇	寄託
26	22	福島県	重要文化財	工芸品	40	十一面観音版木	1	枚	寄託
27	26	福島県	重要文化財	工芸品	42	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
28	28	福島県	重要文化財	工芸品	53	大名家婚礼調度等	47	件	寄託
29	16	福島県	重要文化財	書跡	8	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託
30	21	福島県	重要文化財	書跡	10	相馬家系図	1	巻	寄託
31	44	福島県	重要文化財	典籍	3	家世実紀	277	冊	館蔵
32	42	福島県	重要文化財	古文書	10	簗田家文書	一括		寄託
33	45	福島県	重要文化財	考古資料	35	流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
34	5	福島県	重要文化財	考古資料	1	福島信夫山出土品	一括		館蔵
35	27	福島県	重要文化財	考古資料	14	金銅製双魚袋金具	2	枚	館蔵
36	31	福島県	重要文化財	考古資料	21	原山１号墳出土埴輪	一括		館蔵
37	39	福島県	重要文化財	考古資料	28	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
38	6	福島県	重要文化財	考古資料	2	田村山古墳出土品	一括		寄託
39	47	福島県	重要文化財	考古資料	46	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
40	49	福島県	重要文化財	考古資料	23	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託
41	29	福島県	重要文化財	考古資料	20	五職神経塚出土銅製経筒 附　石製外容器　３口	3	口	寄託
42	43	福島県	重要文化財	考古資料	33	森北１号墳出土品	一括		寄託
43	46	福島県	重要文化財	考古資料	40	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
44	34	福島県	重要文化財	歴史資料	4	絹本著色恵日寺絵図	1	幅	寄託
45	36	福島県	重要文化財	歴史資料	5	陸奥国会津城絵図	1	鋪	館蔵
46	48	福島県	重要文化財	歴史資料	15	絹本著色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
47	24	福島県	有形民俗文化財		16	上行合人形	368	点	寄託
48	17	福島県	有形民俗文化財		3	（宇内薬師堂）古絵馬	3	面	指定６面中の３面寄託
49	33	福島県	天然記念物	化石	63	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵

イ．図書および映像資料

（ア）収蔵図書数（平成28年３月31日現在）

考古分野：　24,192冊　民俗分野：4,691冊
歴史分野：　9,886冊　美術分野：3,842冊
自然分野：　16,233冊　保存分野：1,671冊
そ の 他：　56,747冊
合　　計：117,262冊

（イ）収蔵映像資料数（平成28年３月31日現在）

収蔵映像資料総数：1,370点

（２）登録・整理

ア．資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入した。新システムは県教育委員会のFKS回線を介してインターネットに接続した端末パソコンより使用するものとし、

それまで使用してきた資料管理システム専用LAN回線はFKS回線に一本化した。

新システムでは多数のデータの一括登録や一括修正が可能となり、また、経年的なランニングコストが削減された。更に、インターネット上での資料情報の外部公開が可能となった。

本年度は、資料の登録および資料情報の外部公開においてシステムの本格的な運用を開始することを目的としたほか、継続してプログラムの初期不良の発見と修正に努めた。初期不良についてはかなり修正を進めたが、未だに修正完了に至っていない。それは旧システムの膨大な情報項目をすべて完全に移植したため項目の構成が煩雑となり、使用中に初めて発見される書式や登録方法の設定ミス等があるためである。また同様の理由から、項目を再構成しないと登録作業の煩雑さを解決できない部分が生じており、その一部は有償の改修が必要である。

イ．資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。また、システムの資料情報外部公開機能を使用し、インターネット上で公開する所蔵資料情報を新たに追加した。資料の登録数・外部公開数はいずれも平成27年度中期目標の評価指標を達成した。ただ、資料情報の外部公開において検索機能をより使いやすく改良することが望まれるが、システムがASP方式であるため実施可能な修正に制限があり、今後、相当の工夫と時間が必要である。

登録資料数・資料情報の外部公開数　（平成28年3月31日現在）

資料類別	登録資料（平成27年度）	登録資料（累計）	資料情報の外部公開（平成27年度）	資料情報の外部公開（累計）
考古資料類	169	11,818	1,309	1,762
民俗資料類	203	13,813	1,364	1,381
歴史資料類	4,165	40,758	1,277	4,776
美術工芸品類	5	6,224	0	23
自然標本類	228	24,487	2,905	6,644
合計	4,770	97,100	6,855	14,586

ウ．ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

（ア）自然資料整理

桑原　功　鈴木敬治氏寄贈資料中の調査露頭写真の整理　延べ31日

星総一郎　星総一郎氏寄贈化石標本の整理　延べ10日

（イ）古文書整理

古文書整理ボランティア登録者のうち12名が延べ68日参加し、松﨑達夫家文書の整理作業（表題・年代・法量などのデータ採取）を行った。終了したのは279点。参加者は五十嵐晴日子、大堀義子、小熊和子、川原太郎、菊池フミ子、小関栄助、小檜山裕三、佐藤敏子、佐野喜惣次、鈴木清二、馬場純、星弘明の諸氏。

（3）貸　出

ア．博物館資料

貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
鈴木敬治コレクション植物化石標本　16点 福島県内産動物化石標本　7点 福島県内産動物化石標本（当館受託資料）15点 フタバリュウ左脛骨標本（複製）1点	国立科学博物館	平成27年6月26日～8月31日	福島県文化センターコラボミュージアム展示
安張遺跡出土　石棒　1点 上ノ台遺跡出土　石冠　1点	奥会津博物館	平成27年7月1日～10月10日	企画展「奥会津の縄文時代―縄文人からのメッセージ―」
和田の大仏出土　千体物片　26点 伝塚畑古墳出土　形象埴輪片　9点 大仏古墳群出土　玉類　4点	須賀川市立博物館	平成27年7月11日～9月20日	企画展「ハックツ！すかがわ考古学の世界」

資　料　名	貸　出　先	貸出期間	展覧会名
大仏15号墳出土　金銅製馬具　8点 跡見塚古墳群出土　銅釧・耳環　4点 出土地不詳　勾玉・ガラス玉　4点	須賀川市立博物館	平成27年7月11日～9月20日	企画展「ハックツ！すかがわ考古学の世界」
泰西王侯騎馬図屏風（複製）動図・静図 豊臣秀吉朱印状（蒲生源左衛門尉あて）1幅 九戸出陣陣立書　1幅 蒲生記（乾坤）2冊	若松城天守閣郷土博物館	平成27年9月上旬～11月30日	企画展「築城者　蒲生氏郷」
稲荷塚遺跡1号竪穴出土　壺　1点（当館受託資料） 稲荷塚遺跡1号竪穴出土 器台 1点（当館受託資料） 稲荷塚遺跡1号竪穴出土　甕　1点（当館受託資料）	新潟市文化財センター	平成27年9月24日～ 平成28年1月22日	企画展「邪馬台国の時代1―東北南部（会津）の世界―」
蒲生氏郷法度条目　1幅 火事頭巾　1領 旗　1流 蒲生家系図　1冊	三春町歴史民俗資料館	平成27年10月1日～12月2日	特別展「蒲生氏の時代」
中島村四穂田古墳出土短甲復元模型　1点	(公財)郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センター	平成28年1月14日～2月2日	企画展「古墳時代の郡山はどこまで分かったか―土器・墓・ムラから探る―」
天保雛一式　5箱（当館受託資料）	かわまたおりもの展示館	平成28年1月15日～4月30日	「ひな人形展」
谷文晁筆「赤壁図」 白雲筆「窮玄掌覧」（当館受託資料） 白雲他筆「三松亭書画巻」（当館受託資料） 松平定信筆「詠帰亭」（当館受託資料） 宿札「白川少将宿」（当館受託資料）	白河集古苑	平成28年1月25日～3月下旬	特別企画展「松平定信とその時代―藩主定信をめぐる人とモノ―」
富作遺跡出土縄文土器（深鉢）3点 狸森遺跡出土縄文土器（深鉢）1点	福島県文化財センター白河館	平成28年2月9日～5月22日	企画展「縄文土器の年代―その古さを読み解く―」
ハドロサウルス類（ヒロノリュウ）の頸椎　1点 ハドロサウルス類（ヒロノリュウ）の歯　1点	国立科学博物館	平成28年2月22日～6月20日	「恐竜博2016」
雪村筆「蕭湘八景図帖」1帖（当館受託資料）	京都国立博物館 東京国立博物館	平成28年3月中旬～12月中旬	臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念「禅―心をかたちに―」展
十二天図（恵日寺旧蔵）旧軸木2本（修復銘有） ①正徳五年銘　②正徳六年銘	磐梯町磐梯山恵日寺資料館	平成28年3月25日～12月2日	常設展

イ．写真資料

総数：106件　195点

考古：　16件　　43点　　民俗：　6件　14点

歴史：　58件　108点　　美術：22件　26点

自然：　4件　　4点

（4）保　存

ア．防虫作業等

（ア）保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースについて昆虫、室内塵埃中昆虫、空中浮遊菌、空中浮遊塵埃数、気相（アルカリガス定性、ホルムアルデヒド、酢酸、アンモニアの気中濃度）及び温度、湿度、照度等について調査を行った。

調査は季節による生息害虫等の状況を確認するため、平成27年7月28日～8月21日、11月4日～11月27日の2回にわたり実施した。

（イ）燻蒸庫による燻蒸

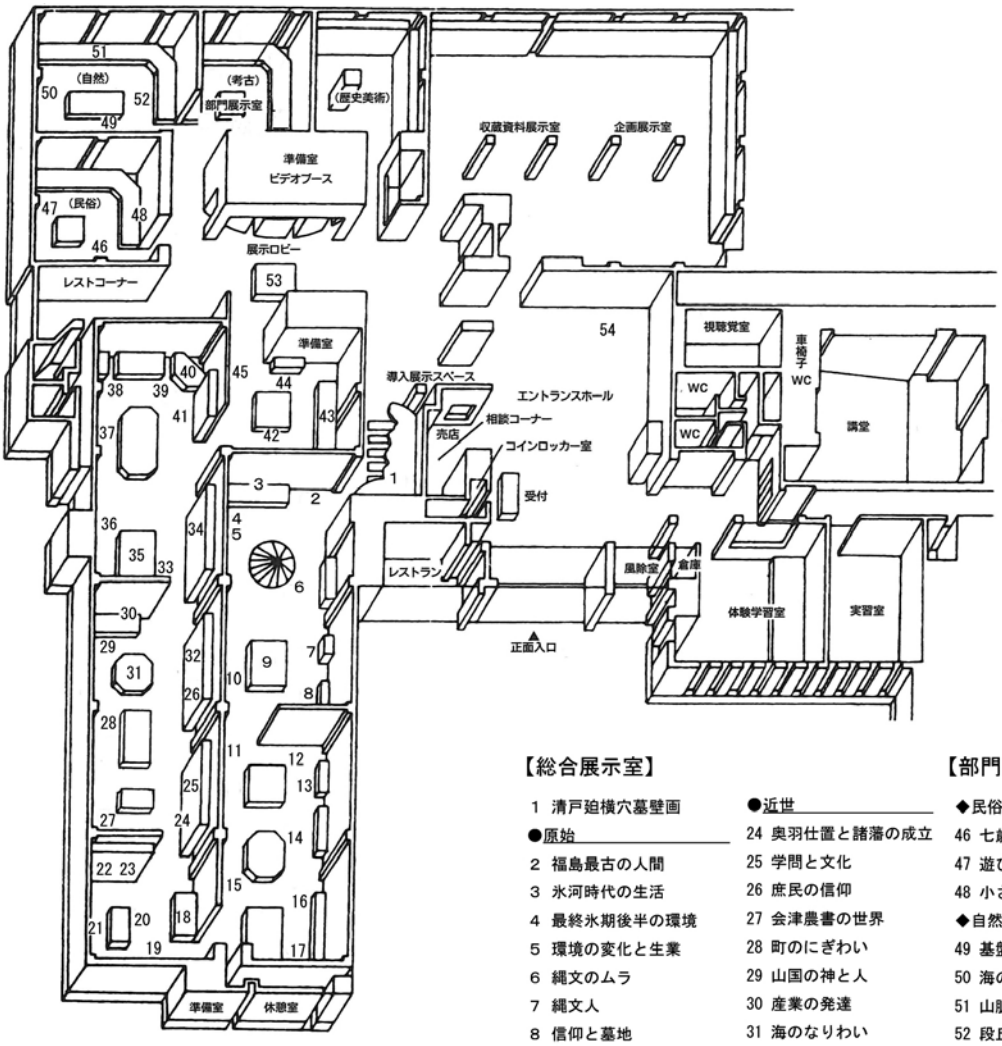
新収蔵資料および企画展出品資料などを中心に約589件の資料を専門業者の設備に持ち込み、平成28年2月2日～9日に燻蒸を実施した。

3. 展示事業

（1）常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々のくらしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の６つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。平成21年度から、常設展示室内において、以下のようなテーマ展・ポイント展を実施している。

ア．展示構成



【総合展示室】

1 清戸迫横穴墓壁画

●原始
2 福島最古の人間
3 氷河時代の生活
4 最終氷期後半の環境
5 環境の変化と生業
6 縄文のムラ
7 縄文人
8 信仰と墓地
9 稲作の開始
10 再葬の墓

●古代
11 会津大塚山古墳
12 原山１号墳の主
13 群集する古墳
14 ムラのくらし
15 陸奥国の成立
16 公民の生活
17 在地の仏教

●中世
18 阿津賀志山の合戦
19 神仏習合の世界
20 好嶋庄の村むら
21 南党と北党
22 国人一揆
23 戦国の群雄

●近世
24 奥羽仕置と諸藩の成立
25 学問と文化
26 庶民の信仰
27 会津農書の世界
28 町のにぎわい
29 山国の神と人
30 産業の発達
31 海のなりわい
32 ゆれうごく封建社会

●近・現代
33 戊辰戦争
34 自由民権運動
35 福島県の成立
36 安積開拓事業
37 庶民の生活
38 日本の花形産業
39 15年戦争下の生活
40 戦後の生活
41 変わりゆく社会

●自然と人間
42 福島の盆地と平野
43 福島の鉱山
44 福島の火山と湖
45 福島の河川

【部門展示室】

◆民俗（ふくしまの子供の世界）
46 七歳まではカミのうち
47 遊びをせんとや生まれけむ
48 小さき者の声

◆自然（県土の形成）
49 基盤形成の時代
50 海の時代
51 山脈形成の時代
52 段丘形成の時代

◆考古（ふるさとの考古資料）

◆歴史・美術（福島の美術）

■ロビー・エントランスホール
53 白水阿弥陀堂模型
54 二本松提灯祭竹田町太鼓台

イ．テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。平成27年度が７年目である。全７回実施。

①「ふるさとの考古資料５【富岡町】遺跡探訪」
（部門：考古展示室）
平成26年６月17日（火）～
平成27年５月10日（日）

②「内藤コレクション寄贈記念　中里壽作品展―自然へのまなざし―」
（部門・歴史美術展示室）
平成27年４月25日（土）～６月21日（日）

③「ふるさとの考古資料６【飯舘村】遺跡探訪」
（部門：考古展示室）
平成27年６月20日（土）～
平成29年５月14日（日）

④「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」　（部門：歴史美術展示室）
平成27年７月４日（土）～８月30日（日）

⑤「現代「漆・歴史」考2015」
（部門：歴史美術展示室）
平成27年９月５日（土）～11月１日（日）

⑥「けんぱくの宝2015」（部門：歴史美術展示室）
平成27年11月14日（土）～
平成28年１月24日（日）

⑦「建具指物師の仕事（わざ）―木村徳治展―」
（部門：歴史美術展示室）
平成28年２月６日（土）～３月27日（日）

「内藤コレクション寄贈記念
中里壽作品展―自然へのまなざし―」

「建具指物師の仕事―木村徳治展―」

「ふるさとの考古資料６【飯舘村】遺跡探訪」

ウ．ポイント展

常設展示室内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。平成27年度が７年目である。全22回実施。

①「喜多方市泉福寺の大日如来像」
（総合：古代展示室）
平成27年４月14日（火）～５月10日（日）

②「蒲生氏郷像」（総合：近世展示室）
平成27年４月14日（火）～５月10日（日）

③「会津恵日寺の宝物」（総合：古代展示室）
平成27年４月14日（火）～６月７日（日）

④「近世に書かれた中世の城絵図」
（総合：中世展示室）
平成27年４月14日（火）～６月７日（日）

⑤「松平定信像」（総合：近世展示室）
平成27年４月14日（火）～６月７日（日）

⑥「戊辰戦記絵巻物」（総合：近現代展示室）
平成27年４月14日（火）～６月７日（日）

⑦「万祝（まいわい）―大漁の祝い着―」
（部門：民俗展示室）
平成27年４月17日（金）～６月10日（水）
⑧「まぼろしの土人形 ―根子町人形―」
（部門：民俗展示室）
平成27年６月12日（金）～８月12日（水）
⑨「会津藩の社倉」（総合：近世展示室）
平成27年７月18日（土）～８月21日（金）
⑩「天明飢饉の図」（総合：近世展示室）
平成27年７月18日（土）～８月21日（金）
⑪「若松歩兵連隊」（総合：近現代展示室）
平成27年７月18日（土）～８月21日（金）
⑫「猪苗代のオシンメイサマ」
（部門：民俗展示室）
平成27年８月14日（金）～９月30日（水）
⑬「明治人の手紙 ―旧会津藩関係者の足跡―」
（総合：近現代展示室）
平成27年８月22日（土）～９月25日（金）
⑭「農鍛冶の仕事と道具―山口栄吾コレクション―」（部門：民俗展示室）
平成27年10月２日（金）～12月２日（水）
⑮「藤井康文　恐竜イラスト原画展」
（エントランスホール）
平成27年10月３日（土）～11月15日（日）

「松平定信像」

⑯「石器に用いられた石」（総合：原始展示室）
平成27年11月５日（木）～
平成28年３月13日（日）
⑰「縄文時代の植物利用―三島町荒屋敷遺跡の植物素材製品―」（総合：原始展示室）
平成27年11月17日（火）～
平成28年３月13日（日）
⑱「弥生時代の骨角器」（総合：原始展示室）
平成27年11月17日（火）～
平成28年３月13日（日）
⑲「郡役所のお仕事」（総合：古代展示室）
平成27年11月25日（水）～
平成28年３月13日（日）
⑳「むかしの道具 ―洗たくとアイロンがけ―」
（部門：民俗展示室）
平成27年12月４日（金）～
平成28年３月23日（水）
㉑「地質図を読もう」（エントランスホール）
平成28年１月22日（金）～２月28日（日）
㉒「会津盆地の土地利用」（総合：自然と人間）
平成28年２月18日（木）～３月31日（木）

「農鍛冶の仕事と道具―山口栄吾コレクション―」

「藤井康文　恐竜イラスト原画展」

（2）企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。

ア．美術館移動展「ふるさと会津の人と四季―福島県立美術館名品展―」

（ア）会　　期

平成27年５月２日（土）～６月21日（日）
開館日数：44日間

（イ）会　　場

福島県立博物館企画展示室

（ウ）入館者数

5,992人

（エ）担当学芸員

美術分野：川延安直・小林めぐみ

（オ）趣　　旨

平成26年に開館30周年を迎えた、福島市にある福島県立美術館は、近現代の欧米・日本の美術と県出身作家の作品を中心に、3,000点以上の美術品を収蔵している。これらの収蔵作品を県内各地で気軽に鑑賞してもらおうと、当館にて会津出身・ゆかりの画家たちの名品展を開催した。長い歴史を刻んできた会津地方では、美術愛好家の惜しみない支援もあり、美術を育む風土が近代以降も脈々と息づいている。こうして、日本画では湯田玉水（ぎょくすい）、坂内青嵐（ばんないせいらん）、酒井三良（さんりょう）など、水彩画では相田直彦、春日部たすく、渡部菊二など、個性あふれる画家たちを輩出した。さらに、会津坂下町出身の斎藤清は、会津の風景を独自の造形感覚で表現し、戦後日本を代表する版画家となった。本展覧会は、会津の画家たちによる多彩な近代美術の魅力を、約50点の日本画、水彩画、版画により探り、豊かな風土が育んだ会津文化の広がりを紹介した。

（カ）展示構成

会津出身・ゆかりの15作家、出品点数61点
日本画：小川芋銭（うせん）・湯田玉水・坂内青嵐・猪巻清明（せいめい）・酒井三良・酒井白澄（はくちょう）・菊地養之助
水彩画：相田直彦・赤城泰舒（やすのぶ）・春日部たすく・渡部菊二・百合子・長沢節
版　画：森田恒友・斎藤清

（キ）関連事業

公開対談「「喜多方美術倶楽部」をめぐって」
講師：後藤學（喜多方市美術館館長）×増渕鏡子（福島県立美術館学芸員）
日時：６月６日（土）13時30分～15時
会場：企画展示室
ギャラリートーク第１回
講師：早川博明（福島県立美術館館長）
日時：５月２日（土）13時30分～14時30分
会場：企画展示室
ギャラリートーク第２回
講師：坂本篤史・白木ゆう美（福島県立美術館学芸員）
日時：５月16日（土）13時30分～14時30分
会場：企画展示室
ギャラリートーク第３回
講師：堀宜雄（福島県立美術館学芸員）
日時：６月21日（日）13時30分～14時30分

（ク）成果と課題

多くの美術家を輩出しながら美術館のない会津若松市においてまとまった点数の会津ゆかりの画家の作品を紹介できた。この点に対して来館者の評価は高かったように思われる。県立美術館との連携によりこうした移動展の定期的な開催方法を検討できないだろうか。

「ふるさと会津の人と四季」リーフレット表

「ふるさと会津の人と四季」リーフレット裏

公開対談

ギャラリートーク第１回

ギャラリートーク第２回

イ．夏の企画展「被災からの考古学１－福島県浜通り地方の原始・古代」

（ア）会　　期

平成27年７月18日（土）～９月13日（日）
開館日数：51日間

（イ）会　　場

福島県立博物館企画展示室

（ウ）入館者数

2,140人

（エ）担当学芸員

考古分野：荒木　隆

（オ）趣　　旨

本展は東日本大震災で大きな被害を受けた浜通り地方に焦点を当て、浜通り地方が東北地方の歴史の中で果たしてきた役割について考古資料から振り返るものであった。常磐高速道路及び各種復興調査の成果をもとに新しい浜通り像を明らかにしていくことを中心に浜通り地方に対する認識を新たにするとともに、浜通り地方の復興に向けた取り組みについても注目していくものであった。

今回の展示を通して、本県浜通り地方が東北と関東、さらに中部、関西地方まで幅広い交流を行ってきたことや、奈良時代以降の東北地方開発の拠点として福島県浜通り地方が重要拠点として中央政府から認識され、各種の先端技術がいち早く導入された点などを明らかにすることができた。

本展は日本芸術振興会の芸術文化振興基金からの助成を受けて実施しており、福島県立博物館の展示終了後、いわき市考古資料館と南相馬市博物館を巡回している。

（カ）展示構成

プロローグ　浜通り地方って、どんな所？
第１部　常磐道で行く浜通り遺跡の旅発見！

―常磐道建設で目覚めた遺跡が語る浜通りの歴史―
第２部　浜通り地方　復興調査で大発見！―発掘した面積は小さいけれど、こんなことも分かったよ―
第３部　浜通り地方市町村　ふるさとお宝自慢！―発掘調査でよみがえった各市町村自慢の出土品たち―
第４部　ふるさとの顔 浜通り地方の顔 大集合！―縄文時代から平安時代までの顔・顔・顔 オンパレード―
第５部　浜通り地方の復興に向けて―被災した文化財の復旧と文化財レスキュー事業―

（キ）展示資料総数

322点

（ク）主な展示資料

旧石器時代：三貫地貝塚出土石器（新地町）
縄文時代：浦尻貝塚出土骨角器（南相馬市）
田子平遺跡出土土面（浪江町）
弥生時代：美シ森遺跡出土土器（楢葉町）
古墳時代：丸塚古墳出土埴輪（相馬市）
清戸迫横穴出土須恵器（双葉町）
飛鳥時代：棚和古古墳出土須恵器（大熊町）
奈良時代：桜田Ⅳ遺跡出土土師器（広野町）
小浜代遺跡出土瓦（富岡町）
平安時代：横手廃寺跡出土瓦（南相馬市）

（ケ）関連行事

①企画展記念講演会（４回）

第１回「ふくしま復興調査元年」
日時：７月25日（土）13時30分～15時
会場：福島県立博物館講堂
講師：山本誠氏（兵庫県考古博物館）

第２回「復興調査最前線１　派遣職員が見たふくしまの遺跡」
日時：８月８日（土）13時30分～15時
会場：福島県立博物館講堂
講師：中居和志氏（京都府教育委員会文化財保護課）
天本昌希氏（公益財団法人山形県埋蔵文化財センター）

第３回「浜通り地方から福島県の歴史を読み解く」
日時：８月15日（土）13時30分～15時
会場：福島県立博物館講堂
講師：当館学芸員　荒木隆

第４回「復興調査最前線２　市町村教育委員会の調査から」
日時：９月５日（土）13時30分～15時
会場：福島県立博物館講堂
講師：木幡成雄氏（公益財団法人いわき市教育文化事業団）
荒　淑人氏（南相馬市教育委員会文化財課）

②企画展解説会（17回）
日時：７月18日（土）・19日（日）・20日（月）・25日（土）・26日（日）、８月２日（日）・８日（土）・９日（日）・15日（土）・16日（日）・21日（金）・23日（日）・30日（日）、９月５日（土）・６日（日）・12日（土）・13日（日）
場所：福島県立博物館企画展示室

③オリジナルグッズ製作ミステリー体験
日時：７月19日（日）・26日（日）、８月２日（日）・９日（日）・16日（日）・23日（日）・30日（日）、９月６日（日）
場所：福島県立博物館企画展示室

（コ）成果と課題

- 現在、東日本大震災の復興を進めている浜通り地方についての歴史的理解が深まり、県内だけでなく県外の来館者に対しても、浜通り地方で行われている復興事業に関わる発掘調査の状況や文化財レスキュー事業について情報発信することができた。
- 企画展終了後、浜通り地方のいわき市と南相馬市を会場に展示内容をコンパクトにした移動展を実施したが、中通り地方で開催することができなかった。また、県外、特に福島県から避難している住民が多い首都圏の都県立博物館で巡回展示を行い、福島県の復興の様子を積極的に情報発信する機会を設ける計画も企画当初はあったが、予算的な制約の中で実現することができなかった。別な機会を利用しながら、福島県の現状を県外に発信する事業についても検討していきたい。

展示解説会

展示講演会

ウ．秋の企画展「相馬中村藩の人びと」

（ア）会　　期

平成27年10月10日（土）～11月29日（日）
開館日数44日間

（イ）会　　場

福島県立博物館企画展示室

（ウ）入館者数

1,765人

（エ）担当学芸員

歴史分野：高橋充他

（オ）趣　　旨

福島県の相双地域では、江戸時代に相馬家を藩主とする中村藩の時代が約250年間続いた。鎌倉時代以来続く相馬氏の系図、江戸時代に描かれた野馬追絵巻や城下絵図、藩士の家系に伝えられた古文書や、製陶・製塩に関する資料、寺社に伝えられた宝物などを展示公開した。この地域は、東日本大震災によって大きな被害を受けてしまった。救出された資料も展示しながら、先人たちの歩みをふり返ることで、復旧・復興を少しでも後押しできることを意図して企画した。

（カ）展示構成

プロローグ　相馬家と中村藩
第１章　旅人の見た相馬の風景
第２章　さまざまな仕事と暮らし
第３章　祈りの姿

（キ）展示資料総数

113件（会期中に展示替えあり）

（ク）おもな展示資料

○野馬追絵巻（相馬市教育委員会蔵）
○料理伝書・折形（双葉町教育委員会蔵・当館寄託）
○大堀相馬焼（福島県文化財センター白河館蔵）
○相馬家婚礼道具（同慶寺蔵・当館寄託）
○両界種子曼荼羅（大聖寺蔵・当館寄託）

（ケ）関連行事

①記念講演会「相馬中村藩の成立と家格形成」
日時：10月17日（土）13時30分～15時
会場：当館講堂
講師：東北福祉大学教授　岡田清一氏

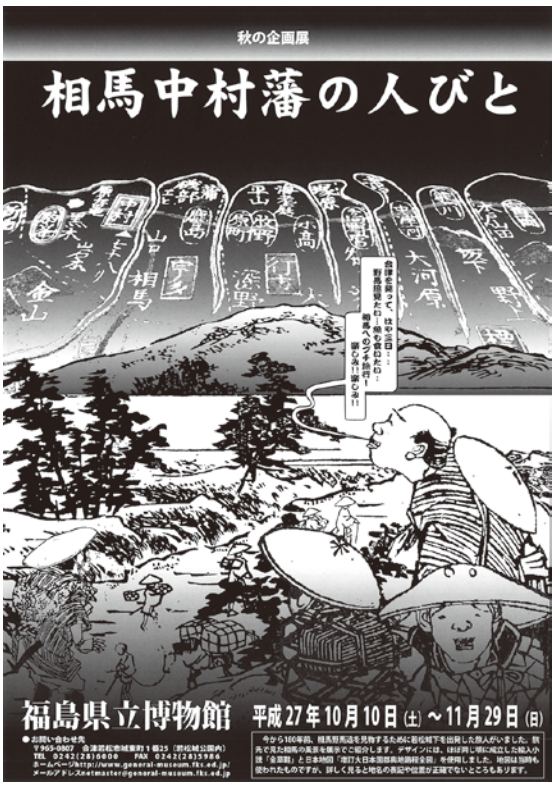
②関連講座「御料理方に学ぶ！江戸時代の料理作法―折形を折ってみよう」
日時：10月31日（土）13時30分～15時
会場：当館実習室
講師：食文化研究家　平出美穂子氏

③展示解説会
日時：10月10日（土）、11月７日（土）・14日（土）・19日（木）・21日（土）・26日（木）・28日（土）
各回とも13時30分～14時30分
会場：当館企画展示室
講師：当館学芸員　高橋充

（コ）成果と課題

浜通り地域の歴史とくに近世の歴史をテーマにした初めての企画展となった。展示構成の工夫のひとつとして、第１章では実在した会津から相馬への旅行記（紀行文）「目さめ日記」の内容に沿って、野馬追に関する絵画資料や海岸部・中村城下の絵地図を配置し、羅列的になりがちな展示にストーリー性を持たせようと試みた。また、浜通り地域とはゆかりの少ない会津地域の方々にも興味をもってもらい、両者を結びつける視点を提供しようとした。アンケートの感想などをみると、「目さめ日記」や野馬追絵巻に興味をもった来館者が多く、一定の効果はあったと思われる。ただし、紀行文の内容の説明などが足りず、物足りなさを感じるという意見もあった。

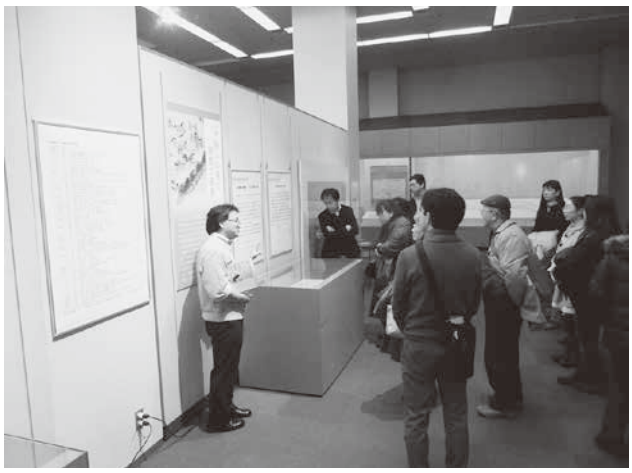
アンケートの集計によると、相双地域からの来館者の割合が37％と高く、とくに地元の方々に観覧していただきたいという意図は、ある程度伝わった。会津若松市に避難している大熊町の町民の方々には、チラシを全戸に配布するような取り組みも一定の効果があった。一方で、会津若松市内など通常の企画展で割合の高い地域からの来館者は少なかった（若松市内は16％）。入館者全体数が低迷した原因も、そのあたりに求められる。相双地域の歴史の魅力を、その他の地域の方々にも伝えられるように十分に内容を掘り下げられなかった点が、最大の反省点である。



「相馬中村藩の人びと」リーフレット

「相馬中村藩の人びと」展示室風景

関連講座「御料理方に学ぶ！」



「相馬中村藩の人びと」展示解説会

（3）特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。平成27年度は、ふくしま震災遺産保全プロジェクトが収集した資料を展示した。ただし企画展のように特別の料金はとらず常設展料金で観覧できるようにした。

ア．震災遺産を考える

（ア）会　　期

平成27年２月11日（木・祝）～
３月21日（月・祝）

（イ）会　　場

エントランスホール・企画展示室

（ウ）観覧者数

4,450人

（エ）担当学芸員

高橋満・金澤文利

（オ）主催：ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会

共催：東北大学学術資源研究公開センター
東北大学災害科学国際研究所
東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム

（カ）趣旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトでは、東日本大震災を歴史と位置づけること、歴史として共有し、未来に伝えることを目指している。そのためにはまず「福島県に何が起きたのか？」「福島県に何が生じたのか？」を明らかにすることを出発点として、それらが産み出された背景や要因を探っていく必要があると考えている。

震災で福島県に起きたこと、すなわち「ふくしまの経験」を示す歴史的資料として、私たちは震災が産み出したモノ・震災

を示すバショに着目し、これを「震災遺産」と呼んでいる。

福島県における本震災には、地震・津波・原子力発電所事故が与えたダメージと、これに対応した救助・避難・支援・除染などの様々な局面があり、この局面ごとにあるいは局面が重なって多量の瓦礫、広域に分布する仮設住宅団地、除染物質の広大な集積など非日常の光景が震災から５年の今も産み出されている。

本プロジェクトでは、震災遺産が震災の経験だけでなく震災前まであった人々の生活や日常を伝える手段になると考え、平成26年度からフィールド調査や資料を収集・保全する取り組みを開始した。

本特集展は福島県立博物館に実行委員会事務局を置く、ふくしま震災遺産保全プロジェクトのアウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅡ」会津セッションを構成するプログラムの一つとして開催した。震災遺産の調査・収集活動やその成果を収集資料や写真パネルで紹介し、震災の多様性を震災遺産から考え、震災から５年のふくしまを振り返るとともにプロジェクトのこれまでの活動を県民や広く一般に紹介する機会とする。

（キ）構　　成

１．あの日・あの時から－揺れる大地・迫る海・崩壊した「安全」
- 平成23年３月11日からの５年間に発生した出来事を、象徴的な震災遺産の展示から振り返る。

２．「避難」の多様性
- 一次避難所。「一日だけの避難所」などふくしま特有の避難生活を避難所資料から考える。

３．断絶する「日常」-学校・生活・仕事
- 震災や原発事故で断絶する日常を被災地に残されたままとなった器物から回復しない「日常」を紹介する。

４．思いがけない「未来」
- 震災によって、新たに生み出されたものから福島県の特殊性を考える。

（ク）主な展示資料

- 震災の時刻で止まった時計（富岡・いわき）
- 震災当日の新聞が入ったままの自動販売機（浪江）
- 津波で曲がった橋の欄干（いわき）
- 活断層剥ぎ取り標本（いわき）
- 火事で溶けた街灯（いわき）
- 避難誘導したパトカーの部品（富岡）
- 配達されなかった新聞包み（浪江）
- 被災地名を示す道路標識（南相馬・浪江）
- 避難所で使われたロウソク（富岡）
- 非常用飲料水（双葉）
- 安定ヨウ素剤（富岡）
- 横断幕「富岡は負けん！」（富岡）

（ケ）関連事業

①「３Ｄデジタル震災遺構アーカイブ体験」

東北大学と連携して平成26年度から開始した県内所在震災遺構の３Ｄポイントクラウドデータ取得によるデジタル記録保存事業の成果を県内で初公開する事業である。企画展示室内のブースに東北大学の機器とマーカーを設置し、県内の「震災遺構」を最新技術MR（複合現実Mixed Realityの略、複合現実：仮想現実と現実世界をリアルタイムで融合させる技術）による３次元バーチャル映像としてヘッドマウントディスプレイで閲覧する催しを会期中実施した。参加者は1,531名である。

② 展示解説会

会期中に15回開催した。参加者は164名である。

震災の時間を示す時計

津波被災物

「３Dデジタル震災遺構アーカイブ体験」風景

展示解説会

（４）移動展

県立博物館の企画展の一部や、当館の収蔵品を市町村の博物館・資料館で公開して欲しいという要望も多いために移動展を実施してきた。平成27年度は夏の企画展「被災地からの考古学１―福島県浜通り地方の原始・古代」の展示構成を移動展向けにコンパクトにして２本の移動展を実施した。この他、三春町歴史民俗資料館より、これまでに実施したことのない自然史系の展覧会を開催したいとの要望があった。また県立図書館より、「県立図書館連携事業」への協力を要請された。これらの要望に対して自然分野が対応し、２本の移動展を実施した。

ア．移動展「見る・さわる　世界の化石」

（ア）会　　期

平成27年７月18日（土）～８月30日（日）

（イ）会　　場

三春町歴史民俗資料館企画展示室

（ウ）入館者数

757人

（エ）担当学芸員

相田優、香内修、猪瀬弘瑛、竹谷陽二郎

（オ）趣　　旨

この移動展は、当館が主に県内の博物館・資料館等と共催して実施するためにパッケージとして用意し、各館・施設等に開催を募っている企画の一つである。今回は三春町歴史民俗資料館との共催展として実施した。

内容的には、当館が所蔵する世界の化石標本に基づき、生物の歴史と化石の楽しさを紹介する展示である。世界各地・各時代の代表的な化石により、生物の進化と多様性、地球の歴史を知ることができる構成となっている。今回は、福島県から産出した各時代の化石もいくらか紹介することとした。また、化石を手に取ってその感触を肌で感じ取ってもらうため、化石にさわれるコーナーをかなり広く設置した。

（カ）展示構成

１．古生代の生き物たち
　　―生物の爆発的発展―
２．中生代の生き物たち
　　―アンモナイトと恐竜―
３．新生代の生き物たち
　　―哺乳類の繁栄―
４．化石にさわってみよう

（キ）展示資料総数

約400点

（ク）主な展示資料

リンボク、グロッソプテリス、四放サンゴ、腕足類、ウミユリ、ウミサソリ、甲冑魚、オウムガイ類、アンモナイト類、硬骨魚類、始祖鳥、カセキイチョウ、プロトケラトプス頭骨、ステゴロフォドンゾウ下顎骨、マンモスの牙、サーベルタイガー頭骨、他

（ケ）関連行事

①展示解説会

日　時：平成27年７月18日（土）
　　13時30分～14時30分
場　所：三春町歴史民俗資料館企画展示室
講　師：福島県立博物館学芸員

②実技講座「化石標本をつくろう」

日　時：平成27年７月25日（土）
　　13時30分～15時30分
場　所：三春町さくら湖自然観察ステーション研修室
講　師：福島県立博物館学芸員

（コ）成果と課題

- 開催館の企画展示室が広めだったので、かなり充実した展示を構成することができた。また、広報宣伝や展示作業を始めとして、移動展の実施全般に関して開催館との緊密な協力体制を築くことができたため、企画段階から展示撤収までスムーズに運営することができた。
- スムーズな運営と裏腹に、入館者数は思いのほか伸びなかった。「見る・さわる　世界の化石」はこれまでに数回開催しているが、入館者数はいずれも1,000人をはるかに越えており、初回の旧梁川町ではパレオパラドキシア同時展示の効果もあったとはいえ4,000人以上の入館者を迎えている。入館者が1,000人に満たなかったのは今回が初めてである。
- 開催館が展示会場脇の休憩室にアンケートを設置したが、会期中の回答数自体が著しく少なく（10数枚）、しかもそのほとんどは周辺市町からの来館者による回答だった。したがってアンケートからは入館者が少ない原因を読み取ることができなかった。
- 推測に過ぎないが、入館者が少なかった原因の一つとして、三春町が全町域に渡りほぼ化石が産出しない土地柄であるため、化石や古生物に興味を持ったことのある人口が少ないのではないかという点が挙げられる。他に、若年層の人口減少が思い当たる。

移動展看板（三春）

移動展展示状況（三春）

移動展展示状況（三春）

移動展　県内産化石の展示（三春）

イ.「被災地からの考古学１in いわき」

（ア）会　　期

平成27年10月３日(土)～12月14日(月)

（イ）会　　場

いわき市考古資料館　特別展示室

（ウ）入館者数

2,262人

（エ）担当学芸員

考古分野：荒木隆

（オ）趣　　旨

夏の企画展「被災地からの考古学１―福島県浜通り地方の原始・古代―」の展示内容をコンパクトにした形で移動展として浜通りの博物館を会場に移動展を開催し、震災の被害が大きかった浜通り地方の方々に郷土の果たした歴史的役割をはじめ、浜通り地方の重要性を伝え、復興の一助にする。

（カ）主な展示資料

縄文時代：馬場前遺跡出土土器　(楢葉町)
後作Ａ遺跡出土土器　(富岡町)
田子平遺跡出土装飾品　(浪江町)
弥生時代：白岩堀之内遺跡出土石器　(いわき市)
古墳時代：タタラ山遺跡出土石製模造品　(いわき市)
奈良時代：明神遺跡出土土師器　(相馬市)
平安時代：大猿田遺跡出土木製品　(いわき市)

（キ）関連事業

①移動展記念講演会（3回）

第１回「浜通り地方から福島県の古代を読み解く」
日時：10月10日(土)13時30分～15時
会場：いわき市考古資料館会議室
講師：当館学芸員　荒木　隆

第２回「浜通り地方の製鉄を考える」
日時：11月14日(土)13時30分～15時
会場：いわき市考古資料館会議室
講師：吉田秀享氏（日本古代銑生産研究会）

第３回「復興調査から見えてきたいわき地方の歴史」
日時：12月５日(土)13時30分～ 15時
会場：いわき市考古資料館会議室
講師：木幡成雄氏（公益財団法人いわき市教育文化事業団）

②企画展解説会（３回）
日時：移動展記念講演会終了後
場所：いわき市考古資料館特別展示室

（ク）資料提供者・協力者

いわき市教育委員会、公益財団法人いわき市教育文化事業団、公益財団法人福島県文化振興財団

講演会

ウ. 移動展「藤井康文　恐竜イラスト原画展」

（ア）会　　期

平成27年12月４日(金)～
平成28年１月６日(水)

（イ）会　　場

県立図書館展示コーナー（無料）

（ウ）入館者数

1,015人

（エ）担当学芸員

相田優、香内修、猪瀬弘瑛、竹谷陽二郎

（オ）趣　　旨

平成27年度当初より、県立図書館から「県立図書館連携事業」への協力を要請されていた。これに対して、平成27年度当館で実施するポイント展「藤井康文　恐竜イラスト原画展」を図書館でも実施することを予定していた。その後、この展示を「県立博物館移動展」と銘打ちたいとの希望が図書館より寄せられたため館内で協議した結果、正式に当館の「移動展」扱いとして開催することとした。

（カ）展示内容

著名な科学イラストレーターである藤井康文氏が当館に寄贈して下さった11点の恐竜イラストと、関連する標本を展示紹介する。

（キ）主な展示資料

- 恐竜イラスト　11点
- 関連標本　　5点

（ク）成果と課題

- 観覧者数は図書館側が人員を配置しカウンターで計数した。その結果、短い会期にもかかわらず千人以上の観覧者があったことが判明した。展示は評判が良かったようだとの感想が、図書館側担当者から聞かれた。
- 図書館側では、イラストの展示と連動させて恐竜・古生物などの図鑑類、書籍などを展示しており、図書館でのコラボレーション事業として展示がうまく機能したと考えられる。
- 図書館の展示コーナーはトピック展示を行うための小さなスペースであり、ストーリーのある展示はできない。そのため、今後も同様の連携を行う場合、取り上げることが可能なテーマはかなり制限されることに留意する必要がある。

移動展展示状況（図書館）

移動展展示状況（図書館）

エ.「被災地からの考古学１in 南相馬」

（ア）会　　期

平成28年１月16日（土）～３月６日（日）

（イ）会　　場

南相馬市博物館　特別展示室

（ウ）入館者数

1,557人

（エ）担当学芸員

考古分野：荒木隆

（オ）趣　　旨

夏の企画展「被災地からの考古学１―福島県浜通り地方の原始・古代―」の展示内容をコンパクトにした形で移動展として浜通りの博物館を会場に移動展を開催し、震災の被害が大きかった浜通り地方の方々に郷土の果たした歴史的役割をはじめ、浜通り地方の重要性を伝え、復興の一助にする。

（カ）主な展示資料

縄文時代：馬場前遺跡出土土器　（楢葉町）
後作Ａ遺跡出土土器　（富岡町）
田子平遺跡出土装飾品　（浪江町）
弥生時代：白岩堀之内遺跡出土石器　（いわき市）
古墳時代：タタラ山遺跡出土石製模造品　（いわき市）
奈良時代：明神遺跡出土土師器　（相馬市）
平安時代：大猿田遺跡出土木製品　（いわき市）

（キ）関連事業

①移動展記念講演会（３回）

第１回「浜通り地方から福島県の古代を読み解く」
日時：1月30日（土）13時30分～15時
会場：南相馬市博物館体験学習室
講師：当館学芸員　荒木　隆

第２回「浜通り地方の製鉄を考える」
日時：２月６日（土）13時30分～15時
会場：南相馬市博物館体験学習室
講師：吉田秀享氏（日本古代銑生産研究会）

第３回「復興調査から見えてきた南相馬地方の歴史」
日時：２月27日（土）13時30分～15時
会場：南相馬市博物館体験学習室
講師：荒　淑人氏（南相馬市教育委員会文化財課）

②企画展解説会（４回）

日時：１月16日（土）・移動展記念講演会終了後
場所：南相馬市博物館特別展示室

（ク）資料提供者・協力者

南相馬市教育委員会、公益財団法人福島県文化振興財団

展示室風景

講演会

（5）共催展

他の機関・組織との連携の一環として、共催による展示会を開催した。

ア.「磐梯山ジオパーク展 ―磐梯山ジオパークがつなぐ大地と自然と人の物語―」

（ア）主　　催

いわき市立いわき総合図書館　磐梯山ジオパーク協議会　福島県立博物館　磐梯山噴火記念館

（イ）会　　期

平成28年１月26日（火）～５月29日（日）

（ウ）会　　場

いわき市立いわき総合図書館　５階郷土資料常設展示コーナー

（エ）担当学芸員

自然分野：竹谷陽二郎・香内　修

（オ）趣　　旨

磐梯山ジオパークの普及のための展示会。磐梯山ジオパークの概要と活動紹介、磐梯山の火山活動や噴火災害、磐梯山に関する歴史・文化の魅力を紹介した。

（カ）展示構成

①磐梯山ジオパークの活動（パネル展示）
②磐梯火山の生い立ち（岩石標本）
③1888年の磐梯山噴火（絵図・文書）
④磐梯朝日国立公園の指定と変遷
⑤民謡「会津磐梯山」関係資料

（キ）主な展示資料（福島県立博物館収蔵品分）

①磐梯山の噴出物（岩石標本）12点
②1888年の磐梯山噴火関係資料
磐梯山噴火の図　岩代国磐梯山実測全図　磐梯山噴火破裂之図　会津磐梯山噴火奇談　磐梯山噴火真図　噴火前19日図（複写）

（ク）関連事業

①お話と実験　「磐梯山とジオパーク」
磐梯山噴火記念館副館長　佐藤　公氏
磐梯山ジオパーク協議会事務局　ジオパーク専門員　蓮岡　真氏
平成28年1月31日（日）10時30分～12時
参加者　小・中学生15人

②記念講演会「福島県の３火山と火山防災とジオパーク」
磐梯山噴火記念館副館長　佐藤　公氏
平成28年１月31日（日）13時30分～15時
参加者　一般34人

（6）指定文化財の公開

本館の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

ア．国指定

該当なし

イ．県指定（福島県指定）

〈県重有民〉「旧修験岩崎家所蔵修験資料」のうち９点　（福島県相馬市　個人）
企画展「相馬中村藩の人びと」展示公開

（7）展示解説

ア．展示解説員

平成27年度の展示解説員は13名で前年度と変わらなかった。これに加えて前年度と同様に常設展示室内で２名分の監視員を委託できる予算を確保したが、展示解説員の増員を図ることができなかった。企画展についても、展示予算の中で監視員１名を予算化し、通常の展示解説員１名に監視員１名を交えた体制で展示室の対応をせざるをえない状況であった。

さらに、企画展開催時には企画展示室の入口のモギリに人数を割かれるなどするため、常設展示室内に対応できる人員が不足する状況が恒常的に続いている。これらの状況に対して、学芸員による解説活動を増やし、定数減の状況を乗り切る対策をとっている。

このような展示解説員の減員により、過去に実施されていた解説員が主となる講座などは、今年度も実施できない状況であった。

また、展示解説員は来館者に展示を解説・案内することが第一の役割であるが、定数減により展示解説員１人で対応しなければならないエリアが広くなった関係で十分な解説活動ができない場合が少なく、最低限の監視業務を行うので精一杯の状況であることが多かった。きめ細やかな展示解説活動をはじめとしたより質の高い行政サービスを保障するために、展示解説員に対する研修を実施するなど、質的向上に向けた努力を行っているが、展示解説員の人数不足という量的課題については、引き続き検討をしていく必要がある。

展示解説員の業務は、総合ガイダンスと名付けられた受付での来館者への対応をはじめとして展示や館内の業務をよく知っている職員でなければ担当できない内容がほとんどである。現在の減員状況の中でどうにか対応している状況であるが、現在の定数では通常業務を実施する上では限界の状態であり、来館者への解説サービスを考えた場合、定数増が図られなければ、本来の業務にも支障を来す可能性が出てくる。

（ア）やさしい展示解説

展示解説員による常設展の定時解説で、原則的に他の行事の入っていない土曜と日曜日の午前11時、午後２時の２回開催を基本に実施している。１回の所要時間は約30分。平成27年度のやさしい展示解説は５月16日から３月26日の期間実施した。

〈実施状況〉実施回数：40回
総参加人数：112人

（イ）通し解説

不定期で行われる常設展・企画展の解説。主として来館の個人・団体の要望に応じて展示解説員1名が全体を解説するもの。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、予約の団体の要望にこたえる形で実施してきていることが多い。

実施回数：40回

（ウ）部屋送り解説

不定期の常設展・企画展の解説。主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：49回

（エ）体験講座

体験講座などの解説員が主体となって実施する講座は、解説員業務に比して人数が少ないために平成26年度も実施されなかった。

ただし、七夕の時期には竹飾り、クリスマスには手製のクリスマスツリー、小正月に合わせての団子飾り、ひな祭りの時期に自作の雛人形の段飾りなど、解説員が自分たちで作ったものを体験学習室内に展示することは継続している。

また、ゴールデンウィークを中心に時代衣装の試着体験に加え、期間限定で甲冑の試着体験も行うなど、体験的な活動の充実を図っている。

イ．学芸員

企画展および特集展の開催中は展示解説のために職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則１コマ45分である。平成27年度は年間で308回を数えた。学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づ

くものが多かったが、通常業務とのバランスの点で今後の検討が必要である。

また、企画展、テーマ展、特集展については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施した。

ウ．展示解説のための印刷物

①福島県立博物館ガイドブック
常設展の展示内容をコンパクトに解説。
裏方の館活動も紹介。昭和61年発行。28 p.

②Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book
英文の展示解説パンフレット。希望する来館者に無償配布。平成18年発行。14 p.

（8）体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーは半年ごとの入れ替えになっている。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。

体験学習室

ア．衣装

（ア）衣装着付け

体験学習室で時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のままその上に着る形ではあるが、かなり本格的な衣装着付けである。展示解説員は着付けの技術をきちんと学ばなければならないし、一回の時間もかかるが、他の博物館ではここまできちんと着つけることはそれほど多くはないと思われ、当館の体験学習室のセールス・ポイントでもある。

①衣装着付け件数　530件

②着付けた衣装

春：打掛・番具足　　夏：水干・半袴

秋：壺装束・町人旅姿　冬：山伏・白拍子

衣装の着付けはかなり本格的なものなので、そのため解説員の研修時間も多くかかるし、多人数の要望には一度に応え難い面もある。しかし、着終わった姿を鏡に映したり、デジカメで撮影したりして満足する来館者が多く見られる。

（イ）衣装展示

春：大鎧・十二単　　夏：稚児鎧・白拍子

秋：打掛・南蛮装束　冬：編綴・大工

イ．手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

７月：七夕飾り／12月：クリスマスツリー／１月：団子さし／３月：手作り雛人形

ウ．おもちゃ

伝統的なおもちゃを年間ローテーションで交替して使用できるように準備しており、畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。修理を必要とするおもちゃもあり、解説員の係で担当している。

おもちゃの修理：50件

エ．ハンズオンコーナー

来館者が展示品を実際に手に取り使用法を体験できるコーナー

平成27年４月～平成28年３月「古代の音色と輝き」（考古分野）

平成27年８月～平成28年３月「縄文土器パズル」（考古分野）

（9）博物館新情報収集・展示室改善プロジェクト

将来の博物館リニューアルを見据えて、新設あるいはリニューアルした博物館・美術館の視察、新しい展示手法に関する情報収集を行っている。

平成27年度は、「ミュージアムの新たな役割」「博物館と地域」「博物館の災害展示」をテーマに他館視察を実施し、東京都美術館、三重県立博物館、四日市市博物館への視察を行った。

また、リニューアルに関する会議を実施し、現在の当館の課題の言語化を図った。

4. 調査研究事業

（1）展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たなる研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・自然の各分野がテーマを設定し、調査を実施している。平成27年度は、以下の４テーマで調査研究を進めることとした。

ア．当館所蔵新生代植物化石の再評価

（ア）趣　旨

当館自然分野の収蔵資料のなかで最も重要なものの一つに鈴木敬治植物化石コレクションがある。このコレクションは（故）鈴木敬治福島大学名誉教授が当館に寄贈されたもので、その内容の大部分は福島県内産の新生代植物化石である。すでにこれらの標本の10,000点以上が鑑定、整理されてきたが、最近、産地・地質時代にまとまりのある標本に関して、ボランティアの力を借りながら、新たに1,000点以上の整理を進めることができた。そこで、これらについて鑑定内容を確認した上で成果を論文として公表し、コレクション整理の成果をさらに充実させたい。

（イ）概　要

金山町猿倉沢地域ほかの地域で化石産地確認調査を行うとともに、付近の地質概要を把握する。また、すでに収蔵されている同地域の植物化石について、同定内容の再確認、標本写真撮影、未登録標本のラベリングおよび登録等を順次行い、展示公開や博物館紀要への執筆等により成果を公表する。

平成27年度は鑑定済み標本のリスト化を中心に室内作業を進めてきた。しかしながら、専門家による標本鑑定の継続実施については旅費の不足との理由で中止された。

イ．会津藩社倉制の研究

（ア）趣　旨

江戸時代の備荒貯蓄政策の代表的なものとして、会津藩主保科正之がはじめた社倉や社跡米の制度がある。同制度は備荒貯蓄のためばかりでなく老幼を養う資としても用いられ、堕胎の防止となり、いわば社会福祉政策としても一定の効果をあげた。この制度の詳細を明らかにするのが本研究のねらいであった。

（イ）概　要

社倉の運用方法などを示す具体的な基礎資料を調べる中で、「社倉方一式」という資料の存在が判明した。この資料が会津藩の社倉米の制度やその配分を具体的に知ることの出来る貴重なものであったため、平成26年度は調査内容を紀要で公表した。平成27年度は関連資料の調査を引き続き行い、その成果をポイント展「会津藩の社倉」（平成27年７月18日～８月21日）で公開し、本研究は一応の区切りとした。

ウ．山口弥一郎調査資料の研究

（ア）趣　旨

山口弥一郎（1902-2000）は旧・新鶴村に生まれ、東北の地理学・民俗学研究に多大な業績を残した。近年では東日本大震災を経て著書『津浪と村』(1943年刊）が復刊され、津波災害と集落移動に関する研究が全国的に注目を集めている。しかし、磐梯山慧日寺資料館（磐梯町）に一括して収蔵されている山口が残した調査ノートや写真、蔵書などは、体系的な整理や目録作成にまで至っていない。本研究では磐梯町の協力のもと、同資料の整理・調査を進めることで、山口弥一郎の調査研究を見直し、人文科学的側面からの災害研究の新しい方向性を探っていく。

（イ）調査概要

磐梯町と福島県立博物館で昨年度に取り交わした協約書にもとづき、平成27年度は磐梯町所蔵の山口弥一郎旧蔵資料の借用と整理を開始した。調査ノートや文書類について標題・年代等を目録化し、また写真撮影等を進めている。

エ．考古資料による原始・古代の画期の再検討

（ア）趣　旨

Ⅰ縄文時代後半期から弥生時代初頭とⅡ古墳時代終末期から奈良時代（６世紀末～８世紀）の２つの時期を取り上げ、当館収蔵の当該期の考古資料を中心に取り上げ、資料の有する社会的背景を考察し、本県における原始・古代の時代変遷の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである。

（イ）調査概要

縄文時代では、南相馬市中才遺跡の晩期製塩土器を包含する土壌サンプルの水洗を行い、製塩手法や遺跡周辺環境に関わる微小巻貝類や製塩残滓類の抽出を目指した。正式な同定作業は未了であるが、肉眼観察

では微小貝類は伴っていないようである。古墳時代では日本列島北限資料として注目される中島村四穂田古墳出土短甲の塗膜分析結果を確認し、漆が塗布された資料であることが判明した。また福島市梅本古墳出土象嵌刀装具の分析を県ハイテクプラザの協力を得て実施し、素材に関する知見を得ている。

（2）その他の調査研究事業

ア．古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、１点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

平成27年度は、前年度に引き続き松﨑達夫家寄贈資料の整理を継続して実施したほか、近年受け入れた小口資料の整理・登録を行った。また整理済の未登録資料（佐藤正夫家寄託資料、松下眞紀家寄贈資料、簗田家追加寄託資料など）のデータ整備・登録も合わせて行った。マイクロ撮影は、平成26年度に引き続き「簗田家追加寄託資料」の撮影を行った。

（3）職員の研究活動

ア．研究成果の公表（職員の氏名あいうえお順）

（ア）印刷物（単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌）

荒木　隆　2016.3「交通路から見た陸奥南部におけるヤマト政権の地域支配―古墳群・祭祀遺跡・推定交通路から読み解く―」『福島県立博物館紀要』第30号　pp. 1-28　福島県立博物館

内山大介　2015.5「平成二十六年度東北地方民俗学合同研究会「めぐり」と民俗信仰」『日本民俗学』282号　日本民俗学会

佐野千絵･北野信彦・杉崎佐保惠　2016.3「〔報告〕福島県文化財レスキュー事業で一時保管場所となった旧相馬女子高校の保存環境について」『保存科学』第55号 pp.89-101

高橋　充　2015.9「羽黒派」時枝務・長谷川賢二・林淳編『修験道史研究入門』pp.151-166　岩田書院

高橋　充　2016.2「転換する東北」「奥羽仕置」「コラム奥羽を襲った慶長地震」『東北の中世史５　東北近世の胎動』pp.1-6, 7-37, 163-166　吉川弘文館

高橋　充・阿部綾子　2016.3「寛永二年醍醐寺僧侶の東国下向記（３）」『福島県立博物館紀要』第30号　pp.69-78　福島県立博物館

高橋　満　2015.9「ガレキを歴史に変換する―ふくしま震災遺産保全プロジェクトを考える」『博物館研究』第50巻　第10号　pp. 25-28　公益財団法人日本博物館協会

高橋　満　2015.10「ふくしま震災遺産保全プロジェクトの活動」『地方史研究』第377号　pp.98-101　地方史研究協議会

高橋　満　2015.11「中島村四穂田古墳の発見と出土短甲について」『阿武隈川流域における古墳時代首長層の動向把握のための基礎的研究』pp.57-62　福島大学行政政策学類

高橋　満　2016.3「瓦礫を資料に変換する―ふくしま震災遺産保全プロジェクトの活動―」『災害・復興と資料』第７号　pp.1-7　新潟大学災害・復興科学研究所被災者支援研究（査読あり）

（イ）学会発表

内山大介　2015.12「産育祈願の吊るし飾り―福島県会津地方のカサボコとヒシ―」第40回日本民具学会大会　於茨城県立歴史館

山崎正彦･松田隆嗣･杉崎佐保惠　2015.6「博物館展示室における有機酸濃度の変動について」文化財保存修復学会第37回大会　於京都工芸繊維大学

高橋　充　2015.10.25「会津と相馬を行き交った人びと－戦国～江戸時代の日記・紀行文から－」会津史学会　於福島県立博物館

高橋　満　2015.9.26「ガレキから「我歴」へ―ふくしま震災遺産保全プロジェクトの活動―」ふくしま震災遺産保全プロジェクトアウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅡ」福島大学セッション「震災遺産とふくしまの記憶」記念シンポジウム「ふくしまの震災関連資料の保全と活用」　於福島大学

高橋　満　2015.11.21「中島村四穂田古墳の発見と出土短甲について」シンポジウム「阿武隈川流域の古墳時代を考える」福島大学行政政策学類考古学研究室　於郡山市民プラザ

高橋　満　2015.12.12「瓦礫を資料に変換す

る―ふくしま震災遺産保全プロジェクトの活動―」シンポジウム「震災資料・史料保存・災害史研究の融合をめざして」新潟大学災害・復興科学研究所被災者支援研究グループ　於新潟大学

高橋　満　2016.3.13「震災遺産保全の取り組み（瓦礫から我歴へ）」企画展「富岡町の成り立ちと富岡・夜の森、富岡町震災遺産展」講演会・シンポジウム　富岡町・富岡町教育委員会　於いわき明星大学

高橋　満　2016.3.19「福島県の震災遺構」ふくしま震災遺産保全プロジェクトアウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅡ」会津セッション「震災から５年を迎えて」プログラム３シンポジウム震災遺構を考える－震災を伝えるために－」於福島県立博物館

近藤康生・竹谷陽二郎・八巻安夫・荒　好・平　宗雄　2015.9「相馬中村層群山上層の中部ジュラ系二枚貝動物群」日本地質学会第122年学術大会　於長野

田中　敏　2016.2.19「被災文化財の状況と課題　福島の現状」平成27年度研究協議会「東日本大震災から５年―被災地域博物館の現状と今後」公益財団法人日本博物協会　於東北歴史博物館

イ．他団体による委嘱等

阿部綾子：青森県史編さん調査研究員　青森県

阿部綾子：相馬市史編さん調査執筆員　相馬市教育委員会

荒木　隆：会津坂下町史編さん委員　会津坂下町教育委員会

荒木　隆：勝堂寺・堂後遺跡調査指導委員会委員　湯川村教育委員会

内山大介：国立歴史民俗博物館　共同研究「東日本大震災被災地域における生活文化研究の復興と博物館型研究統合」共同研究員

内山大介：国立歴史民俗博物館　共同研究「地域における歴史文化研究拠点の現状と課題」共同研究員

内山大介：第40回日本民具学会大会実行委員会　委員

内山大介：会津の御田植祭調査委員会　副委員長

内山大介：民俗調査研究員　三島町歴史文化基本構想推進委員会

内山大介：三島町史編さん専門委員　三島町教育委員会

内山大介：福島県民俗学会事務局　福島県民俗学会

大里正樹：福島県民俗学会事務局　福島県民俗学会

大里正樹：野田市史編さん調査研究員　野田市

大里正樹：三島町史編さん専門委員　三島町教育委員会

大里正樹：民俗調査研究員　三島町歴史文化構造推進委員会

川延安直：喜多方市美術館収集委員会委員　喜多方市教育委員会

川延安直：「ふるさとの風景展」審査員　喜多方市美術館

川延安直：いわき市文化財保護審議委員会委員　いわき市教育委員会

川延安直：須賀川市文化財保護審議委員会委員　須賀川市教育委員会

川延安直：白河市文化財保護審議委員会委員　白河市教育委員会

川延安直：文化芸術による復興推進コンソーシアム推進委員　文化芸術による復興推進コンソーシアム運営委員会

川延安直：福島大学芸術による地域創造研究所研究員　福島大学

川延安直：会津若松市手づくり舞台制作委員会委員　会津若松文化振興財団

川延安直：文化のまちづくり事業委員会委員　会津若松文化振興財団

小林めぐみ：会津漆器技術後継者訓練校講師　会津漆器協同組合

佐治　靖：平安座の民俗と歴史研究　うるま市平安座自治会

佐治　靖：郡山市文化財保護審議委員会委員　郡山市教育委員会

佐治　靖：檜枝岐民俗誌編纂事業委員　檜枝岐村教育委員会

佐治　靖：大規模複合災害における自治体・コミュニテイの減災機能に関する社会学的研究　日本学術振興会

佐治　靖：災害復興における在来知－無形文化財の再生と記憶の継承　国立民族学博物館

佐治　靖: 課題研究懇話会「災害人類学」　日本文化人類学会

佐藤洋一：南会津町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員

高橋　充：二本松城跡整備検討委員会委員　二本松市教育委員会

高橋　充：向羽黒山城跡調査整備委員会委員　会津美里町教育委員会

高橋　充：原町市史編さん専門研究委員　南

相馬市教育委員会
高橋　充：相馬市史編さん調査執筆員　相馬市教育委員会
高橋　充：会津藩主松平家墓所及び名勝会津松平氏庭園整備指導会議委員　会津若松市教育委員会
高橋　充：会津藩主松平家墓所保存整備委員会委員　猪苗代町教育委員会
高橋　充：阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会委員　国見町教育委員会
高橋　充：伊達市宮脇廃寺跡保存管理計画策定委員会委員　伊達市教育委員会
高橋　充：棚倉城跡調査指導委員会委員　棚倉町教育委員会
高橋　充：会津坂下町史編さん委員会委員　会津坂下町
高橋　充：北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会委員　北塩原村教育委員会
高橋　充：小峰城跡石垣検討委員会委員　白河市
高橋　充：堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員　湯川村教育委員会
高橋　充：日本学術振興会「中世・近世移行期における守護所・城下町の総合的研究」　大阪市立大学
高橋　満　会津坂下町史編さん委員　会津坂下町教育委員会
高橋　満　科研費「阿武隈川流域における古墳時代首長層の動向」研究協力者　福島大学
高橋　満「日本先史文化の多視点的研究」研究推進員　明治大学
高橋　満「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」実行委員会事務局　同実行委員会
高橋　満　いわき市震災メモリアル検討会議委員　いわき市
竹谷陽二郎：相馬市史編さん調査執筆員　相馬市教育委員会
竹谷陽二郎：南相馬市博物館協議会委員　南相馬市博物館
竹谷陽二郎：磐梯山ジオパーク協議会運営委員長　磐梯山ジオパーク協議会
竹谷陽二郎：ジオパーク支援委員　日本地質学会
竹谷陽二郎：ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター
竹谷陽二郎：サポートセンター員　福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
田中　敏：会津坂下町史編さん委員　会津坂下町教育委員会
田中　敏：福島県考古学会理事　福島県考古学会
田中　敏：郷土研究奨励賞選考委員　会津若松市教育委員会
田中　敏：喜多方市美術館運営協議会委員　喜多方市教育委員会
田中　敏：子ども「ふるさと福島」魅力発掘プロジェクト審査員　福島観光交流課
藤原妃敏：会津若松市文化財保護審議委員　会津若松市教育委員会
藤原妃敏：原町市史編さん専門研究委員　南相馬市教育委員会
藤原妃敏：新鶴民俗資料館運営委員会津美里町教育委員会
藤原妃敏：喜多方市文化財保護審議委員会委員　喜多方市教育委員会
藤原妃敏：笹山原№16遺跡調査指導委員　郡山女子短期大学
藤原妃敏：福島県考古学会副会長　福島県考古学会
藤原妃敏：南相馬市博物館運営協議会委員　南相馬市博物館
藤原妃敏：会津坂下町史編さん委員　会津坂下町教育委員会
藤原妃敏：サポートセンター員　福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
森　幸彦：原町市史編さん委員　南相馬市教育委員会
森　幸彦：三島町歴史文化基本構想策定委員会文化財調査部会委員　三島町
森　幸彦：福島県の森林文化に係わる調査検討委員会委員　福島県森林文化課

ウ．研究助成金等

杉崎佐保惠：独立行政法人日本学術振興会
平成26年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（奨励研究）［平成27年度分］
研究テーマ「ソジウムセスキカーボネート法による出土鉄製品の脱塩処理過程における変色の研究」
杉崎佐保惠：独立行政法人日本学術振興会
平成27年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（奨励研究）
研究テーマ「臨海の遺跡から出土した金属製象嵌遺物の崩壊過程の解明と新たな保存方策の創出」
高橋　満：「縄文期晩期製塩土器における型式分類と資料化の標準に関する研究」明治大学
大久保忠和考古学振興基金奨励研究（2013-2014年度）

5. 教育普及事業

（1）講座・講演会

当館では館長と学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼しさまざまな講座・講演会等を実施している。

平成27年度の各講座の開催回数は116回、総参加者数は7,295人であった。

平成26年度の開催回数は96回で平成27年度は20回多かった。総参加者数は平成26年度6,086人で、1,209人の増加、前年比120％であった。以下は個別講座・講演等の一覧である。

平成27年度講座・講演会等行事一覧

（1）館長講座

テ　ー　マ	講　師	講師所属等	期　日	参加人数
『司馬遼太郎の東北紀行』①	赤坂憲雄	館長	4月16日(木)	150
『司馬遼太郎の東北紀行』②	赤坂憲雄	館長	5月21日(木)	148
『司馬遼太郎の東北紀行』③	赤坂憲雄	館長	6月18日(木)	130
『司馬遼太郎の東北紀行』④	赤坂憲雄	館長	7月16日(木)	138
『司馬遼太郎の東北紀行』⑤	赤坂憲雄	館長	8月20日(木)	124
『司馬遼太郎の東北紀行』⑥	赤坂憲雄	館長	9月17日(木)	123
『司馬遼太郎の東北紀行』⑦	赤坂憲雄	館長	10月15日(木)	135
『司馬遼太郎の東北紀行』⑧	赤坂憲雄	館長	11月19日(木)	116
『司馬遼太郎の東北紀行』⑨	赤坂憲雄	館長	12月17日(木)	101
『震災から５年を迎えて①』 「それでも、文化の力を信じてみたい」	赤坂憲雄 紺野美沙子	館長 UNDP［国連開発計画］親善大使	1月21日(木)	155
『震災から５年を迎えて②』 トークセッション「震災画像・震災アーカイブの可能性」	赤坂憲雄 金澤文利	館長 学芸員	2月18日(木)	95
『震災から５年を迎えて③』 シンポジウム「震災遺構を考える－震災を伝えるために－」	赤坂憲雄	館長	3月19日(土)	125

（2）考古学講座

テ　ー　マ	講　師	講師所属等	期　日	参加人数
実技講座「縄文土器を作ろう１」	森　幸彦	学芸員	8月 1日(土)	20
実技講座「縄文土器を作ろう２」	森　幸彦	学芸員	8月 2日(日)	20
実技講座「縄文土器の野焼き」	森　幸彦	学芸員	10月 4日(日)	20
考古学講座「サロン ド 考古学」	荒木　隆	学芸員	1月24日(日)	16
考古学講座「サロン ド 考古学」	荒木　隆	学芸員	2月28日(日)	75
考古学講座「サロン ド 考古学」	荒木　隆	学芸員	3月27日(日)	60
考古学講座「流廃寺成立の背景」	荒木　隆	学芸員	11月29日(日)	13
考古学講座「勾玉・ガラス玉を作ろう」	高橋　満	学芸員	3月26日(土)	20

（3）民俗講座

テ　ー　マ	講　師	講師所属等	期　日	参加人数
映像で見るふくしま伝承の技① 「紙を漉く技術～ふくしまの手漉き和紙～」	大里正樹	学芸員	5月16日(土)	18
映像で見るふくしま伝承の技②「奥会津の曲げ物づくり」	内山大介	学芸員	7月11日(土)	14
映像で見るふくしま伝承の技③ 「ふくしまの炭焼き～福島市茂庭地区～」	二瓶浩伸	学芸員	9月19日(土)	18
映像で見るふくしま伝承の技④ 「村のかじや～会津地方の野鍛冶の記録～」	大里正樹	学芸員	11月 1日(土)	8
映像で見るふくしま伝承の技⑤「会津の和ろうそくづくり」	内山大介	学芸員	1月23日(土)	18

（4）歴史講座

テ　ー　マ	講　師	講師所属	期　日	参加人数
面白資料で読む歴史①「江戸時代の絵暦に挑戦！」	阿部綾子	学芸員	6月13日（土）	23
面白資料で読む歴史②「180年前の東北の旅」	高橋　充	学芸員	6月20日（土）	22
面白資料で読む歴史③「1923－大正12年の世相－」	田中伸一	学芸員	8月22日（土）	11
面白資料で読む歴史④ 「考物（かんがえもの）に挑戦－明治時代の子ども脳トレー」	佐藤洋一	学芸員	8月29日（土）	20

（5）自然史講座

テ　ー　マ	講　師	講師所属	期　日	参加人数
屋外講座「化石をさがそう」	相田　優 他３名	学芸員	9月26日（土）	31
実技講座「化石標本をつくろう」	竹谷陽二郎 他３名	学芸員	9月27日（日）	17
鶴ヶ城の野鳥	古川裕司	野鳥研究家	11月15日（日）	12

（6）保存科学講座

テ　ー　マ	講　師	講師所属	期　日	参加人数
高校生向けの保存科学	杉崎佐保恵	学芸員	3月12日（土）	1

（7）ギャラリートーク

テ　ー　マ	講　師	講師所属	期　日	参加人数
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」①	荒木　隆	学芸員	4月12日（火）	20
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」②	荒木　隆	学芸員	5月10日（土）	9
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」③	荒木　隆	学芸員	6月14日（日）	6
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」④	荒木　隆	学芸員	7月12日（日）	15
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑤	荒木　隆	学芸員	8月 9日（日）	19
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑥	荒木　隆	学芸員	9月13日（日）	10
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑦	荒木　隆	学芸員	10月11日（日）	20
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑧	荒木　隆	学芸員	11月 8日（日）	10
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑨	荒木　隆	学芸員	12月13日（日）	7
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑩	荒木　隆	学芸員	1月10日（日）	8
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑪	荒木　隆	学芸員	2月21日（日）	5
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」⑫	荒木　隆	学芸員	3月13日（日）	9

（8）指導者向け研修

テ　ー　マ	講　師	講師所属	期　日	参加人数
博物館利用指導者研修会	田中伸一ほか	学芸員	7月31日（金）	11

（9）実技講座

テ　ー　マ	講　師	講師所属等	期　日	参加人数
「小旗をつくろう」	大野青峯 大野久子	伝統技術保持者	5月 5日 （火・祝）	20
会津・三島の編み組み細工「ヒロロの小物入れ作り」１	角田キイ子 海老名一子	伝統技術保持者	7月11日（土）	21
会津・三島の編み組み細工「ヒロロの小物入れ作り」２	角田キイ子 海老名一子	伝統技術保持者	7月12日（日）	21
「縄文時代の編み物を再現しよう！」	本間一恵	バスケタリー作家	1月 1日（日）	15
博物館だより読者モデル　時代衣装撮影会		学習支援班	2月27日（土）	5

(10) 実演

テ　ー　マ	講　師	講師所属等	期　日	参加人数
「大堀相馬焼の絵付け」	半谷みどり	大堀相馬焼窯元　休閑窯	6月21日(土)	13
「昔語り」	横山幸子	語り部	9月12日(土)	30
紙芝居「スーパー古事記」①	荒木　隆	学芸員	4月26日(日)	18
紙芝居「スーパー古事記」②	荒木　隆	学芸員	5月24日(日)	20
紙芝居「スーパー古事記」③	荒木　隆	学芸員	6月28日(日)	18
紙芝居「スーパー古事記」④	荒木　隆	学芸員	7月26日(日)	22
紙芝居「スーパー古事記」⑤	荒木　隆	学芸員	8月23日(日)	20
紙芝居「スーパー古事記」⑥	荒木　隆	学芸員	9月27日(日)	31
紙芝居「スーパー古事記」⑦	荒木　隆	学芸員	10月25日(日)	10
紙芝居「スーパー古事記」⑧	荒木　隆	学芸員	11月22日(日)	15

(11) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）

テ　ー　マ	講　師	講師所属等	期　日	参加人数
企画展講座「壁画古墳の模型を作ろう」①	荒木　隆	当館学芸員	4月25日(土)	8
企画展「ふるさと会津の人と四季－福島県立美術館名品展－」ギャラリートーク	早川博明	福島県立美術館長	5月 2日(土)	45
企画展「ふるさと会津の人と四季－福島県立美術館名品展－」ギャラリートーク	坂本篤史 白木ゆう美	福島県立美術館学芸員	5月16日(土)	53
企画展講座「壁画古墳の模型を作ろう」②	荒木　隆	当館学芸員	5月23日(土)	6
企画展講座「壁画古墳の模型を作ろう」③	荒木　隆	当館学芸員	5月30日(土)	5
企画展イベント「公開対談　喜多方美術倶楽部をめぐって」	後藤　學 増渕鏡子	喜多方市美術館長 福島県立美術館学芸員	6月 6日(土)	53
企画展「ふるさと会津の人と四季－福島県立美術館名品展－」ギャラリートーク	堀　宣雄	福島県立美術館学芸員	6月21日(日)	42
企画展記念講演会「ふくしま復興調査元年―阪神淡路大震災と東日本大震災―」	山本　誠	兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財課長	7月25日(土)	40
企画展「被災地からの考古学１―福島県浜通り地方の原始・古代」展示解説会	荒木　隆	当館学芸員	7月25日(土)	20
企画展記念講演会「復興調査最前線１―派遣職員が見たふくしまの遺跡－」	荒木　隆	当館学芸員	8月 8日(土)	53
企画展記念講演会「浜通り地方から福島県の古代を読み解く１」	荒木　隆	当館学芸員	8月15日(土)	33
企画展記念講演会「復興調査最前線２－浜通り地方市町村教育委員会の調査－」	木幡成雄 荒　淑史	いわき市教育文化事業団 南相馬市教育委員会	9月 5日(土)	39
企画展「相馬中村藩の人びと」展示解説会	高橋　充	当館学芸員	10月10日(土)	40
企画展記念講演会「相馬中村藩の成立と家格形成」	岡田清一	東北福祉大学教授	10月17日(土)	58
企画展関連講座「御料理方に学ぶ！江戸の料理作法―折形を折ってみよう―」	平出美穂子	食文化研究家	10月31日(土)	15
企画展「相馬中村藩の人びと」展示解説会	高橋　充	当館学芸員	11月 7日(土)	15
企画展「相馬中村藩の人びと」展示解説会	高橋　充	当館学芸員	11月14日(土)	4
企画展「相馬中村藩の人びと」展示解説会	高橋　充	当館学芸員	11月21日(土)	25
企画展「相馬中村藩の人びと」展示解説会	高橋　充	当館学芸員	11月28日(土)	16
特集展「震災遺産を考える―ガレキから我歴へ―」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	2月11日(木・祝)	12
特集展「震災遺産を考える―ガレキから我歴へ―」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	2月14日(日)	20

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
特集展「震災遺産を考える－ガレキから我歴へ－」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	2月21日(日)	35
特集展「震災遺産を考える－ガレキから我歴へ－」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	2月28日(日)	9
特集展「震災遺産を考える－ガレキから我歴へ－」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	3月 6日(日)	19
特集展「震災遺産を考える－ガレキから我歴へ－」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	3月13日(日)	24
特集展「震災遺産を考える－ガレキから我歴へ－」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	3月20日(日)	18
特集展「震災遺産を考える－ガレキから我歴へ－」展示解説会	震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	当館学芸員	3月21日(月・祝)	27

(12) ミュージアムイベント

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
玄如節と会津の民謡		玄如節顕彰会	6月27日(土)	85
夏休み子ども映画会「アナと雪の女王」		シネマエール東北	7月20日(月・祝)	50
会津磐梯山・市民盆踊り		会津磐梯山盆踊り保存会	8月15日(土)	315
夏休みナイトミュージアム	各分野学芸員	学芸員	8月22日(土)	80
ハワイアン in けんぱく		モハル・ハワイアンズ	9月20日(日)	178
おはなしのへや2015 in けんぱく		読み聞かせグループ「おはなしのへや」	10月24日(土)	25
クリスマス！クラシックアンサンブルコンサート		会津室内楽団Coderanni	12月19日(日)	244

(13) 共催事業

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
森のはこ舟アートプロジェクトフォーラム	森のはこ舟アートプロジェクト（県文化振興課）	川延安直 小林めぐみ	5月16日(土)	85
移動展「見る・さわる　世界の化石」展示解説会	三春町歴史民俗資料館	相田　優 他１名	7月18日(土)	35
移動展関連講座「化石標本をつくろう」	三春町歴史民俗資料館	相田　優 他３名	7月25日(土)	34
移動展「被災地からの考古学 in いわき」記念講演会「浜通り地方から福島県の古代を読み解く」	いわき市考古資料館	荒木　隆	10月10日(土)	39
移動展「被災地からの考古学 in いわき」関連事業中央大学学術講演会「東日本大震災と考古学」	中央大学部文学部教授	小林謙一	10月24日(土)	95
移動展「被災地からの考古学inいわき」記念講演会「復興調査から見えてきたいわき地方の歴史」	いわき市考古資料館	木幡成雄	12月5日(土)	45
移動展「藤井康文　恐竜イラスト原画展」	福島県立図書館	自然分野	12月 4日(金) ～ 1月 6日(水)	1015
移動展「被災地からの考古学in南相馬」記念講演会「浜通り地方から福島県の古代を読み解く」	南相馬市博物館	荒木　隆	1月30日(土)	75
移動展「被災地からの考古学in南相馬」記念講演会「シリーズ浜通りの地方の製鉄を考える」	日本古代生産蜐銑生産研究会	吉田秀亨	2月 6日(土)	30
移動展「被災地からの考古学in南相馬」記念講演会「復興調査から見えてきた南相馬地方の歴史」	南相馬市教育委員会文化課	荒　淑人	2月27日(土)	20
復興応援パートナー事業「3.11 ふくしま復興への想いを込めて2016 from 会津」	福島県会津地方振興局	学習支援班	3月 5日(土)	864

(14) 後援事業

テ　ー　マ	主　催	講師・所属等	期　日	参加人数
福島県造形サークル連合大会講演会	阿部宏行	北海道教育大学教授	8月 1日(土)	70
シンポジウム「国立自然史博物館をふくしまに！」	西　弘嗣	東北大学総合学術博物館	9月 3日(木)	51
玄如節顕彰碑建立15周年記念事業「玄如節　再興・再考・最高！」		玄如節顕彰会	10月23日(金)	85
会津史学会歴史文化講演会「会津と相馬を行き交った人々」	高橋　充	当館学芸員	10月25日(日)	66
会津史談会公開文化講座「縄文人の愛と死」	森　幸彦	当館学芸員	11月26日(木)	101
会津若松市教育委員会主催「会津大塚山古墳出土品講演会」	塚本敏史	元興寺文化財研究所	12月12日(土)	173
会津民俗研究会公開講座 「廃村の民俗－東山湯の入りの生活を語る－」	佐々木長生 滝沢洋之	会津民俗研究会	12月23日 (水・祝)	108

(15) 企画展・特集展内覧会（友の会）

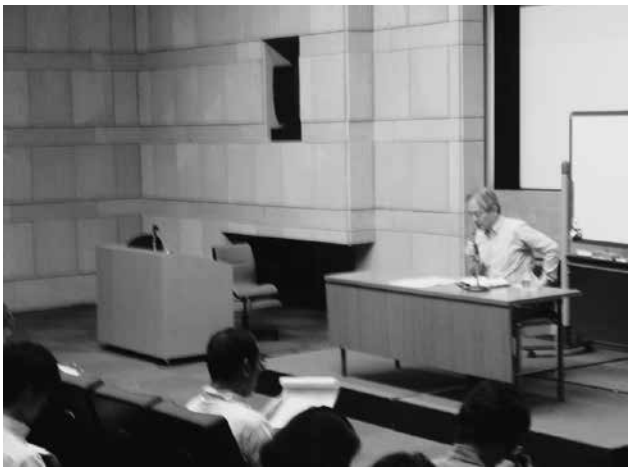
テ　ー　マ	主　催	講師・所属等	期　日	参加人数
企画展「ふるさと会津の人と四季」	美術	川延安直	5月 1日(金)	65
企画展「被災地からの考古学１」	考古	荒木　隆	7月17日(金)	43
企画展「相馬中村藩の人びと」	歴史	高橋　充	10月９日(金)	60

平成27年度講座・講演会等の回数と参加者数

テ　ー　マ	回　数	参加者数
(1) 館長講座	12	1,540
(2) 考古学講座	8	244
(3) 民俗講座	5	76
(4) 歴史講座	4	76
(5) 自然史講座	3	60
(6) 保存科学講座	1	1
(7) ギャラリートーク	12	138
(8) 指導者向け研修	1	11
(9) 実技講座	5	82
(10) 実演	10	197
(11) 企画展関連行事 (記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等)	27	734
(12) ミュージアムイベント	7	977
(13) 共催事業	11	2,337
(14) 後援事業	7	654
(15) 企画展・特集展内覧会（友の会）	3	168
計	116	7,295

館長講座「司馬遼太郎の東北紀行」2

考古学講座「サロン ド 考古学」



館長講座「司馬遼太郎の東北紀行」4

考古学講座「縄文土器の野焼き」

館長講座「震災から5年を迎えて
―それでも文化の力を信じてみたい―」

考古学講座「縄文土器をつくろう」

考古学講座「壁画古墳の模型をつくろう」

自然史講座「化石標本をつくろう」

民俗学講座「奥会津の曲げ物づくり」

実演「スーパー古事記」

歴史講座「180年前の東北の旅」

実演「昔語り」

実演「大堀相馬焼の絵付け」

実技講座「縄文時代の編み物を再現しよう！」

実技講座「小旗をつくろう」

「博物館だより読者モデル　時代衣装撮影会」

実技講座「ヒロロの小物入れ作り」

（２）学校・文化施設との連携

各種学校および文化施設との連携を図りながら、次の事業を展開した。

ア．展示室での自主学習

常設展示室における児童・生徒の学習活動が有意義なものとなるように、発達段階や見学の目的などに応じた２種類のワークシートを準備している。

（ア）博物館見学のしおり（小・中学生用）

常設展示室の展示資料を見る際のポイントを与えるように設問形式で構成されており、書き込みながら学べるようになっている。児童・生徒は自分のペースで見学し、自由な考察ができる。個人および団体来館する小・中学生全員に受付で配布している。

博物館見学のしおり

博物館を探検しよう！

総合展示

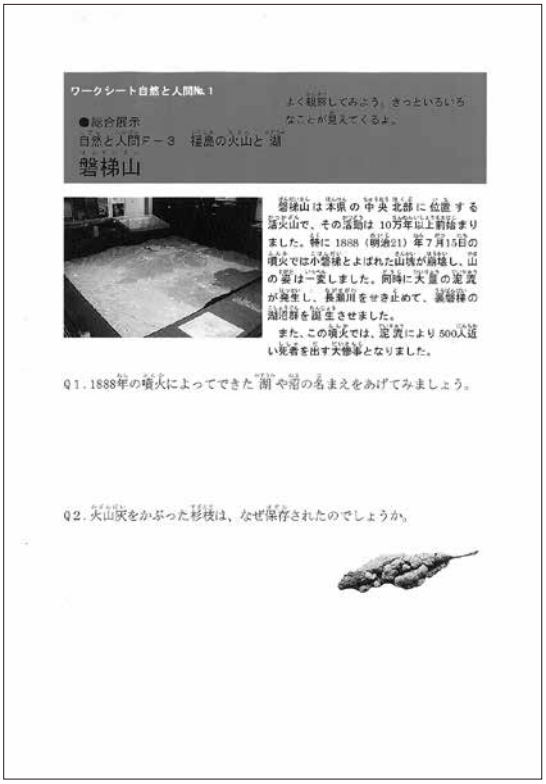
①原　始

②古　代

博物館見学のしおり

（イ）ワークシート

小学校高学年から中学生向けに作成されていて、常設展示を構成する６つの大テーマに沿うかたちで、展示室内の主要な資料を題材に取り上げている。当館ホームページからダウンロードすることによって、学習の目的に応じて選択し利用できる。


ワークシート自然と人間No.1

●総合展示

自然と人間F－３　福島の火山と湖

磐梯山

Q1. 1888年の噴火によってできた湖や沼の名まえをあげてみましょう。

Q2. 火山灰をかぶった杉枝は、なぜ保存されたのでしょうか。

ワークシート

イ．団体体験学習プログラム

児童・生徒が博物館の資料を用いながら体験をすることは、多様なものの見方や考え方を育む上で有効である。当館では入館団体の多様なニーズに対応すべく、事前申込制による「原始・古代のワザに挑戦（考古分野）」「化石にふれてみよう（自然分野）」「紙すきハガキづくり（民俗分野）」「昔の道具体験（民俗分野）」「度量衡の統一と農民のくらし（歴史分野）」の５つの団体体験学習プログラムを準備している。前年度（29回、989名）から実施回数、人数ともに減少した。昨年大幅に増加した「原始・古代のワザに挑戦」の「火おこし」が例年並みの人数となったことによる。小学３年生の授業と連動した内容となっている「昔の道具体験」は実施回数が倍増した。

○体験学習プログラム実施状況

「原始・古代のワザに挑戦（考古分野）」

	12回	343名
• 勾玉づくり	7回	223名
• 火おこし	4回	116名
• 石器で切ってみよう	1回	4名

「化石にふれてみよう（自然分野）」

	0回	0名

「紙すきハガキづくり（民俗分野）」

	3回	31名

「昔の道具体験（民俗分野）」	9回	246名

「度量衡の統一と農民のくらし（歴史分野）」

	3回	50名
合計	27回	670名

体験学習「勾玉作り」

体験学習「昔の道具体験」

ウ．指導者向け研修

学校教育・生涯教育関係者を対象に博物館利用指導者研修会を実施している。団体体験学習プログラムを実際に体験してもらうことにより、当館の学習支援活動への理解を深め、学校や公民館の諸活動における活用の推進を図っている。平成27年度は博物館の震災復興に向けた取り組みを紹介するとともに、「震災遺産」資料から今後の防災教育のあり方について協議を行った。

平成27年７月31日（金）参加者11名
（小学校教員１名　中学校教員５名
高校教員３名　公民館職員等２名）

福島県立博物館　平成27年度博物館利用指導者研修会内容

時　間	内　容	担　当	場　所
9:30～ 9:45	受付	学習支援班	視聴覚室前
9:45～10:20	開講式	学習支援班（田中伸一）	視聴覚室
	研修Ⅰ「博物館の学習支援活動のご案内」		
10:20～10:50	研修Ⅱ「常設展の通し解説」	展示解説員	常設展示室
11:00～11:30	研修Ⅲ「博物館バックヤード見学」	学習支援班（二瓶浩伸）	バックヤード
11:30～12:00	研修Ⅳ「学芸員による企画展の展示解説」	考古分野（森　幸彦）	企画展示室
― 昼　食 ―			
13:00～13:30	研修Ⅴ「震災遺産を考える１」	ふくしま震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	視聴覚室
13:30～14:30	研修Ⅵ「震災遺産を考える２」	ふくしま震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	企画展示室
14:40～15:40	研修Ⅶ「震災遺産を考える３」	ふくしま震災遺産保全プロジェクト担当学芸員	実習室
15:40～15:50	閉講式	学習支援班	実習室

博物館利用指導者研修会「震災遺産を考える」

エ．学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で学習用具・教材等の貸出を行っている。

○学習用具・教材等の貸出実績

- 火縄銃模型　１点
  福島県立福島西高等学校
- 米俵　１点
  福島県立福島西高等学校
- 舞いぎり式発火具セット　１点
  福島県立福島西高等学校
- 切りもみ式発火具セット　１点
  福島県立若松商業高等学校
- 舞いぎり式発火具セット　１点
  福島県立若松商業高等学校

オ．ゲストティーチャー

当館学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。

ゲストティーチャー実施一覧

月　日	講　師	分野	内　　容	実　施　先	科　　目
5月22日	高橋　充 猪瀬弘瑛	歴史 自然	片曽根山登山	福島県立船引高等学校	行事
6月18日	田中伸一	歴史	会津の偉人 ～戊辰戦争を経験した人々～	東山小学校	総合的な学習の時間
7月 7日	小林めぐみ	美術	会津の漆器	会津学鳳中学校	総合的な学習の時間
9月18日	田中伸一	歴史	会津の偉人 ～戊辰戦争を経験した人々～	謹教小学校	総合的な学習の時間
10月20日	相田　優	自然	環境教育－自然に学ぶ	会津慈光こども園	行事
10月21日	相田　優	自然	環境教育－自然に学ぶ	慈光第二幼稚園	行事
10月29日	高橋　充	歴史	武士の台頭と鎌倉幕府	耶麻支部社会科部会	社会
11月 7日	森　幸彦	考古	火おこし体験	ザベリオ学園小学校	行事

カ．職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。平成27年度は５校からの要請があり、当館における業務を幅広く体験してもらった。

○職場体験受け入れ実績（児童・生徒のみ）

- 福島県立若松商業高等学校
  （２年生：５名）２日間
- 会津若松市立第四中学校
  （２年生：５名）２日間
- 会津若松市立第五中学校
  （２年生：２名）２日間
- 会津若松市立一箕中学校
  （２年生：４名）２日間
- 金山町立金山中学校
  （３年生：１名）１日間

職場体験「自然資料の取扱い」

職場体験「美術資料の取扱い」

キ．博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。平成27年度は県内出身および県内大学に在学する学生15名を受け入れた。演習「体験学習メニューの企画立案」では、３班に分かれて新しい体験学習メニューを企画した。実際に実施することを想定しながら、プレゼンテーション形式で発表したのち積極的な意見交換を行うことができた。

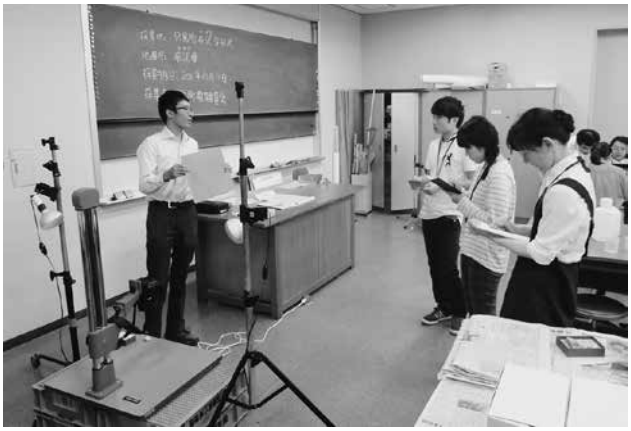
実習期間　８月25日（火）～８月30日（日）

実習生所属大学一覧

No.	大　学　名	人数
1	秋田公立美術大学	4
2	華頂短期大学	1
3	郡山女子大学短期大学部	1
4	大正大学	1
5	帝京大学	1
6	東海大学	1
7	東京農業大学	2
8	日本大学	1
9	盛岡大学	1
10	山形県立米沢女子短期大学	2
	合　　計	15

福島県立博物館　平成27年度博物館実習日程・内容

月　日	時　　間	内　　容	担　　当	場　　所
8月25日（火）	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班（森・田中伸）	第２会議室
	9:00～ 9:10	実習生紹介	学習支援班（田中伸）	事務室
	9:10～ 9:40	オリエンテーション	学習支援班（田中伸）	第２会議室
	9:50～12:00	福島県立博物館の概要	学芸課長（田中敏）（高橋満）	視聴覚室
	ー昼 食ー			
	13:00～13:30	博物館の資料と調査研究	資料整理・保存班（相田）	第２会議室
	13:30～14:00	博物館の広報普及活動	広報班（川延）	第２会議室
	14:00～14:30	博物館の展示	展示・企画班（高橋充）	第２会議室
	14:40～16:00	常設展・企画展の自由見学	学習支援班（田中伸）	展示室
	16:10～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班（田中伸・二瓶・猪瀬）	第２会議室
26日（水）	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班（森・田中伸）	第２会議室
	9:10～12:00	歴史資料の取り扱い	歴史分野（阿部・竹内）	第２会議室
	ー 昼　食 ー			
	13:00～15:50	民俗資料の取り扱い	民俗分野（佐治・二瓶・内山・大里）	第１収蔵庫ほか
	16:00～16:30	図書資料の整理・登録	資料整理・保存班（相田・相原）	図書室
	16:30～17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班（田中伸・二瓶・猪瀬）	第２会議室
27日（木）	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班（森・田中伸）	第２会議室
	9:10～12:00	自然資料の取り扱い	自然分野（相田・香内・猪瀬・竹谷）	実習室
	ー 昼　食 ー			
	13:00～15:50	考古資料の取り扱い	考古分野（森・藤原）	実習室
	16:00～16:30	図書資料の整理・登録	資料整理・保存班（相田・相原）	図書室
	16:30～17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班（田中伸・二瓶・猪瀬）	第２会議室
28日（金）	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班（森・田中伸）	第２会議室
	9:10～12:00	美術資料の取り扱い	美術分野（川延・小林・金澤）	第２会議室
	ー 昼　食 ー			
	13:00～15:50	資料の保存	保存科学分野（杉崎）	実習室
	16:00～16:30	図書資料の整理・登録	資料整理班（相田・相原）	図書室
	16:30～17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班（田中伸・二瓶・猪瀬）	第２会議室
29日（土）	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班（森・田中伸）	第２会議室
	9:10～12:00	演習①（体験学習メニューの体験）	学習支援班（森・田中伸）考古分野	実習室
	ー 昼　食 ー			
	13:00～16:20	演習②（前時の続き・体験メニューの企画立案）	学習支援班（森・田中伸）	第２会議室
	16:30～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班（田中伸・二瓶・猪瀬）	第２会議室
30日（日）	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班（森・田中伸）	第２会議室
	9:10～12:00	演習③（体験メニューの企画立案・発表準備）	学習支援班（森・田中伸）	実習室
	ー 昼　食 ー			
	13:00～15:30	演習④（発表・意見交換）	学習支援班（森・田中伸）	実習室
	15:30～16:00	実習を終えて（感想・意見交換）	学習支援班（森・田中伸）	実習室
	16:10～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班（森・田中伸）	実習室



博物館実習「自然分野」

博物館実習「体験学習メニューの企画立案」

（3）生涯学習・研究支援

ア．相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物、および博物館資料に関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の３項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。平成27年度は32冊増加し、合計2,660冊となった。

相談コーナーは、入館者の展示や資料に関する質問や相談の求めに応じて、入館者と学芸員が面談する場としても利用される。

イ．資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数：
考古：７件27点　歴史：18件108点
美術：４件24点　自然：１件１点

ウ．講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。

平成27年度の派遣回数は14回であった。

講師派遣一覧

No.	月日	講　師	分野	演題・内容等	主　　催
1	5月31日	香内　　修	自然	地質調査・説明会	慶山自主防災会
2	6月 4日	竹谷陽二郎	自然	シンポジウム「国立自然史博物館をふくしまに！」	福島県自然史博物館設立推進協議会
3	7月 3日	高橋　　充	歴史	会津の戦国武将	会津美里町公民館「いさすみ学園」
4	8月30日	田中　　敏	考古	ふくしまの弥生時代とおおたま下高野遺跡	大玉村教育委員会
5	9月 5日	内山　大介	民俗	会津の観音さまと安産への祈り－女性の暮らしと観音信仰－	桜の聖母大学生涯学習センター
6	10月 3日	内山　大介	民俗	観音堂の吊るし飾り－酒田の傘福と会津のカサボコ－	桜の聖母大学生涯学習センター
7	10月16日	田中　伸一	歴史	社会福祉の母　瓜生岩子	社会福祉法人恩賜財団済生会
8	10月22日	高橋　　充	歴史	戦国武将：葦名氏・伊達氏・蒲生氏・上杉氏	会津若松市生涯学習センター
9	11月21日	阿部　綾子	歴史	斗南藩とその史跡	猪苗代町教育委員会
10	11月29日	二瓶　浩伸	民俗	山間部の民俗「福島市茂庭の民俗」	会津若松市北公民館
11	12月13日	高橋　　満	ふくしま震災遺産保全プロジェクト	シンポジウム「震災資料・資料保存・災害史研究の融合をめざして」	新潟大学災害・復興科学研究所
12	12月14日	高橋　　満	ふくしま震災遺産保全プロジェクト	シンポジウム「震災資料・資料保存・災害史研究の融合をめざして」	新潟大学災害・復興科学研究所
13	12月17日	阿部　綾子	歴史	会津藩の歴史	会津若松市生涯学習センター
14	2月24日	高橋　　充	歴史	江戸時代の会津人の旅－会津三十三観音と相馬野馬追－	会津美里町本郷公民館

講師派遣「観音堂の吊るし飾り
―酒田の傘福と会津のカサボコ―」

（4）博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して博物館だよりの送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア．友の会の概要

①発足　平成元年３月10日

②設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

③総会の開催

平成28年３月19日に開催した。平成27年度の事業・会務・会計決算等の報告と平成28年度の計画を協議し、承認された。また、各サークルの活動・会計の報告が行われた。

④平成27年度会員数

個人会員：236　家族会員：91
高校生会員：0　賛助会員：7
合計：334名

イ．平成27年度事業概要

（ア）研修旅行

○「春の研修旅行」『越後・長岡　歴史と文化と美術をめぐる旅』

研修先：長岡～新潟県立歴史博物館、河井継之助記念館、新潟県立近代美術館など
期　日：平成27年５月22日
参加者：39名

○「秋の研修旅行」『花のお江戸の美術館・博物館巡りと東京湾クルーズの旅』（中止）

春の研修旅行を実施した。ゆったりとした計画で、各見学地で充実した鑑賞ができた。特に河井継之助記念館では館長より解説をいただき、興味深い話に参加者は耳を傾けていた。

秋は、１泊２日の日程で東京方面の博物館・美術館めぐりを企画したが、催行最少人数に達せずやむなく中止となった。

（イ）会報の発行

年４回（季刊）、会報を発行し会員に配布した。会員の文化活動を紹介する記事を充実させ、会員の顔が見える紙面作りに努めた。

（ウ）博物館事業への協力

○博物館展示観覧

平成27年度友の会会員入館者数
常設展 595件　企画展382件

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

５月１日（金）：「ふるさと会津の人と四季」内覧会　65名参加
７月17日（金）：「被災地からの考古学１」内覧会　43名参加
10月９日（金）：「相馬中村藩の人びと」内覧会　60名参加

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

ウ．サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会の２サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

１．化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数35名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

平成27年度は次の活動を行った。

①４月26日　栃木県日光市横川　越路鉱山での鉱物採集
②５月24日　只見町　黒沢鉱山での鉱物採集
③６月14日　山都町一ノ木　黒森鉱山での鉱物採集
④７月５日　新潟県胎内市　持倉鉱山での鉱物採集
⑤８月30日　金山町　田代鉱山・三更鉱山での鉱物採集
⑥９月26日　塙町　藤田砿業採石場での化石採集（博物館野外講座への協力）
⑦10月18日　新潟県　倉谷鉱山での鉱物採集
⑧12月６日　県立博物館での冬の学習会
⑨平成28年３月６日　定期総会・研修会
研修会講師：県立博物館学芸員
猪瀬弘瑛

２．古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は、随時20～30名が参加し、活動を続けてきた。メンバーはそれぞれ５つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解読・考察にあたっている。テキストには当初から県指定文化財の簗田家文書（福島県立博物館寄託）を用いている。簗田家は江戸時代に若松城下の検断（町役人）をつとめた家で、その文書は城下の諸相を伝える良質な資料であり、解読を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見を深めている。近年では平成26年度から明治元年の公用簿籍をテキストとし、戊辰戦争から150年の節目を迎える平成30年度に読み終えるのを目標としている。

平成27年度の活動人数は26名で、平成26年度に引き続き月１回・第２土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に全員で文字・内容の検討を行った。

春の研修旅行（新潟県立歴史博物館）

春の研修旅行（河井継之助記念館）

「ふるさと会津の人と四季」友の会内覧会

「被災地からの考古学１」友の会内覧会

「相馬中村藩の人びと」友の会内覧会

6. 広報公聴活動および出版事業

（1）広報活動

ア. 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物として次のものを発行している。

福島県立博物館　平成27年度　広報用印刷物の印刷部数と送付先

種　類	サイズ	印刷数	主な送付先
ポスター	B 2	美術館移動展「ふるさと会津の人と四季」 3,500枚 企画展「被災地からの考古学１―福島県浜通り地方の原始・古代―」 2,000枚 移動展「被災地からの考古学１―福島県浜通り地方の原始・古代―」 700枚 企画展「相馬中村藩の人びと」 2,500枚 特集展「ふくしま震災遺産保全プロジェクト 震災遺産を考える」300枚	県内小・中・高校　県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設　県外主要博物館　東北・関東地方の県立図書館・大学図書館　会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭　博物館友の会会員（町貼り協力者）　県内市町村教育委員会　会津方部県出先機関　県教育事務所
リーフレット	A 4	美術館移動展「ふるさと会津の人と四季」 39,000枚 企画展「被災地からの考古学１―福島県浜通り地方の原始・古代―」 20,000枚 企画展「相馬中村藩の人びと」 30,000枚 特集展「ふくしま震災遺産保全プロジェクト　震災遺産を考える」 5,000枚	県内および近県の新聞社・放送局　県内タウン情報誌　県内公立小・中・高校　県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設　県外主要博物館　東北・関東地方の県立図書館・大学図書館　会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭　南東北・関東・新潟旅行代理店　博物館友の会会員（町貼り協力者）県内市町村教育委員会　会津方部県出先機関　県教育事務所
博物館だより （博物館の広報誌）	A 4 8 頁	3,500冊×4回＝14,000冊	県内タウン情報誌　県内公立小・中・高校　県内私立小・中・高校　県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設　県外主要博物館　東北・関東地方の国立・県立図書館・大学図書館　県内市町村教育委員会　会津方部県出先機関　県教育事務所
年間催し物案内	20×39.4㎝ 四つ折り	45,000枚×１回＝45,000枚	県内の放送局　県内タウン情報誌　県内公立小・中・高校　県内私立小・中・高校　県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設　県外主要博物館　東北・関東地方の県立図書館・大学図書館　会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭　南東北・関東・新潟旅行代理店　県内市町村教育委員会　会津方部県出先機関　県教育事務所
はくぶつかんニュース	A 4 両面 （館内印刷）	12,600枚×４回＝50,400枚	県内公立小・中・高校　県内私立小・中学校　県内図書館・公民館・教育施設　県内市町村教育委員会　県教育事務所
月行事予定表	A 4 （館内印刷）	12,600枚×12回＝151,200枚	県内および新潟県の新聞社・放送局　県内タウン情報誌　会津若松市記者クラブ　会津若松市・周辺市町村の観光・広報係　県内主要文化施設
プレス・リリース （企画展の記者発表などマスコミ向けイベント情報の提供）	A4 （館内印刷）	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌　場合により近県のマスコミに提供　県政記者クラブ　会津若松市記者クラブ

博物館だより第117号

イ．広　告

特に企画展等の広報を目的とする広告を次のとおり実施した。

広告掲載一覧

展　示　会	看　　板 (駅前・博物館周り)	新　　聞
美術館移動展「ふるさと会津の人と四季」	○	―
夏の企画展「被災地からの考古学１」	○	―
秋の企画展「相馬中村藩の人びと」	○	―
年頭広告	―	福島民報社・ 福島民友新聞社

ウ．ホームページ

当館ではホームページを開設し、館の紹介をはじめ、展示やイベントなどの各種情報、出版物の案内などを発信している。

平成27年度ホームページアクセス件数（ページ数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
40, 238	36, 448	45, 495	42, 751	41, 018	34, 552	31, 837	38, 707	31, 528	32, 175	34, 232	31, 354	440, 335

エ．ソーシャル・ネットワーキング・サービス

当館ではより身近で親しみやすいかたちでの広報活動を目指し、平成27年度末（３月25日）よりソーシャル・ネットワーキング・サービス「Facebook(フェイスブック)」の公式ページ（URL：https://www.facebook.com/fukushimamuseum/ ）の公開を開始した。週に１～２回程度の更新を行い、展示やイベントの近況レポート等を発信している。

オ．記事・放映

新聞・テレビ・ラジオ等のマスコミによる、各種行事の取材に基づいた記事・放映は次の通りである。

（ア）春の企画展「福島県立美術館移動展『ふるさと会津の人と四季』」

- 福島民報「県立美術館の改修　ファン増やす好機に」（４月６日記事）
- 福島民報「美の力ことばの力　福島の企画展会津の原風景見つめ」（４月18日記事）
- 福島民報「県立博物館　企画展きょう開幕会津ゆかりの作品一堂に」（５月２日記事）
- 福島民友「会津ゆかり15作家の名品　きょうから県立博物館」（５月２日記事）
- 福島民友「ふるさと会津の人と四季　県立美術館名品展　②多彩な会津出身画家」（５月４日記事）
- 福島民友「ふるさと会津の人と四季　県立美術館名品展　⑤斎藤清の世界１」（５月８日記事）
- 福島民友「会津の画家　名品一堂　酒井三良の変遷一目」（５月８日記事）
- 河北新報「会津ゆかりの作品一堂に」（５月８日記事）

（イ）夏の企画展「被災地からの考古学Ⅰ－福島県浜通り地方の原始・古代－」

- 福島民報「浜通りの出土品500点　古墳時代の土師器も」（７月18日記事）
- 福島民友「土器、経筒　貴重な遺物『先人の生きざま感じて』」（７月19日記事）

（ウ）秋の企画展「相馬中村藩の人びと」
- 福島民友「相馬家の歩み紹介　きょうから県立博物館」（10月10日記事）
- 福島民報「相馬中村藩を解説　若松の県立博物館きょう企画展開幕」（10月10日記事）
- 毎日新聞「中村藩の歴史と文化紹介　会津若松・県立博物館で企画展」（10月11日記事）
- 福島民報「『相馬中村藩にスポット』若松・県立博物館で企画展開幕」（10月11日記事）
- ふくしまＦＭ「キビタンスマイル～ふくしまからチャレンジはじめよう～」（10月15日放送）
- 読売新聞「苦難耐えた先人に学ぶ　県立博物館相双地方の史料113点」（10月20日記事）
- 福島民友「江戸時代の野馬追活写」（10月28日記事）
- ＮＨＫ福島「ひるはぴ福島」（10月28日放送）
- 朝日新聞「江戸時代の野馬追　会津から『観光』　県立博物館で企画展」（11月17日記事）
- 福島民報「美の力ことばの力　ふくしまの企画展　精緻な野馬追の絵巻」（11月21日記事）
- 福島民友「みんゆうジュニア情報局　昔の野馬追」（11月21日記事）

（エ）特集展「震災展」
- 福島民報「特集展　『震災遺産を考える』」（１月７日広告）
- 福島民友「記憶伝える『震災遺産』県立博物館で特集展　５年の節目　富岡、浪江３Ｄ再現」（１月29日記事）
- 福島民友「震災遺産　対談やシンポ　来月から県立博物館」（１月30日記事）
- 福島民報「被災地資料や３Ｄ映像　震災５年の企画展　11日から若松の県立博物館」（１月31日記事）
- 福島民報「若松の県立博物館　特集展始まる被災地の資料や映像『震災遺産』並ぶ」（２月12日記事）
- 福島民友「あの日の遺産忘れない　最大規模の県博震災企画　落下した天井照明、駅名板」（２月12日記事）
- 朝日新聞「ガレキ＝我歴　記憶に刻む　県立博物館」（２月12日記事）
- 読売新聞「３Ｄで被災地体験　県立博物館」（２月12日記事）
- 朝日新聞「災後考６年目の先に　被災の現実失わぬために　ガレキは『我歴』収集し保管」（ふくしま震災遺産保全プロジェクト関連、３月15日記事）

（オ）テーマ展
- 福島民報「本県ゆかりの絵師の作品　限定公開」（11月17日記事）

（カ）ポイント展
- 福島民報「松平容保公への手紙公開　県立博物館　旧会津藩関係者の足跡展」（８月23日記事）

（キ）その他

収蔵資料関係
- 福島民報「学芸員が選ぶベストセレクション１　三角縁神獣鏡」（４月25日記事）
- 福島民報「学芸員が選ぶベストセレクション２　城館絵図」（５月２日記事）
- 福島民報「学芸員が選ぶベストセレクション３　いわきの万祝着」（５月９日記事）
- 福島民報「学芸員が選ぶベストセレクション４　狩野養信筆　松平定信像」（５月16日記事）
- 福島民報「学芸員が選ぶベストセレクション５　松平容保書状」（５月23日記事）
- 福島民報「学芸員が選ぶベストセレクション６　原山一号墳出土埴輪」（５月30日記事）
- 福島民報「学芸員が選ぶベストセレクション７　セイウチの牙の化石」（６月６日記事）
- 福島民報「学芸員が選ぶベストセレクション８　パレオパラドキシア」（６月13日記事）
- 福島民報「学芸員が選ぶベストセレクション９　銅鉢」（６月20日記事）
- 福島民報「学芸員が選ぶベストセレクション10　根子町人形」（６月27日記事）
- 福島民友「化石で学ぶ地球の歴史　三春で夏季企画展開幕　来月30日まで」（７月20日記事）
- 福島民報「精緻な恐竜のイラスト紹介　来月６日まで県立図書館で原画展」（12月７日記事）
- 福島民友「精密　恐竜のイラスト県立図書館で藤井康文さん原画展」（12月24日記事）

展覧会・催しもの
- 福島民友「『仏都会津』の魅力語ろう　あす喜多方で文化交流会」（４月23日記事）
- 福島民報「全国城下町シンポ内容固まる　22～24日若松」（４月28日記事）
- 福島民報「森林舞台に芸術創造　若松　開幕記念しフォーラム　森のはこ舟アートプロジェクト」（５月17日記事）
- 福島民友「森林文化の魅力　再発見　若松『森のはこ舟』ファーラム」（５月17日記事）
- 福島民報「県内動植物再生に　国立自然史博物館を　４日、福島でシンポ」（５月31日記事）
- 福島民報「国立自然死博物館誘致を　動植物保護で復興を後押し　福島で初のシンポ」（６月５日記事）
- 福島民友「自然史博物館誘致へ　福島でシンポ　意義や課題に意見」（６月５日記事）
- 福島民報「存在価値や在り方提言　国立自然

史博物館シンポ　福島開催」（６月６日記事）
- 福島民友「県立博物館　入館者　過去最低(昨年度)」（７月３日記事）
- 福島民報「入館者数　過去最低　県立博物館　昨年度６万3739人」（７月５日記事）
- 福島民友「国立科学博物館とコラボ　きょう開幕　県文化センターで化石展」（７月18日記事）
- 読売新聞「『震災遺産』教育に生かす　会津若松　研修会に教員ら11人」（ふくしま震災遺産保全プロジェクト関連、８月１日記事）
- 福島民報「自然史博物館　意義語る　若松で設立目指す講演会」（９月４日記事）
- 福島民報「震災遺産とふくしまの記憶　26日から福大で開催」（９月10日記事）
- 福島民友「震災資料展26日から　福大未来支援センター」（９月10日記事）
- 朝日新聞「『トトロ』から考える私　県立博物館長　赤坂憲雄さん『出前講座』」（９月20日記事）
- 福島民報「『震災遺産とふくしまの記憶』福島で始まる　複合災害　物語る品々　後世に継承を」（９月27日記事）
- 福島民友「震災、原発事故伝える　福島で遺産展とシンポ」（９月27日記事）
- 福島民友「本は宝物、震災復興の支えに　本の森プロジェクト記念公演で」(10月５日記事)
- 福島民友「中学生ら断面剥ぎ取り　いわき『井戸沢』」(10月７日記事)
- 福島民友「後世に残す意義探る　福島大で『震災遺産とふくしまの記憶』展記念シンポ」(ふくしま震災遺産保全プロジェクト関連、10月７日記事)
- 福島民友「井戸沢断層保存展示へ　いわき断面はぎ取り作業」(ふくしま震災遺産保全プロジェクト関連、10月14日記事)
- 福島民報「余震でずれた井戸沢断層　保存へ断面剥ぎ取り　いわき　田人　布で写し取る」(10月17日記事)
- 福島民報「震災の記憶　後世に　福島で作品展　北海道出身の芸術家・岡部さん」(10月21日記事)
- 朝日新聞「あの日の記憶そのままに　富岡町災害対策本部の保全へ作業」(ふくしま震災遺産保全プロジェクト関連、10月23日記事)
- 読売新聞「文化祭で被災地伝える　若松商高『４年半前と同じ状態』」(ふくしま震災遺産保全プロジェクト関連、10月30日記事)
- 福島民報「郡山で全国折込広告大会　復興支援　県内初開催」(11月13日記事)
- 福島民友「折り込み広告の力強める 本県初、郡山で全国大会」(11月13日記事)
- 福島民報「岬の灯台で手を合わせた」(11月15日記事)
- 福島民報「縄文ロマン　聞いて　若松で会津史談会　26日、文化史講座」(11月19日記事)
- 福島民友「『斗南藩』の記録紹介　猪苗代　あすから企画展」(11月20日記事)
- 福島民報「高僧・徳一の偉業考察　奈良と会津　文化の謎を探るシンポ『仏都』縁結ぶ」(11月22日記事)
- 福島民友「会津の仏教文化紹介　絆深化へ奈良でシンポ」(11月22日記事)
- 福島民友「徳一に思いはせる『仏都』つながる共感　奈良と会津シンポ」(11月27日記事)
- 福島民報「文化連携プロジェクト成果披露　南相馬ラウンドテーブル始まる」(11月28日記事)
- 福島民報「野花に祈る　鎮魂、再生　小高の同慶寺で復興支援アート　震災で破損　大堀相馬焼を彩る」(11月29日記事)
- 福島民報「復興の形考える　南相馬市博物館フォーラム」(11月30日記事)
- 福島民報「震災遺産　20日まで展示　いわきの『ほるる』変形した標識など」(12月７日記事)
- 福島民報「福島再生へ文化交流拠点　県内若手作家らの美術作品展示　赤坂憲雄県立博物館長の私費で　11日オープン」(12月８日記事)
- 福島民友「若手芸術家　展示場所開所へ　11日　運営委員長・赤坂さん（県立博物館長）」(12月９日記事)
- 福島民報「再生表現『ギャラリー・オフグリッド』福島にオープン　若手芸術家育成や交流」(12月12日記事)
- 福島民友「再エネテーマにアート　福島に展示場　赤阪県立博物館長　私費投じ」(12月12日記事)
- 福島民報「津波襲来時の対処法を学ぶ　いわきで講習会」(12月13日記事)
- 日刊スポーツ「東日本大震災直後の富岡町災害対策本部　一般初公開」(ふくしま震災遺産保全プロジェクト関連、12月14日記事)
- 福島民報「錆抑える保存法聞く　若松で会津大塚山古墳講演会　出土品修復の技　理解」(12月15日記事)
- 福島民友「富岡の災害対策本部公開　原発事故後初」(12月15日記事)
- 福島民友「司馬遼太郎の東北紀行語る　赤阪県立博物館長が講話」(12月19日記事)

- 福島民報「会津農書を解説　北会津で講演会」(12月20日記事)
- 福島民友「会津農書の技術理解　若松で講演会」(12月20日記事)
- 福島民報「会員、シンポ成功誓う　来年４月　県立博物館で開催」(12月25日記事)
- 福島民友「会津と奈良の交流シンポ参加報告会（12月26日記事)
- 福島民報「『文化、言葉の力』語る　赤阪館長×女優・紺野美沙子さん」(１月22日記事)
- 福島民友「文化の力で東北再生　県立博物館で館長講座　紺野美沙子さんと対談」(１月22日記事)
- 福島民報「野馬追文化考える　３日から南相馬で企画」(１月31日記事)
- 福島民報「震災後の県内写真　一枚に　福島で21日まで写真展」(２月９日記事)
- 福島民友「震災後の自然記録　福島で写真展」(２月９日記事)
- 福島民報「画像・映像伝える必要　震災５年でトークセッション」(２月19日記事)
- 福島民友「戦後70年　作品で『叫び』代弁　美術・岡部昌生さん」(２月19日記事)
- 福島民友「震災画像保全可能性考える　県立博物館長ら提言」(２月19日記事)
- 福島民友「災害対策本部　遺産に　富岡　22日から記録、資料収集」(２月19日記事)
- 福島民友「『福島の声』伝え続ける　先人つくった『初志』忘れず」(２月20日記事)
- 福島民友「再生エネ　地域に利益　震災５年識者に聞く③　成熟社会へ価値転換」(２月22日記事)
- 福島民報「災害対策本部跡資料の撤去開始　富岡町など」(２月23日記事)
- 福島民友「震災対応の資料運び出す　富岡の災害対策本部跡」(２月23日記事)
- 福島民報「祭礼や化石に光　森のはこ舟アート　あすまで展示会」(２月28日記事)
- 福島民報「震災５年『広野の恐竜模型復活』８日から博覧会で全国巡回」(３月３日記事)
- 福島民報「文化財保護　搬出進む　富岡、双葉、大熊『町の宝』県施設へ」(３月４日記事)
- 福島民報「あす若松で復興イベント　大沼高生　演劇披露　ご当地アイドルなど登場」(３月４日記事)
- 福島民報「『震災遺産』収集・保全本格化」(３月４日記事)
- 福島民友「復興願い　多彩イベント　あす・県立博物館」(３月４日記事)
- 福島民友「復興の思い強く　会津若松市」(３月６日記事)
- 福島民報「若松の復興イベントとキャンドルナイト　歌や似顔絵、復元模型　多彩な支援の輪広がる」(３月７日記事)
- 福島民報「来月から企画展や特集展　県立博物館今年開館30周年　イベント多彩に」(３月８日記事)
- 福島民報「原発依存　脱却訴え　小泉元首相福島で講演」(３月10日記事)
- 福島民友「再エネで未来を開く　ふくしま自然エネ基金シンポ」(３月10日記事)
- 福島民報「３・11映画祭　全国30会場で関連作上映　震災めぐる対話　創出」(３月18日記事)
- 福島民報「震災遺構保存　方策探る　若松県立博物館でシンポ」(３月20日記事)

（２）公聴活動

博物館で開催した次の行事について、利用者に対するアンケート調査を実施した。この結果を中期目標の平成27年度達成度評価の資料とした。

平成27年度　アンケート実施事業一覧

常設展	
企画展	ふるさと会津の人と四季 ―福島県立美術館名品展―
	被災地からの考古学１ ―福島県浜通り地方の原始・古代―
	相馬中村藩の人びと
特集展	ふくしま震災遺産保全プロジェクト 震災遺産を考える
ミュージアムイベント	玄如節と会津の民謡

（３）出版事業

平成27年度は次の出版物を刊行した。

ア．企画展図録

福島県立博物館企画展図録
「被災地からの考古学１」　1,500冊
「相馬中村藩の人びと」　1,500冊

イ．紀要

福島県立博物館紀要　第30号　600冊

ウ．年報

福島県立博物館年報　第29号　400冊

7. 東日本大震災からの復興支援

平成23年３月11日午後２時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500㎞、東西約200㎞の広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度５強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成23年４月12日(火)である。

福島県域は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被った。当館では、震災からの復興支援を目的として、平成24年度に新たに「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」を立ち上げた。これは次の３つの柱からなっている。

１．ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努める。

２．ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図る。

３．ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

このコンセプトに基づいて復興支援の事業を展開している。平成27年度は次の事業を実施した。

（１）文化財レスキュー

ア．平成27年度の活動

（ア）レスキュー活動の体制

前年度から継続して、福島第一原発事故による旧警戒区域内の資料館等が所蔵する資料のレスキュー活動を、「福島県被災文化財等救援本部」（以下「救援本部」、当館は副代表・幹事・事務局）が中心となって行った（打ち合せ・幹事会など５回実施）。文化庁、文化財防災ネットワーク推進本部の支援指導を受けた。

（イ）旧警戒区域内の資料に関する作業

「救援本部」の計画にしたがって、①南相馬市内の資料の移送（５月）、②双葉町仏堂資料の搬出（６月）、③浪江町の区有文書の保全（７～８月）などを実施した。

（ウ）保管施設の環境調査

旧警戒区域から運び出された資料を保管する福島県文化財センター白河館（まほろん）の仮収蔵庫の環境調査に協力した（２回）。

（エ）レスキューされた資料の展示公開

①当館テーマ展「ふるさとの考古資料５【富岡町】遺跡探訪」（平成26年6月17日～平成27年５月10日）

②当館テーマ展「ふるさとの考古資料６【飯舘村】遺跡探訪」（平成27年6月20日～平成28年５月８日）

③当館企画展「被災地からの考古学１」（平成27年７月18日～９月13日）

④当館企画展「相馬中村藩の人びと」（平成27年10月10日～11月29日）

⑤当館移動展「被災地からの考古学１」（いわき市考古資料館　平成27年10月３日～12月14日）

⑥当館移動展「被災地からの考古学１」（南相馬市博物館　平成28年１月16日～３月６日）

（オ）研修会・研究会への参加

11月５日～６日に福島県博物館連絡協議会研修会が開催された（会場：アクアマリンふくしま）。その他、救援本部主催の研修会や、他県の一時保管施設の現地調査などに参加した。

イ．震災から５年間のまとめと今後の課題

東日本大震災の発災から５年が経過した。各年次の活動内容は既刊の年報で紹介してきたが、これまでの５年間の取り組みをまとめ、今後の課題を記す。

（ア）当館での被災文化財等の受け入れ状況
→表参照

５年間で受け入れた件数は25件。受け入れた時期は、平成23年度がピークで、平成24・25年度は次第に減少し、平成26・27年度はなかった。平成23年度は、まさに緊急時の対応として件数が多いが、次第に各市町村の機能が復旧し、救援本部の体制が整う中で件数は落ち着いていった。

受け入れの手続きは、平成23年度につい

ては「一時預かり」、その後は通常の受託（あるいは受贈）で対応した。保管場所については、平成23年度には臨時に考古作業室等を使用し、その後は通常通り収蔵庫へ移動させた。

受け入れ後に整理作業などを終えたものもあるが、未完了の資料群として、美術分野１件、歴史分野１件、自然分野２件、合計４件があり、今後継続して作業することが必要である。また、すでに返還したものもあるが、今後も旧警戒区域の再編・避難指示解除、復旧・復興の進み方に応じて返還してゆくことになるものもある。

（イ）レスキュー活動の実施状況

震災当初の平成23年度は、当館独自の活動と、ふくしま歴史資料保存ネットワークと連動した形でおもに活動し、平成24年度以後は、おもに救援本部の枠組みの中で活動した。被災地域や保管施設等へ出張して現地で活動した日数・人数については、下記の表の通りである。

年度	おもな内容	のべ日数	のべ人数
平成23	被災文化財・資料の調査・受け入れ、修復・整理、会議	25	57
平成24	会議、旧警戒区域資料館資料の搬出、保管施設の環境調査	52	108
平成25	会議、旧警戒区域資料館資料の搬出、保管施設の環境調査	58	128
平成26	会議、保管施設の環境調査、旧警戒区域学校資料等の搬出	33	61
平成27	会議、旧警戒区域仏堂・個人資料等の搬出	19	31

活動のピークは、平成24年度・25年度で、おもに旧警戒区域内の資料館（大熊町・富岡町・双葉町）資料の搬出作業、保管施設（旧相馬女子高校等）の環境調査が、この時期に集中して行われた。その後、平成26年度・27年度は漸減した。

資料館所蔵以外の資料（学校など公的機関の資料、寺社・仏堂等の資料、個人所有の資料など）への対応は、各市町村からの要請を受けてサポートする体制をとりながら、今後も継続してゆく見通しである。

（ウ）その他の活動

レスキューした資料を、当館の企画展や移動展、あるいは常設展示内のテーマ展・ポイント展において展示公開した。また活動に関する報告会や研修会を企画したり、参加することがあった。

（エ）今後の課題

震災後の５年の間に実施できたことの概要は、上記の通りである。東京電力福島第一原子力発電所事故によって住民の避難という事態が発生してしまった福島県においては、とり残された市町村の資料館資料を、県外からの多大な協力を仰ぎながら、組織的にレスキューできたことが、ひとつの大きな成果であった。今後の課題は、これらの資料が地域の歴史や文化を語る資料として、再び活用されるための場が創出されることである。

また、住民の方々の帰還や浜通り地域の復興が進む中で、資料館所蔵以外の地域の様々な資料を、あらためて適切に保全してゆくことも、今後の重要な課題である。

今回の東日本大震災では、福島県としても、県立博物館としても、文化財の被災に備えたしくみや準備が十分にできていたとはいいがたい。ふたたび災害に襲われた場合に備えて当館の現状を点検し、改善すべきところや、県内の組織と連携した体制づくりを再構築してゆくことが、もうひとつの大きな課題になっている。

旧相馬女子高校への移送作業（５月14日　相馬市）

旧相馬女子高校への移送作業（５月14日　相馬市）

双葉町仏堂資料の搬出作業（６月４日　双葉町）

双葉町仏堂資料の搬出作業（６月４日　双葉町）

浪江町区有文書の保全作業（７月３日　二本松市）

受入年度		所　有　者	資料概要	点　数	要因	整理状況	現状（平成27年度末現在）
平成23	1	旧相馬女子高校	土器片等	195点	旧校舎収蔵施設の損壊	済み	採集
	2	いわき市の個人	古文書・祭礼道具等	13件（1,509点）	地震による蔵の損壊	未了	受託
	3	南相馬市の個人	野馬追甲冑等	12件（16点）	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	4	南相馬市の個人	文書	1点	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	5	双葉町教育委員会	古文書	253点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	6	南相馬市の神社	棟札・像・文書等	22点	津波による神社の損壊	済み	一時預かり
	7	須賀川市の神社	絵馬	109点	地震による神社の損壊	済み	受託・一部返還
	8	須賀川市の個人	雛人形・五月人形等	4点	地震による建家の損壊	済み	受贈
	9	双葉町教育委員会	刀剣・火縄銃	7点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	10	郡山市の個人	近代史料・書籍等	961点	地震による蔵の損壊	済み	返還済み
	11	双葉町の個人（教育委員会寄託）	太刀	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
			十三仏画	1点			
	12	浪江町の寺院	両界種子曼荼羅	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	13	福島市の個人	雛人形・古写真等	17件（22点）	地震による建家の損壊	済み	受贈・受託
	14	伊達市の個人	土器・石器・図書・地図	3件（1647点）	地震による蔵の損壊	済み	受贈

受入年度		所　有　者	資料概要	点　数	要因	整理状況	現状（平成27年度末現在）
平成23	15	南相馬市の寺院	膳椀漆器	48件（79点）	原発事故避難により管理不能	未了	受託
	16	会津工業高校	陶磁器	8点	地震による損壊	不要	返還済み
	17	南相馬市鹿島歴史民俗資料館	植物化石標本	62件（66点）	地震による収蔵施設の損壊	済み	返還済み
平成24	18	浪江町の個人	書跡	2点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	19	富岡町	16ミリフィルム	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	20	南相馬市の個人	化石標本	約400点	地震による収蔵施設の損壊	未了	受託
	21	大熊町教育委員会	考古資料（落合Ｂ遺跡）	4,943点	原発事故避難により管理不能	済み	受託
			考古資料（棚和子遺跡）	10箱			
			和鏡	1点			
平成25	22	浪江町教育委員会	棚塩地区公民館地図	1点	地震・津波による建物損壊	不要	返還済み
	23	葛尾村の寺院	仏像・仏画・経典等	5件（604点）	原発事故避難により管理不能	未了	受託
	24	双葉町教育委員会	清戸迫横穴壁画模写	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	25	双葉町教育委員会	フタバクジラ化石他	27件	原発事故避難により管理不能	未了	受託

（2）ふくしま応援ミュージアムイベント

従来実施してきたミュージアムイベントを、「ふくしま応援ミュージアムイベント」と名付け、被災された方々への励ましや、福島県を応援する意図をもったイベントを企画し実施した。

ア．玄如節と会津の民謡

（ア）日　　時

平成27年６月27日（土）13時30分～15時

（イ）会　　場

福島県立博物館　エントランスホール

（ウ）参加者数

85人

（エ）共　　催

玄如節顕彰会の皆さん

（オ）内　　容

玄如節は、即興の掛け合いで歌うのを基本とする会津の民謡の源流でもある。今回のイベントでは、会津や東北各県の民謡を唄と踊りをまじえて披露し、最後に玄如節がもとになって生まれたといわれる民謡「会津磐梯山」でしめくくった。

イ．市民盆踊り大会

（ア）日　　時

平成27年８月15日（土）19時～20時30分

※博物館閉館後

（イ）会　　場

福島県立博物館　玄関前庭

（ウ）参加者数

315人

（エ）共　　催

会津磐梯山盆踊り保存会

（オ）内　　容

博物館前庭に櫓を組み、会津磐梯山の歌に合わせて自由参加での盆踊り大会を開催した。踊りを通して、先の戦争やこの度の大震災でやむなく生命を奪われてしまわれた方々に、あらためて追悼と感謝の祈りを捧げた。

市民盆踊り

ウ．夏休みナイトミュージアム

（ア）日　　時

平成27年８月22日（土）17時30分～19時

（イ）会　　場

福島県立博物館常設展示室

（ウ）参加者数

80人

（エ）講　　師

当館学芸員　相田優・金澤文利・佐藤洋一

（オ）内　　容

いつもと違う雰囲気の真っ暗闇な展示室の中を、懐中電灯の光を頼りに見学する「ナイトミュージアム」は、例年人気の高いイベントである。例年参加申込み者数が多いため、平成27年度は平成26年度より定員を20名増員した。

エ．クリスマス！クラシックアンサンブルコンサート

（ア）日　　時

平成27年12月19日（土）13時30分～15時

（イ）会　　場

福島県立博物館エントランスホール

（ウ）参加者数

244人

（エ）出　　演

会津室内楽団　アンサンブル　Coderanni

（オ）内　　容

毎年恒例となっている12月第３土曜日のクリスマスコンサート。音楽好きの方々にも博物館に親しんでいただく機会とするため、10年来行っており、毎回好評を博している。今回は会津地域在住の方々13人にご出演いただき、モンティ作曲「チャルダッシュ」などのクラシック音楽に「荒野の果てに」「きよしこの夜」などのクリスマスソングも交えて16曲の演奏を聴いていただいた。

8. 次世代ミュージアム機能

（1）はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト

ア．プロジェクト概要

昔を探り　今に向き合い　未来をつくる
街に集い　森に分け入り　海辺にたたずむ
思いを語り　心を描き　ともに歩む
今、結ばれる、はま・なか・あいづ

イ．開催趣旨

平成23年３月11日の東日本大震災、その後の東京電力福島第一原子力発電所事故により、福島県内には津波・地震による被害に加え放射線汚染被害、さらに、そこに由来するコミュニティの分断、風評被害が発生し、今なお多くの局面で復旧・復興が急がれています。

この状況から一歩でも前進するため、福島県立博物館と福島県下の各地域の博物館、文化事業に携わる大学、NPOなどの諸団体が連携し文化活動の支援を行うことを目的に、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトを平成24年にスタートしました。

平成24年度は、地域への愛着を象徴するような文化財の活用に配慮し復興につながる文化的事業の継続的な展開をめざしました。

平成25年度は前年度の実績を踏まえ、事業をさらに発展させるとともに、福島県立博物館と地域との協働、他分野との連携・融合、地域へのアウトリーチを積極的に推進しました。

平成26年度は、震災後４年目の福島に必要な文化的な事業を、各団体との協議の上で計画し、福島の文化の豊かさの再認識、福島の現状の共有と発信を柱に実施しました。

震災後、数年間が経過し、被災者がおかれている環境、福島県民が被っている精神的な負担の状況は変化しています。また、県内各地域が抱える問題・課題の差異が時間の経過と共に際立つようになり、福島県を地理的に区分する「はま・なか・あいづ」それぞれの地域の問題・課題への丁寧なリサーチと対応が必須となってきています。

平成27年度はそれらの解決につながるアプローチとなることを目的に、８つのプロジェクトを展開しました。

ウ．コンセプト

福島の文化を再発見し、伝えること。新たに創造すること。福島には、長い時間の積み重ねの中で生まれ、継承されてきたさまざまな文化があります。それらは、はま・なか・あいづ各地域、海の、街の、山の豊かな表情を持っています。福島の文化にあらためて出会い、福島で大切にされてきた生き方、暮らし方、考え方を知り、学ぶ。それは、今、この国に生きる私たち、未来に生きる子供たちにとって大事な示唆となるはずです。福島の文化を再発見する。そして、それを伝え、みなさんと共有する。そこから、未来へとつながる文化の創造の可能性が広がります。

福島が直面する課題を共有し、みなさんと考える場を生み出すこと。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故によって福島は多くの課題に直面し、今なお苦悩しています。

その苦しみの多くは、しかし、私たちの暮らしと社会のあり方のきしみでもあります。福島がおかれた状況は、ひとり福島だけのものではなく、やがて来るこの国の未来の姿の一部でもあるのです。

過去に学び、現在に向き合ってこそ、私たちは未来を創造することができます。

福島の課題を知り、思いを語り、ともに考えること。

そこから、進むべき道が見えてくることを信じて、私たちは、はま・なか・あいづの文化を結び、福島とあなたを結びます。

エ．開催概要

実施期間：平成27年４月９日～
　　平成28年３月31日
プロジェクト活動期間：平成27年４月22日～
　　平成28年２月29日
参加アーティスト：約20人
主な活動エリア：南相馬市、浪江町、大熊町、いわき市、飯舘村、福島市、西郷村、石川町、喜多方市、会津若松市、西会津町、三島町、他
主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会
構成団体：南相馬市博物館／福島大学芸術による地域創造研究所／福島大学うつくしまふくしま未来支援センター／いいたてまでいの会／NPO法人まちづくり喜多方／福島県立博物館
協力団体：南相馬市国際交流協会／南相馬市市民活動サポートセンター／NPO法人まちづ

くりNPO新町なみえ／ふくしまキッチンガーデン運営協議会／NPO法人西会津ローカルフレンズ／ NPO法人Wunder ground
実行委員会委員長：赤坂憲雄（福島県立博物館長）
事務局：福島県立博物館
助成：平成27年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

オ．プロジェクト

1．プロジェクト成果展（長野県大町市）
2．プロジェクト成果展（静岡県静岡市）
3．プロジェクト成果展（京都府京都市）
4．プロジェクト成果展（静岡県浜松市）
5．記憶の紡ぎ場　南相馬コミュニティ創造プロジェクト
6．記憶の紡ぎ場　暮らしの記憶プロジェクト
7．記憶の紡ぎ場　相馬野馬追の記憶プロジェクト
8．記憶の紡ぎ場　いわき七夕プロジェクト
9．記憶の紡ぎ場　飯舘村の記憶と記録プロジェクト
10. 〈北〉を学び、知るプロジェクト
11. 福島祝いの膳プロジェクト
12. 夢の学び舎プロジェクト　いわき学校プロジェクト
13. 夢の学び舎プロジェクト　いいたて学校プロジェクト
14. 夢の学び舎プロジェクト　浪江学校プロジェクト
15. 岡部昌生フロッタージュプロジェクト
16. 福島写真美術館プロジェクト
17. 「黒塚」発信プロジェクト
18. グランド・ラウンドテーブル
実行委員会

カ．プロジェクト成果展

大町市会場

平成27年度は県外４ヶ所で、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの成果展を開催した。平成24年度から継続している事業成果の公開は、震災と原発事故の風化・忘却が進む近年、積極的に展開すべきものと考える。平成27年度は、本プロジェクトに参加した写真家・アーティストらの協力を得て県外諸団体との連携で成果展を開催できた。関係者各位に深く感謝したい。

長野県大町市では、福島写真美術館プロジェクト参加写真家の本郷毅史氏の協力により大町市教育委員会と本プロジェクト実行委員会の主催により大町市のギャラリー・いーずらを会場に初の県外展を開催できた。会期中開催したギャラリートークは福島の現状と教訓を伝える場となった。大町市に避難した大熊町の方にお会いできたことは、成果展の一つの使命を示されたようであった。

【会期】平成27年７月31日(金)～８月23日(日)
※月曜日休館
【会場】ギャラリー・いーずら
(長野県大町市3300-1)
【協力】大町市美術振興専門委員／原始感覚美術実行委員会／信濃大町食とアートの廻廊実行委員会
【主催】大町市教育委員会／はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

静岡市会場

静岡県静岡市では、夢の学び舎プロジェクト参加アーティストの乾久子氏と静岡大学平野雅彦教授、会場となった金座ボタニカの下山晶子氏らの協力を得て、かつての会社社員寮をリノベーションしたアートスペース金座ボタニカで開催した。乾氏・フードデザイナー中山晴奈氏（福島祝いの膳担当）・静岡大学教授白井嘉尚氏・赤坂憲雄実行委員長が登壇したトークセッションは満員の参加者で、赤坂委員長からの提言「福島を自分の事に」を真剣に持ち帰ってくださったようだ。

【会期】平成28年１月９日(土)～１月22日(金)
※１月11日、12日、18日、19日は休廊
【会場】金座ボタニカ３Ｆ・４Ｆアートスペース（静岡県静岡市葵区研屋町25）

京都市会場

京都市の京都造形芸術大学ギャルリ･オーブで開催した成果展「FUKUSHIMA SPEAKS」は、本プロジェクト実行委員会と京都造形芸術大学の主催。福島写真美術館プロジェクト参加作家華道家・片桐功敦氏のキュレーションで開催した同展は広い展示空間を利用し福島写真美術館参加作家の赤阪友昭氏・安田佐智種氏・片桐功敦氏・本郷毅史氏と岡部昌生フロッタージュプロジェクトの岡部氏作品を展示した。５回のクロストークを開催し、福島の記憶が薄れつつある関西圏で積極的な発信を行なった。

【会期】平成28年１月22日(金)～１月31日(日)
【会場】京都造形芸術大学ギャルリ・オーブ
(京都市左京区北白川瓜生山2-116京都造形芸術大学人間館１Ｆ)

【主催】京都造形芸術大学／はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

浜松市会場

最後の成果展は静岡県浜松市の鴨江アートセンターで開催した。同時に開催されていた飯舘村の暮らしを伝える「いいたてミュージアム」とも共鳴し、浜松市のNPO法人クリエイティブサポートレッツのみなさんの積極的な参加もあった。最終日にトークセッション「福島でレジデンス制作をすること」を開催、南相馬市で数ヶ月の滞在制作を行なった華道家・片桐功敦氏、福島の水源域をたびたび踏査して撮影している本郷毅史氏が福島で制作することの意義と課題について語り合った。

【会期】平成28年2月18日(木)～2月28日(日)
※2月22日は休館
【会場】鴨江アートセンター
【主催】はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会
【主催】鴨江アートセンター
【協力】NPO法人クリエイティブサポートセンターレッツ

キ．南相馬コミュニティ創造プロジェクト

入居者が減る仮設住宅、今後増加する災害復興公営住宅などで予想されるコミュニティの課題に取り組むためにコミュニケーションアーティスト開発好明氏により提案されたプランが「愛銀行」。コミュニケーションのためのお金の要らない銀行を仮想したアートワークショップである。参加者はまず自分の「できること」「やってみたいこと」を考える。次に、お互いに出し合った「できること」「やってみたいこと」を組み合わせて実現することを考える。さらに、実現の方法を考えて、実際に行動する。参加を通して自分を愛し、他者を愛する体験をする。

「愛銀行」ワークショップによる、災害復興公営住宅等の入居者の方々の語らいの場、新たな交流のきっかけを創出することを目指し、数度の公開ミーティング、試行ワークショップを行なった。南相馬市では、これまで、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトに御協力いただいた市民の方を中心に、手法、課題、効果について話し合い、現地コーディネーターの必要性が重要とされた。その後、福島大学渡邊晃一教授の協力を得て福島大学で試行ワークショップを行なった。学生3～4名が一組となり、4組のチームでワークショップに取り組んだ。あるチームは、「誕生日会をやりたい」「餃子を作れる」「似顔絵を描ける」という「できること」「やってみたいこと」が集まり、その場にあった黒板、コピー用紙などを利用し即席の餃子パーティーが開かれた。プレゼントは黒板に描かれた似顔絵である。また、別のチームには「手芸店を開きたい」という「やってみたいこと」に対して「手芸が趣味で教えられる」という「できること」が見事にマッチし、その場で手芸教室が始まった。「海外旅行がしたい」「歌を唄いたい」「楽器を演奏できる」がでそろったチームでは即興で世界一周の歌が生まれた。試行ワークショップを通じて、同じ専攻の学生のように親しい者の間にもある意外な一面を互いに知り、尊重することで、より関係性を深めることができる手応えを感じた。避難が長期化している仮設住宅のサロン活動などで効果が期待できるだろう。

試行ワークショップを経て、南相馬市でのコーディネーターを探ったが、それ以降の事業展開には至らなかった。本事業では試行ワークショップにより手法を確立することができたが、その後も「愛銀行」の活動は開発氏により続けられており、個展などでの発表により福島の現状が発信されていることに感謝したい。

〈試行ワークショップ〉
【開催日時】平成27年10月2日(金)
【会場】福島大学美術棟

ク．暮らしの記憶プロジェクト

「ここが縁側で、こうして庭を眺めました。」「あの頃はこんな夕陽は見られませんでした。」現地インタビューに御協力いただいた浪江町のKさんは、このような言葉を聞かせてくださった。

「暮らしの記憶プロジェクト」は平成26年度に「福島写真美術館プロジェクト」に参加したアーティスト安田佐智種氏のプロジェクトを継続、更新したものである。「福島写真美術館プロジェクト」で取り組んだのは津波で流失した住宅基礎を素材にした作品制作であった。復旧作業により被災地の整地が進み、残された住宅基礎の遺構も姿を消している。それは、津波で奪われた暮らしの痕跡、土地の記憶、そこにあった暮らしを消し去ることでもある。平成27年度はこれまでに制作した作品の素材となった住宅の住民の方からそこで営まれていた当時の暮らし、現在の住宅で

の暮らしの様子をお聞きし、震災と東京電力福島第一原子力発電所事故によりしいられた被災地と被災者の変化をアーカイブ化することを目指した。冒頭のＫさんの言葉は浪江町請戸のかつての御自宅跡でのインタビューの際の言葉である。当日は美しい夕陽の中、作業を終えた。インタビューはまず作品の素材となった住宅のかつての住民を探すことから始まった。住宅地図をてがかりに浪江町役場、南相馬市小高区の区長さんを訪ねて情報を収集、住民の方々をご紹介いただいた。数名の方に連絡し、避難先、元の住宅跡などでインタビューを行い、かつての住まい、現在の住まいの見取り図を描いていただきながらその状況を録音・録画した。８名のインタビューは書き起こしテキスト化されている。今後さらに映像編集がなされ作品化される予定である。

本事業は大規模な復旧事業の中でともすれば見過ごされ記録されることもない多くの被災者の個人史と地域の記憶を美術作品としてとどめ後世に残す貴重な事業である。被災の状況、現在の状況によって被災者の方々の心情はさまざまである。インタビューは細心の配慮と注意をもってなされるべきで、プライバシー保護にも慎重でなければならない。デリケートな交渉・調整にあたっていただいた南相馬市、浪江町の関係者の方々、そしてなによりインタビューに応じてくださった皆様と安田氏に深く感謝申し上げる。

ケ．相馬野馬追の記憶プロジェクト

写真家高杉記子氏は、震災後、国指定重要無形文化財相馬野馬追に出会った。平成24年の福島写真プロジェクトに参加し、その後も、祭礼に参加する騎馬武者の方々を丹念に取材しポートレートを撮り続けている。現在は騎馬武者の方々と信頼関係を構築し、震災後も絶えることなく地域の誇りとして続けられた祭礼の魅力とそれを取り巻く人々の思いを記録している。その蓄積は地域の文化資産としての意義を持ち始めており、平成27年度はこれまでに撮影されたポートレートを展示する展覧会「野馬追ダイアログ」を南相馬市民文化会館ゆめはっとギャラリーで開催。地元で公開の機会のなかった作品を紹介することができた。

合わせてモデルとなった小高区を中心とする騎馬武者の皆さん、モデレーターの南相馬市博物館学芸員二上文彦氏によるトークセッション「小高ダイアログ」を開催した。騎馬武者によるトークイベントは地元南相馬市でもこれまで開催されることはなく、ポートレート作品を仲立ちとしたアートプロジェクトの繋ぐ力によって実現したイベントであった。今回築かれた関係性は今後の制作と野馬追のさらなる追跡に活かされていくことだろう。

展覧会「野馬追ダイアログ」
【会期】平成28年２月３日(水)～２月12日(金)
【会場】南相馬市民文化会館ゆめはっとギャラリー

トークセッション「小高ダイアログ」
【開催日】平成28年２月11日(木・祝)
【会場】南相馬市民文化会館ゆめはっとギャラリー
【出演】阿部裕真氏（御小人頭、小高郷騎馬武者）
佐藤邦夫（小高郷騎馬会長）
高島絹代（前小高商工会女性部長）
本田信夫（前三社五郷騎馬会長、士魂会会長）
山澤　征（小高区行政区長会長、相馬野馬追小高区執行委員長）
鎌田真吾（小高郷騎馬武者）
モデレーター：二上文彦（南相馬市博物館学芸員）・高杉記子（写真家）

コ．いわき七夕プロジェクト

地域の祭礼の活性化とアートによる復興公営住宅のコミュニティ支援の両者を目標としたプロジェクト。いわき駅前商店街で開催される七夕まつりは自由で創造的な飾りの造形に特徴があり、この地域を代表する行事として親しまれている。しかし他地域同様商店街の賑わい創出に取り組まねばならない状況であり、七夕まつりにも何らかの活性化が求められていた。一方、震災の津波とその後の東京電力福島第一原子力発電所事故による多くの避難者がいわき市内に避難しており、さまざまな軋轢が地域に生じてしまっている。本プロジェクトの舞台となったいわき市小名浜の下神白団地をはじめ復興公営住宅への移転にともなうコミュニティの再建も大きな課題である。下神白団地は原発事故による４町からの避難者が別々の棟に入居し、さらに隣接していわき市の津波被災者が入居する団地が建設されている。入居者には独居の高齢者も多くコミュニティの再生が求められていた。

そこで、団地入居者が七夕飾りの制作によっていわき七夕へ参加することで、団地内でのコミュニティの創出と七夕まつりの活性化につながるのではと考えた。

そこで、NPO 法人Wnuder ground、NPO法人3.11被災者を支援するいわき連絡協議会、アーティスト竹内寿一氏が中心となり団地集会所で七夕飾りを制作した。七夕に参加するという目的意識、人と交流する楽しみ、ものを作り上げる喜びを共有することを大切にし、アーティストやスタッフは寄り添う姿勢で臨んだ。完成した七夕飾りには参加者のさまざまな故郷が融合し、審査員特別賞を受賞した。

もちろん受賞が目的ではない。地域の祭礼を素材にアートが介在することで新たなコミュニティを創造できた。今後、同様の課題に向き合う際のサンプルとなりえるだろう。

七夕参加の後も、参加者はカフェ、おでん屋台、ベンチなどに取り組んでいる。コミュニティは次第に自立した創造的な場に成長している。こうした取り組みへの支援は七夕プロジェクトから別のアートプロジェクト（福島藝術計画 × ART SUPPORT TOHOKU TOKYO）に引き継がれた。アートプロジェクトの協働という点からも本プロジェクトの意義は小さくなかったと思われる。

また、下神白団地での七夕飾り作りワークショップと並行していわき市平のアートスペースで行った、一般参加の七夕飾りワークショップには、地域の子どもたちなどが参加。地域の素材に取材した七夕飾りのテーマとして、いわき市に所在する海洋水族館アクアマリンふくしまが調査を行っているシーラカンスを選択。アーティスト竹内寿一氏と制作協力のいわき市の芸術集団十中八九が、参加者のアイディアを形にするサポートを行った。平成27年８月に行われた七夕祭りには、下神白団地、平のアートスペース双方で作られた七夕飾りが並んで掲げられ、原発事故避難者とその受け入れ地域であるいわき市住民の交流の場ともなった。平のアートスペースもまた審査員特別賞を受賞。ダブル受賞自体が、両者の交流のシンボルともなった。

サ．飯舘村の記憶と記録プロジェクト

本プロジェクトでは東京電力福島第一原子力発電所事故により全村避難をしている飯舘村のみなさんへの聞き書き調査と、写真家の岩根愛氏による村人の話しの中の重要な場所、思い出の場所での360度風景写真の撮影を行った。避難が長期化する中で、大事な場所、思い出の場所の景色は変容し、除染活動による変化も日々進んでいる。そのような飯舘村の現在を記録し、伝える事業だった。

また、飯舘村の現状を広く伝える機会として現地視察ツアー「飯舘村の試みと未来」を二日間にわたって開催した。両日とも定員が埋まるバスで飯舘村内の除染現場、小規模太陽光発電所、試験農場、警戒区域ゲートなどを回った。一日目は農業を通して村の復興と現状発信に尽力する菅野宗夫氏のお話しを現地でうかがった。二日目は飯舘村文化財保護審議会委員の佐藤俊雄氏にバスに同乗していただき村内を回った後、福島市で飯舘村を支援しているいいたてまでいの会主催の「いいたてミュージアム」を見学し解散した。

東京電力福島第一原子力発電所からは40㎞以上離れているにもかかわらず原発事故による放射能汚染でいまだ全村避難状況にある飯舘村では広大な地域で除染作業が行なわれており、村の景観は大きく変貌している。福島県内では良く知られているこうした状況も県外には十分に伝わっておらず、参加者には少なからず驚きだったようだ。

参加したアーティストや静岡県のNPO法人メンバーは、この体験がきっかけとなり、福島の現状に深く関心を持ち、静岡県内での成果展に結びついていった。ツアーからの波及効果はこのように大きく、今後も必要とされている事業である。

シ．〈北〉を学び、知るプロジェクト

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故によって傷ついた福島、東北の復興のためには、自らの足下を見つめ直し掘り起こすことが必要である。そのことによって震災と原発事故で何が失われ、何を回復しなければならないのかが分かるはずだ。「〈北〉を学び、知る」プロジェクトは福島・東北の精神性、アイデンティティを学ぶ開かれた場と機会を創出する。

今年度はエクスカーション・シンポジウム・トークセッションからなる２日間のプログラムを喜多方市山都町(旧山都町)・昭和村で行なった。最初に地域史研究者とこの地域で活動実績のあるアーティスト丸山芳子氏・千葉奈穂子氏が講師を勤めエクスカーションを実施、山岳信仰の足跡を山都町地区に探った。同日後半は「北を学ぶということ」をテーマに人類学者・石倉敏明氏、地域のまちづくり

活動実践者 IORI 倶楽部事務局長・金親丈史氏、東北芸術工科大学大学院生でチュートリアル活動「東北画は可能か？」に参加する石原葉氏・久松知子氏が講師を勤め、それぞれが東北、北方についての取り組みを語った。

翌日はフィールドを昭和村に移し、「カラムシと民俗」をテーマにエクスカーション、「昭和村に暮して」をテーマにトークセッションを行なった。カラムシ栽培とその商品化、織り姫と呼ばれる後継者育成事業に長年取り組んできた昭和村では、後継者による積極的なカラムシへの取り組みが行なわれる一方、農家民宿などを中心に食文化などの地域文化が大切に扱われている。参加者同様、参加者を受け入れた昭和村の担当者も村の文化にあらためて気付く機会となったのではないだろうか。同じ福島県会津地方でも個性的、特徴的な地域は多く存在する。今後はそうした地域同士が学びを通して結び付く事業展開も可能だろう。

ス．福島祝いの膳プロジェクト

福島では農水産物、食の安全・信頼が東京電力福島第一原子力発電所事故により大きく傷つきいまだ回復の途上にある。こうした課題を抱えてはいるが、福島の食文化は実に豊かな広がりを持っている。県内各地での食材・食文化リサーチを継続しており、平成27年度は、檜枝岐村・いわき市・南相馬市でリサーチを行なった。檜枝岐村ではハコネサンショウウオの漁を続けている方から漁法と加工法の聴き取りを行なった。いわき市では水産業と水産物の現状を調査した。東京電力福島第一原子力発電所からの汚染水により操業が制限されている福島県内の水産業であるが、カレイなど多様な魚種と加工法があることが確認できた。南相馬市では、南相馬市博物館の協力を得て、南相馬市小高区の浦尻貝塚資料から縄文時代の食文化についてレクチャーを受けた。

セ．岡部昌生フロッタージュプロジェクト

平成24年より継続している本プロジェクトは、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの中心となるプロジェクトである。当初の南相馬市を中心とする活動から飯舘村、大熊町、石川町へと活動範囲を拡大している。震災後の生々しい記憶、被災地の歴史と記憶の古層をフロッタージュの技法で採取、記録する活動を続けてきた。その過程で南相馬市では津波の被害と密接な関係がある干拓と耕地整理の歴史が、さらに大熊町、石川町における活動では、同町立歴史民俗資料館の協力により原発事故に至る近代史の断面にエネルギー産地としての福島の姿が浮かび上がった。石川町は大正から昭和40年代まで石英、長石などの鉱物を盛んに産出していた。そのため、戦時中は軍部によるウラン採掘が試みられた歴史があり、原発事故後、注目を集めることとなった。しかし、重視すべきはウラン採掘に至った資源産地としての福島の歴史であろう。残された選鉱場基礎のコンクリート塊のフロッタージュはこの歴史を県内外に伝える大作となった。

沿岸部、東京電力福島第一原子力発電所からは遠く、震災の影響が無かった飯舘村では放射能汚染による深刻な被害が引き起こされ、全村避難が未だに続いていることは福島県内では周知の問題である。しかし、震災から５年を間近にして県外での震災の記憶の風化は一層進行している。平成27年度は飯舘村で伐採されたイグネの切株の連作に取り組んだ。イグネとは季節風から家屋敷を護り、燃料・木材を得るための屋敷林である。除染作業が大規模に進む飯舘村内では多くのイグネが伐採された。同村内佐須の個人宅にあるイグネも例外ではない。震災のみならず原発事故の影響がなおも拡大している福島の現状を伝える強いメッセージを持った作品制作はまだ終わりが見えない。

プロジェクト成果展は福島市、いわき市で開催し今年度の成果を紹介した。福島市ではトークイベントを開催。制作趣旨について語った。成果展京都会場はその広いスペースを利用しこれまでの福島での岡部昌生フロッタージュプロジェクトを俯瞰できる構成となった。実物のモノと触れ合うことでしか生まれない岡部氏のフロッタージュは震災と原発事故を経験した福島の証言者として今後も重要な存在として成長していくだろう。

成果展福島
【会期】平成27年10月17日(土)～10月30日(金)
【会場】県庁南再エネビル３階
【協力】飯舘電力株式会社
　　トークセッション「被曝樹／被爆樹」
【開催日】平成27年10月18日（日）
【会場】県庁南再エネビル３階

成果展いわき
【会期】平成27年10月24日(土)～11月27日(金)
※会期中無休
【会場】もりたか屋３Ｆ
福島県いわき市平3-34
【協力】特定非営利活動法人 Wunder ground

ソ．福島写真美術館プロジェクト

震災後いち早く活発な活動が始まった写真・映像表現に着目し、震災後に変った福島の姿、震災後も変らない福島の姿をとどめる活動を支援し、成果を公開している。平成27年度は、「福島環境記録」・「福島の水源をたどる」・「福島の自然を紹介する」・「福島の民俗を紹介する」の４プロジェクトを４名の写真家が担当した。

福島環境記録プロジェクトは、写真家赤阪友昭氏が担当。奥会津地方の三島町間方集落で、山と自然とともにある集落の人々の暮らしを追った。限界集落と呼ばれながらも豊かさに満ちた生活は原発事故後の希望でもある。成果展「山で生きる」を三島町交流センター山びこで開催し、会期中４日間「移動式赤阪写真館」を開催、ポートレート撮影を通じて地域の人々の姿を記録し、交流のきっかけとなった。広報紙の体裁の簡易な記録集を作成し集落各戸に配布した。地域の再発見につながるのを期待している。

福島の水源をたどるプロジェクトは、写真家本郷毅史氏が担当。福島を代表する河川の阿武隈川、夏井川などで源流を探り撮影した。震災でも変ることなく流れ続ける清冽な水は、生命の源でもあり、原発事故後にさらに輝きを増している。いわき市で行なわれた展覧会に招かれるなど、本プロジェクトをきっかけに活動が広がっている。

福島の自然を紹介するプロジェクトに参加した写真家村越としや氏は須賀川市の実家周辺をたびたび撮影している。写真家にとっては親しい何気ない風景だが、そこを撮影する意味は原発事故後に変化したという。写真家の視線は地域と人の関係性を考えさせる。福島県出身の若手写真家としても活躍を期待し、支援していきたい。

福島の民俗を紹介するプロジェクトには写真家土田ヒロミ氏が参加、原発事故後から福島県内の撮影を続けている写真家と連携し、除染作業などで変貌する里山や田園を撮影、記録した。

第１回福島写真美術館プロジェクト成果展は、長野県大町市の大町リノプロを会場に開催。商店街の活性化と市民活動の場として空き店舗を改装した会場で地域の方々と協働して展示作業を行った。第２回は、福島市の県庁南再エネビルを会場に開催した。

タ．黒塚発信プロジェクト

安達ヶ原の鬼婆伝説は謡曲「黒塚」として広く知られている。生き肝を求め都から奥州安達ヶ原に流れ着いた乳母は黒塚の岩屋にこもりその日を待つ。念願の生き肝を得た女が見たものは都に置いてきた我が子に与えたお守りであった。悲しみのため女は鬼女と化す。深い悲しみと怒りが凝縮したこの説話には、原発事故後の実に今日的な東北の宿命が色濃くにじむ。本プロジェクトでは福島大学渡邊晃一教授を中心に黒塚をテーマに福島の課題を身体表現によって表現することに取り組んでいる。

平成26年度に舞踊家・コンテンポラリーダンサーの平山素子氏主演、映像監督高明氏による映像作品「KUROZUKA黒と朱」を黒塚ゆかりの二本松市の観世寺、浪江町の津波被災地、南相馬市、福島大学で撮影した。引き続き、平成27年度は、舞踏家大野慶人氏主演、映像監督古田晃司氏による映像作品「KUROZUKA黒と光」を制作した。慶人氏の父大野一雄氏がかつて黒塚を演じた際の衣裳を使用した公演は一般にも公開され、黒塚の現地に取材した映像を交え編集した。

評論家・東雅夫氏、伝統芸能研究者・懸田弘訓氏、福島大学教授・鈴木裕美子氏をお招きし渡邊氏がモデレーターをつとめたトークセッション「黒塚」では、「KUROZUKA黒と朱」「KUROZUKA黒と光」を上映し、民俗学・文学・美術の視点から黒塚の源流について活発なトークが行なわれた。映像は他団体の学会、シンポジウムなどでも視聴され、福島・東北の歴史と教訓を伝えている。

チ．グランド・ラウンドテーブル

クロージング・フォーラム

グランド・ラウンドテーブルは、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの事業報告、発信、そして福島県内で震災後に行われている文化活動の情報共有を目的に年間数回行っている。今年度は３回開催、第１回は「ここで作る演劇、演劇で創るこれから」をテーマに、地域文化の拠点施設いわき芸術文化交流館アリオスで開催。近年、いわき市を中心に

演劇に関わる活動を展開してきた方々、演劇的表現を追求するアーティストが集い、様々な場所で行われる演劇公演の事例から演劇が持つ《場所性》と《可能性》を参加者と共に考えた。

登壇者は、相馬千秋（アートプロデューサー）・やなぎみわ（アーティスト、京都造形芸術大学教授）・岩間賢（アーティスト、愛知県立芸術大学講師）・長谷基弘（劇作家、演出家、劇団桃唄309代表）・永山智行（劇作家、演出家、劇団こふく劇場代表、宮崎県立芸術劇場演劇ディレクター）・くらもちひろゆき（劇作家、演出家、架空の劇団 主宰）・カタヨセヒロシ（俳優、ダンサー、6dim+ 共同主宰）・島崎圭介（NPO法人Wunder Ground 前代表）の各氏、モデレーターを実行委員長赤坂憲雄がつとめた。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から５年を迎え、被災地では日常の回復とともに震災の記憶の風化が進んでいる。第２回のグランド・ラウンドテーブルは南相馬市市民情報交流センターを会場に開催した。津波被害と原発事故の二重の苦難を経験した南相馬市でのグランド・ラウンドテーブルでは、年月を経ても決して忘れてはいけない「鎮魂」の思い、前に進むための「忘却」、そして苦難を乗り越えた先に立ち上がる「創造」をテーマに掲げた。第１部は、南相馬市に長期滞在制作を行なった片桐功敦氏、地域の民俗を長年研究している岩崎真幸氏、震災後災害FMの番組を通じて地域の方との対話を継続し、平成27年南相馬市に転居した柳美里氏、起業などを通じて小高区の地域再生に取り組む和田智行氏に登壇いただき、この３つのキーワードを指針に語り合った。

第２部、第３部は、小高区の同慶寺を会場にお借りした。第２部では、大堀相馬焼・春山窯の御協力、講師を勤める華道家・片桐功敦氏によるワークショップによって大堀相馬焼を花器に同慶寺本堂を花で飾った。参加者はいまだ自由な立ち入りができない地域となったままの大堀相馬焼の産地に思いをはせたことだろう。第３部では、柳氏、片桐氏に同慶寺御住職田中徳雲氏に加わっていただいた。双相地域の歴史の基盤を作った相馬家の菩提寺での語りは、南相馬発の新しい文化の萌を感じさせた。

第３回のグランド・ラウンドテーブルはクロージング・フォーラムとして福島県立博物館を会場に開催した。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、アートプロジェクトを中心にトークイベント、ワークショップ、展覧会などを福島県内外の諸団体と協働して平成24年から実施してきた。同じく重要な目的の一つが、福島県内でのアートを介したネットワークの形成、これまでにない新たな視点を持った文化の創出である。

本フォーラムでは、これまで国内の多くのアートプロジェクトを支援し、ネットワーク化を推進してきた企業メセナ協議会専務理事加藤種男氏、本プロジェクト参加作家の岡部昌生氏、いわき市でのプロジェクト展開の中核として携わったNPO Wunder Groundの会田勝康氏、実行委員会メンバーでもある南相馬市博物館学芸員二上文彦氏を招き、「アートは何を残せたか 震災から５年の福島・アート・地域」をテーマに報告、講演、クロストークを行った。会田氏、二上氏からは本事業がコミュニティ、地域文化に与えた成果について報告があった。岡部氏からは福島で制作に臨むアーティストの姿勢について言及がなされ、加藤氏からは福島でのアートプロジェクトの可能性について示唆に富むご講演をいただいた。今年度までの締めくくりであると同時にこれからのスタートでもあった。

ツ．実行委員会

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会は県内の西会津町から南相馬市、いわき市の各地域を拠点に活動するNPO、団体、文化施設、大学等のメンバーで構成する。平成27年度は５回の実行委員会が開催された。協議・検討・報告・連絡の場となっただけでなく、志を共有する場でもあった。その志とは言うまでもなく福島の復興に尽力することである。

福島県は広い。各地域では独自に文化芸術活動が行われ、またその芽が芽生えつつある。そうした芽を育てるインキュベーションの場、結び付けるアーツカウンシルとして、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会が機能できる可能性が見えてきている。

（２）ふくしま震災遺産保全プロジェクト

東日本太平洋沖地震は県内に甚大な被害をもたらし、原発事故も引き起こした。これらにより多量の瓦礫、仮設住宅や汚染物質の保管施設など予想しなかった非日常の景観を新たに生み

出した。本プロジェクトは、震災が発生させたこれらの遺産を次世代に震災の経験を伝える地域の重要な歴史資料と捉え、それらを保全し、防災教育等へ活かすための取り組みである。

事業は文化庁の文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）の採択を受け、実行委員会を組織（実行委員会構成団体：相馬中村層群研究会・南相馬市博物館・双葉町歴史民俗資料館・富岡町歴史民俗資料館・いわき市石炭化石館・ふくしま海洋科学館・いわき自然史研究会・福島県立博物館）し、事務局を県立博物館内において以下の事業を実施した。

ア．各種検討会議の開催

検討会議は５月・10月・３月に開催し、延20名の委員の出席があった。年度当初では「震災年表」の作成や「Ｊビレッジ」など復興に関わる現場の調査も必要との意見あった。２回目の会議では、阪神淡路地区の先進事例調査報告が行われ、「人と未来防災センター」等の施設運営にＯＢや当事者が深く関わっていることが重要であるとの声が相次いだ。また何を伝えるのかを明確に、保持していかないと、施設の独自性が失われることや、一般化してしまう恐れがあるとの意見もあった。最終報告では、中身の濃い普及事業があるのに参加者が少ないものもあり、効率・効果的な広報や、震災を継承すべき世代がすでに存在していること、たとえば当時小学１年生がこの春に中学生になるなど震災からの経年に対応したプログラムの開発の必要性も提案があった。

イ．震災遺産の調査・保全の実施

（ア）震災遺産に関する各種調査の実施

①総合調査・収集の実施（調査・収集）

調査・保全は約30回実施し、収集した震災遺産は600件程である。今年度は震災の多様性・広域性を意識し、本県浜通り地方の９自治体に加え、避難や原子力発電所事故の影響が及んだ中通りや会津地方の７自治体でも調査・保全を実施した。特に「避難」関係では一次避難所・長期継続避難所・応急仮設住宅団地の調査を行い一定の成果を上げた。浪江町や富岡町の一次避難所はほぼ１日だけ運営された場所がそのまま残っている学校があり、遺留品の全リスト作成と収集保全を実施した。また富岡町では避難所対応や全町避難を指示した「災害対策本部」跡も存置されており、調査と全資料の回収を行っている。存置された状況は机の上の遺留品を含めすべて手計測により平面図を作成した。これらにより市町村間での災害備蓄品の差異や、個別の避難所ごとの不足物品の把握が可能となり、また災害対策本部と避難所における避難者人数の把握や情報伝達のあり方など当時の状況を検証できる歴史資料となり、今後の防災・減災や災害対応に寄与することができると考えている。

②震災標本採取（標本作成）

平成23年４月11日、震災の発生から１ヵ月後にいわき市域を中心に大きな余震が襲い、各地に地表活断層が出現した。その多くは改変され今は田人地区の山林中に残されている。地震や地殻変動、そして震災遺産の多様性も示すものとして着目し（平成26年度は講演会と見学会を実施）、そのメカニズムと震災の記憶を伝えるため可視的・可動的な教材化するため、活断層の通過するラインを発掘し現れた断層部分の剥ぎ取り標本を作製した。作業は10月中旬に地区協議会のメンバーと協働で行い、剥ぎ取る段階では地元中学生の参加もあった。中学生は震災当時小学校低学年であり、震災の記憶が薄い世代である。ふるさとに何が起きたのかを改めて知る機会となった。

③先進事例調査（事例調査）

８月中旬に、大震災から20年経った阪神淡路地区の大震災メモリアル施設の大小７箇所の調査及び視察を実施した。「人と未来防災センター」が代表的な施設であるが、多様な観点・手法で震災を伝えてきた実績がある。また淡路島には野島断層を保存する施設があり、いわき市田人地区の活断層を地域歴史資産と活用する観点から、外部協力者としていわき市田人支所の地区協議会担当職員が同行し、負の遺産を地域振興に活かすためのイメージを持っていただくことを企図した。

また、８月下旬には、日本ジオパークに認定されている福島県磐梯山ジオパークの視察研修をいわき市田人地区協議会メンバー８人が参加して実施した。これも田人地区の活断層を地域資源として利活用するため管理・運営・利活用のノウハウとマンパワーの展開の仕方を学ぶことを目的としている。研修会にはジオパークの認定ガイド３名を講師として迎え、熱心な質疑応答が繰り返された。

（イ）資料の整理・保全

収集した資料は原則的にすべて福島県立博物館へ搬送している。ここからの扱いは通常の博物館資料と同じであり、燻蒸を行って収

蔵庫に保管される。燻蒸はコンテナ付トラック内で実施する「トラック燻蒸」方式を委託して行った。

一部の資料は脆弱化しており、補強や修復の措置が必要である。また鉄製のものは津波被災により錆化が進んでおり、試験的な脱塩処理を実施した。その際津波によって付着した土砂などは津波を示す痕跡として保持する方針とし、脱塩や洗浄時に剥落しないようにアクリル樹脂で固着するようにした。このような措置は通常に博物館資料に対してはあまり採用されない手法であり、痕跡を残す意味について今後検討が必要になってくると思われる。

このほか脆弱資料や脆弱部分としてプラスティック製やフジツボなどの生態痕跡があり、文化財科学や保存科学の観点から、適切と思われる試薬を準備し、補強措置を実施した。

データベース構築では、震災遺産現地で撮影した写真も膨大な量があり、日付ごとのデータファイルから地域地点別ファイルに移行する作業を継続した。同時に地区・地点別の基礎データベースの更新も実施し、一部データをデータベースソフトに移行するため、フォーマットの整備に着手した。またデータベース作業の一環として、「震災年表」を作成した。これは、原子力災害による避難指示区域の変更など日々刻々と変化する状況が、震災遺産の意味付けに直結する場面が多い中で、状況や制度の変化を確認できるものが必要だとうの観点から整備に着手したものである。福島民報社の縮刷版（ＤＶＤ）を参考に、取り上げる項目を検討して震災発生から約５年分の年表データベースを作成し、その成果の一部は福島県立博物館での震災遺産展示会場で活用した。

ウ．普及事業の開催

（ア）野外講座

①体験型震災遺産保全事業（ワークショップ）

前述のいわき市田人地区の活断層の剥ぎ取り作業を本事業の一環として実施した。博物館やプロジェクトだけの単独事業ではなく、地域の歴史・文化資産として地域の人々に広く公開し、ふるさとに何が起きたのか認識してもうことを目的として実施した。体験プログラムは、地層同定や剥ぎ取り作業指導で現地指導に立ち会った大学講師の説明を受け、理解を深めた上で保全作業を体験するものである。保全作業期間中の参加者及び見学者は132名、実行委員会及び地域協議会の参加者は延58人であった。

②震災遺産現地説明会（現地説明会）

アウトリーチ事業いわきセッションのプログラムの一つとして12月13日に富岡町で実施した。富岡駅前の津波被災状況や富岡町文化交流センター内に設けられた「災害対策本部」跡などを視察した。いわき市からマイクロバスに乗車し、富岡町職員（実行委員）が案内・説明を行った。とくに後者はいままで公開されたことがないため、仙台や東京方面など遠方より参加者があり、受付開始早々に定員に達した。

なお富岡駅周辺は復興工事により現在は更地になっている。災害対策本部も施設改修工事のため２月に物品の撤収が完了したため、全国的にも稀な災害対策本部跡の公開は最初で最後となった。

（イ）震災遺産を活用した教育普及事業

①アウトリーチ事業「震災遺産を考えるⅡ」の実施（アウトリーチ）

下記県内４会場で震災遺産の展示会をメインプログラムとしてアウトリーチ事業を開催した。郡山セッションは１日だけの開催であったが、他会場では昨年度からの要望を受け、長期の開催とした。福島大学セッションではシンポジウム、いわきセッションでは講演会と富岡町震災遺産見学会を実施した。会津セッションでは、トークセッションと県内で初めて「震災遺構」をテーマにしたシンポジウムを開催した。同時開催として平成26年度から継続している県内の震災遺構３次元デジタル計測（東北大学との連携事業）の成果をミックスド リアリティ（ＭＲ）のブースを構築してアーカイブ体験する事業を県内で初めて実施した。

- ９月５日　郡山セッション（共催）（会場：郡山市中央公民館）プログラム参加者88名
- ９月26日～10月６日　福島大学セッション（主催）プログラム参加者497名
- 12月５日～12月20日　いわきセッション（主催）（会場：いわき市石炭・化石館）プログラム参加者4,894名
- ２月11日～３月21日　会津セッション（主催）（会場：福島県立博物館）プログラム参加者6,365名

②震災遺産教育活用研修会（研修会）

７月31日に震災遺産の学校教育現場での利活用に繋げる機会として県立博物館で研修会を開催した。中学及び高校の教職員11名が参

加した。震災遺産保全プロジェクトの概要を説明した後に、震災遺物の見学を行った。その後の質疑応答の中で、現在の学校現場の防災教育は放射能教育が主体で、実際に命を守る教育がまだ手薄だという発言があった。震災遺産は生々しさもあるが、防災を意識するきっかけになり得るとの意見もあった。

③震災遺産出前講座（出前講座）

平成27年度の学校連携事業は、高校文化祭への協力として実現した。会津地域の高校の生徒が、就職活動や県外への進学準備を進める中で「福島は大丈夫？」と問い掛けられても現実感が乏しく自分の言葉で答えられなかった経験がきっかけだという。上述の研修会に参加した担当教師の引率の下、博物館にて収集震災遺産の見学と浜通り地区の被災地訪問を行い、その成果を文化祭の震災遺産展示会で公表した。高校生の思いにどれほど寄与できたのか不明な点もあるが、高校生のそうした思いに触れることができたのはプロジェクトとしても貴重な経験であった。

（ウ）情報発信

①事業紹介パンフレット作成（パンフレット）

プロジェクトの取り組みを紹介するパンフレットを5,000部発行。主に県内文化施設や県立学校等に配布した。

②ホームページ作成（ホームページ）

独自ホームページの作成はできなかったが、事務局を置く福島県立博物館のＨＰ上で適宜情報発信を実施した。

活断層標本剥ぎ取り作業（いわき市）

避難所として使用された小学校体育館（浪江町）

震災遺産の修復・補強作業（県立博物館）

県立若松商業高等学校生による震災遺産見学
（県立博物館）

シンポジウム光景（福島大学）

アウトリーチ事業ポスター（会津セッション）

9. 連携事業

福島県立博物館では、各種団体が主催する事業のうち、本県の文化・教育そして東日本大震災からの復興に寄与する事業に参画し、他機関と連携しながら活動を進めている。

（1）磐梯山ジオパーク推進事業

ア．事業の趣旨・経緯

ジオパークとはヨーロッパで始まった地質や地形を見どころとする大地の公園。ユネスコが支援する活動となり、平成16年に世界ジオパークネットワーク（ＧＧＮ）が設立。平成27年９月現在、ヨーロッパと中国を中心に33ヶ国120地域が加盟。平成27年にはユネスコの正式な事業となった。世界遺産は条約に基づいて保全・保護を重要視するのに対して、ジオパークは、保全はもとより資源の活用による地域の振興を図ることを目標にしている。また、地質遺産だけではなく、それを背景とした考古資料、生態学的もしくは文化的に価値のあるものも含む。日本では平成28年３月現在39地域が日本ジオパークとして認定されており、そのうち８地域が世界ジオパークに認定されている。

平成20年から有志により磐梯山地域をジオパークにしようとする運動が始まり、平成22年３月に磐梯山周辺の３町村と関係機関を中心に、磐梯山ジオパーク協議会が設立された。平成23年９月に、日本ジオパーク委員会により、磐梯山地域が日本ジオパークとして認定された。将来的には磐梯山地域が世界ジオパークに認定され、ジオパークとしての活動を継続していくことを目指している。平成27年には、４年に１回実施される日本ジオパーク委員会による日本ジオパークの再審査が行われ、認定された。

福島県立博物館は、ジオパークの拠点施設として磐梯山ジオパーク協議会設立当初から協議会に参画し、館の正式な連携事業と位置づけて進めている。ジオパーク推進事業における当館の役割は次のとおりである。

- 地域研究の推進と学術成果の収集による最新の研究成果の提供
- ジオパークの説明媒体（ガイドブック、解説板など）の制作・監修
- ジオパークとしての教育プログラムの開発と提供
- 住民や児童への普及活動のための講師派遣
- ジオガイド養成のための講師派遣
- ツアーの拠点としてジオパークに関する情報提供
- ジオパーク普及のための各種イベントの開催

イ．組　織

磐梯山ジオパーク協議会は、行政団体として磐梯山周辺の猪苗代町・磐梯町・北塩原村が中心となり運営し、福島県が支援している。これに３町村の商工団体と観光協会、及び民間団体として文化施設およびツーリズム協会が加わっている。事務局は３町村の商工観光課が中心となり、北塩原村自然環境活用センターに置かれている。

磐梯山ジオパーク協議会組織

区　分	機関・団体名
学識経験者	福島県立博物館ほか
行政団体	福島県企画調整部企画調整課
	福島県会津地方振興局
	猪苗代町
	磐梯町
	北塩原村
商工団体	猪苗代町商工会
	磐梯町商工会
	北塩原村商工会
観光協会	猪苗代観光協会
	磐梯町観光協会
	裏磐梯観光協会
民間団体	野口英世記念館
	磐梯山噴火記念館
	猪苗代伝保人会
	猪苗代山岳会
	裏磐梯エコツーリズム協会
	国立磐梯青少年交流の家
	磐梯やま楽校
オブザーバー	林野庁会津森林管理署
	環境省裏磐梯自然保護官事務所
	福島県喜多方建設事務所

ウ．活　動

平成27年度は次の事業を実施した。

1．ジオパーク関連の大会･学会･研修会参加

日本ジオパーク全国大会(霧島)など14件

2．調査活動

（1）地形・植生調査

磐梯山崩壊壁及び銅沼、裏磐梯スキー場現地調査

3．啓発活動

（1）フォーラム・シンポジウム

第６回ジオパークフォーラム in 磐梯町１件

（2）専門家を招聘した講演会

元福島県立博物館学芸員　佐々木長生氏など４件

（3）ジオツアー

「地質の日ジオツアー」など４件

（4）出前講座

磐梯大学講座「ジオパーク講座」など10件

（5）出前授業

猪苗代町立吾妻小学校など18件

4．広報活動

（1）イベント参画

磐梯青少年交流の家「体験の風をおこそう！」など17件

（2）広報誌発行

猪苗代町「ジオパーク通信　ジオパーク、知ってる？」５～８号発行

5．ガイド養成

（1）ガイド研修

猪苗代町エリアと北塩原村エリア合同研修など２件

6．ツアー解説媒体制作

（1）ジオサイト解説看板設置

殉難の精霊碑など２基設置

（2）ジオパークガイドブック

英語版エリアガイドブック２冊制作

（3）磐梯山ジオカード

５種類制作

7．他機関との連携

（1）図書館との連携

いわき市立いわき総合図書館での「磐梯山ジオパーク展」の開催

8．日本ジオパーク委員会による再認定審査

地質の日ジオツアー　磐梯町慧日寺資料館にて

ガイド研修　猪苗代町天鏡台にて

（2）ふくしまサイエンスぷらっとフォーム

科学の普及を目的として、平成20年に福島大学が中心となり、産官学民の様々な機関や個人が参画して結成された組織。これまで科学普及活動は、ほとんど学校教育の理科を通じて行われてきた。ふくしまサイエンスぷらっとフォーム(spff)では、多様な分野・業種の人々が集まって、市民全体を対象として、大小様々の科学イベントの開催、企画、情報活動、広報活動に取り組んでいる。特に、平成23年３月11日の震災以降、復興支援活動と科学理解活動の密接な連携を模索している。福島県立博物館もこのプロジェクトに平成22年から参画して活動している。

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携機関一覧　（平成28年３月現在）

所　属　機　関	
福島大学	福島県鉄工機械工業共同組合
福島県商工労働部	(有)西坂製作所
ふくしま森の科学体験センター（ムシテックワールド）	福島県立博物館
郡山市ふれあい科学館（スペースパーク）	いわき明星大学エネルギー教育研究会
磐梯山噴火記念館	福島県商工会議所連合会
福島県ハイテクプラザ	(株)坂本乙造商店
福島県農業総合センター	福島県立図書館
福島県環境創造センター	ふれあい科学館支援チーム
福島県林業研究センター	福島県男女共生センター
福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ	(有)アビスタ
(株)福島製作所	福島県立テクノアカデミー郡山
日東紡績㈱　福島工場	日本ベクトン・ディッキンソン㈱
日東紡績㈱ 富久山事業センター	相馬市教育委員会
ＮＥＣネットワークプロダクツ株式会社	一般社団法人産業サポート白河
福島県商工会連合会	一般社団法人りょうぜん振興公社　霊山こどもの村

平成27年度にspffが中心となり実施した活動は表のとおりである。このうち、「spffサイエンス屋台村 in ムシテックワールド」は福島県立博物館も参加した。自然史講座「化石さがしと大断層の観察」についてもspffと連携して実施した。このほか、spffを窓口とした県外の団体と連携した活動や、視察・研修および研究活動を実施した。これらの事業は、公益財団法人福島県学術教育振興財団による助成「震災後のレジリエンス教育プログラム開発と教育資源の保存・活用事業」および福島県緊急雇用創出基金事業による助成「復興再生事業と地域の科学教育資源の連携による地域ネットワーク構築事業」をもとに実施した。

平成27年度ふくしまサイエンスぷらっとフォーム実施主要事業

No.	名　　称	期　　日	会　　場
1	サイエンスフェスティバル	5月22日～6月6日 7月18日～20日 8月12日～16日 9月19日～23日	郡山市ふれあい科学館
2	おもしろ科学びっくり箱	7月26日 8月21日 10月18日 11月23日	郡山市ふれあい科学館
3	わくわくサイエンス	8月 2日、 8日	福島市子どもの夢を育む施設こむこむ
4	教員のための博物館の日　子供が喜ぶ授業作り	8月 3日	ムシテックワールド
5	農業総合センターまつり	9月11日～12日	福島県農業総合センター
6	自然史講座「化石さがしと大断層の観察」	9月26日～27日	福島県立博物館
7	ムシテック祭り	10月17日～18日	ムシテックワールド
8	そうそうこども科学祭	11月17日	テクノアカデミー浜
9	spff サイエンス屋台村 in ムシテックワールド	11月28日	ムシテックワールド
10	図書館サイエンスワークショップ「火山のしくみ」	12月 6日、23日	白河市立図書館
11	実験しよう！火山のヒ・ミ・ツ	1月17日	郡山市ふれあい科学館

サイエンス屋台村 in ムシテックワールド
「化石をとりだそう！」１

サイエンス屋台村 in ムシテックワールド
「化石をとりだそう！」２

（３）福島藝術計画×Art Support Tohoku-Tokyo

福島藝術計画 × Art Support Tohoku-Tokyoは、平成24年より、福島県、東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）の三者が共催し、地域の団体と協働してアートプログラムを実施している事業。

文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場をつくり、文化芸術による地域活力の創出と心のケアという視点から復旧･復興を支援している。

東日本大震災から４年。

福島の未来を担う子どもたちが、ふるさとの自然や文化を体験し、心豊かに成長していくこと。

福島県ならではの多様な文化を、地域の隔たり無く分かち合い、もう一度その素晴らしさを互いに見直すこと。

福島の現状や未来のことを考え、創造する場を持つこと。

福島の宝や人の思い、そして大切な何かをつなぎ・つたえていく。

そうした動きが、福島の復旧･復興に向けて大きな力になると信じ、福島藝術計画×Art Suppot Tohoku-Tokyoは活動を続けている。

ア．主　　催

福島県／東京都／アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）

イ．運営委員会構成団体

福島県文化振興課／福島県立美術館／福島県立博物館／アーツカウンシル東京／NPO法人 Wunder ground

ウ．事 務 局

NPO法人 Wunder ground

エ．事業内容

福島藝術計画 × Art Support Tohoku-Tokyoでは、平成27年度、３つの大きな事業を実施した。

ひとつは、会津地方を舞台に福島の「森林文化」に着目した「森のはこ舟アートプロジェクト」。

ひとつは、アーティストを講師に招き、福島県内の各学校で児童・生徒対象のワークショップを開催した「学校連携事業」。

そして、いわき市小名浜の下神白にある災害公営住宅を舞台にした「イトナミニティ 人を紡ぐアートプログラム」。

Ⅱ　管理運営

1. 組織・職員

（平成27年４月１日現在）

館　長　赤坂　憲雄

副館長　矢吹幸一郎

学芸課長
田中　　敏

（展示・企画運営班）

専門学芸員
高橋　　充
（歴史）

主任学芸員
小林めぐみ
（美術）

主任学芸員
阿部　綾子
（歴史）

主任学芸員
内山　大介
（民俗）

専門員
藤原　妃敏
（考古）

（資料整理・保存班）

専門学芸員
相田　　優
（自然）

専門学芸員
佐藤　洋一
（歴史）

主任学芸員
高橋　　満
（考古）

副主任学芸員
杉崎佐保惠
（保存）

専門員
竹谷陽二郎
（自然）

（学習支援班）

専門学芸員
森　　幸彦
（考古）

主任学芸員
佐治　　靖
（民俗）

主任学芸員
二瓶　浩伸
（民俗）

主任学芸員
荒木　　隆
（考古）

主任学芸員
田中　伸一
（歴史）

学芸員
猪瀬　弘瑛
（自然）

総務課長
板橋　良英

主査
川島　陽一

主査
渡辺　　亨

主事
橋本　竜男

（広報班）

専門学芸員
川延　安直
（美術）

主任学芸員
香内　　修
（自然）

主任学芸員
金澤　文利
（美術）

学芸員
大里　正樹
（民俗）

（定数外）
- 展示解説員（嘱託）13名
- 資料整理員（嘱託）　2名

嘱託員等名簿

職　名	氏　名	職　名	氏　名
展示解説員	小池　美奈	展示解説員	椎野　未帆
	大関　　徹		綱　真奈美
	穴澤由美子		富田　陽介
	長谷川亜樹		柳沼　美咲
	佐々木杏純		吉村江理佳
	前田　知香	資料整理員	竹内　　咲
	岩﨑　　萌		相原　綾子
	後藤　知春		

2. 予　算

平成27年度は下記の通り予算を執行した。

平成27年度予算執行状況

歳　入　　（単位：千円）

科目（款・項・目・節）				金額
使用料及び手数料				5,978
	使用料			5,978
		行政財産使用料		387
			建物使用料	387
		教育使用料		5,591
			博物館使用料	5,591
財産収入				1,322
	財産売払収入			1,322
		物品売払収入		1,322
			その他物品売払代金	1,322
諸収入				1,540
	雑入			1,540
		雑入		1,540
			雑入	1,540
合計				8,840

歳　出　　（単位：千円）

科目（款・項・目・節）				金額
労働費				2,237
	雇用対策費			2,237
		緊急雇用対策費		2,237
			共済費	298
			賃金	1,745
			需用費	194
教育費				162,556
	教育総務費			2,999
		事務局費		2,970
			報酬	2,400
			職員手当	555
			共済費	15
		財務管理費		29
			交際費	29
	社会教育費			159,557
		文化財保護費		25
			使用料及び賃借料	25
		美術館費		841
			委託料	841
		博物館費		158,691
			報酬	24,747
			共済費	3,825
			報償費	595
			旅費	3,346
			需用費	50,151
			需用費（食糧費）	0
			役務費	4,260
			委託料	59,384
			使用料及び賃借料	1,190
			工事請負費	10,382
			備品購入費	731
			負担金、補助及び交付金	56
			公課費	24
合計				164,793

博物館費内訳（単位：千円）

運営費	105,184
資料収集費	876
保存管理費	3,780
常設展費	25,841
企画展費	6,704
調査研究費	3,225
教育普及費	2,700

3. 運営協議会の開催

（1）福島県立博物館運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア．運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年１月からは、委員の選考に公募方式を導入した。

運営協議会委員名簿

区分	氏　　名	役　　職　　名
学校教育	金子美津子	いわき市立小名浜東小学校長
	三輪　晶子	郡山市立高瀬中学校長
	山内正之	県立会津学鳳中学校・高等学校長
社会教育	会長 遠藤　俊博	（公財）福島県文化振興事業団理事長
	安部　信一	二本松市生涯学習課長
学識経験者	佐藤彌右衛門	合資会社　大和川酒造店代表社員
	長尾　　修	公立大学法人会津大学短期大学部 社会福祉学科　非常勤講師
	一ノ瀬美枝	会津若松市教育委員会委員
	大友　靖子	家庭教育インストラクター 連絡協議会理事
	齋藤　陽子	公募委員

イ．会　議

第１回　平成27年７月２日（木）

議　題

①会長および副会長の選出について
②平成27年度の事業について
③中期目標の達成状況について
④入館状況について

第２回　平成28年３月７日（月）

議　題

①平成27年度事業の実施状況について
②平成28年度事業計画について
③平成28年度予算案の概要について

Ⅲ　利用状況

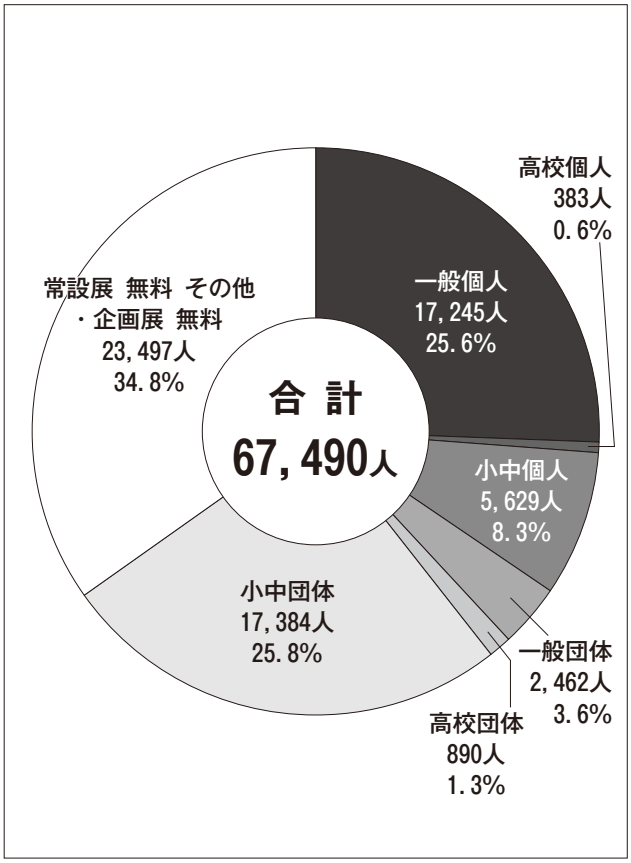
1.　入館者統計

（1）平成27年度入館者統計

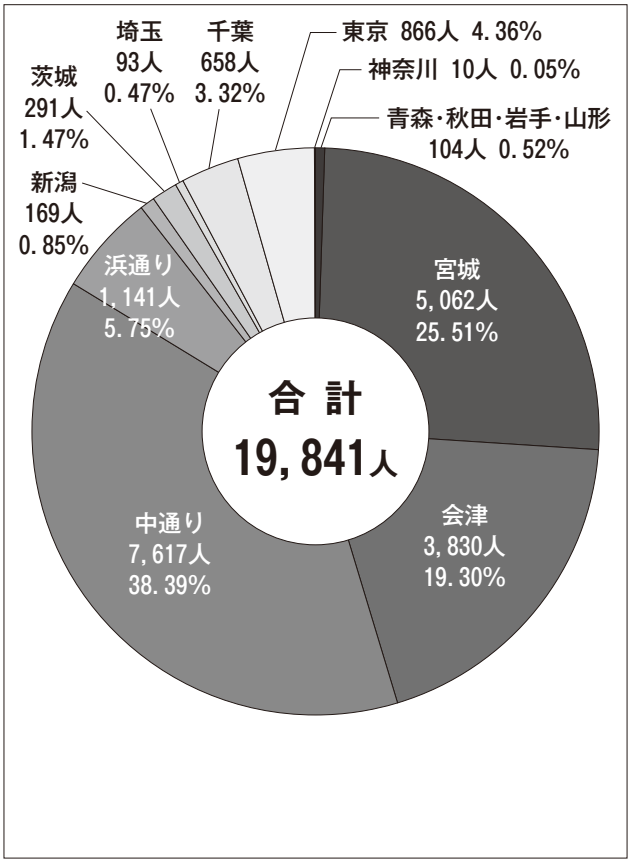
月別入館者数

月別	常設展				企画展			合計		構成比
	日数	有料	無料		日数	有料	無料	日数	人数	
		人数	小中高校生	その他		人数	人数			
			人数	人数						
4	26	1,753	3,025	437				26	5,215	7.7%
5	27	2,947	4,525	844	26		3,801	27	12,117	17.9%
6	24	1,343	6,176	797	18		2,191	24	10,507	15.6%
7	27	1,211	1,274	551	12	396	88	27	3,520	5.2%
8	27	2,225	695	629	27	1,099	225	27	4,873	7.2%
9	26	1,868	4,808	613	12	283	49	26	7,621	11.2%
10	27	1,197	1,924	1,487	19	624	143	27	5,375	8.0%
11	25	1,291	617	1,637	25	824	174	25	4,543	6.7%
12	22	459	69	1,024				22	1,552	2.3%
1	24	486	226	1,780				24	2,492	3.7%
2	24	847	367	3,288				24	4,502	6.7%
3	27	1,156	278	3,739				27	5,173	7.7%
合計	306	16,783	23,984	16,826	139	3,226	6,671	306	67,490	100.0%

入館者内訳



地域別学校団体入館申込者数



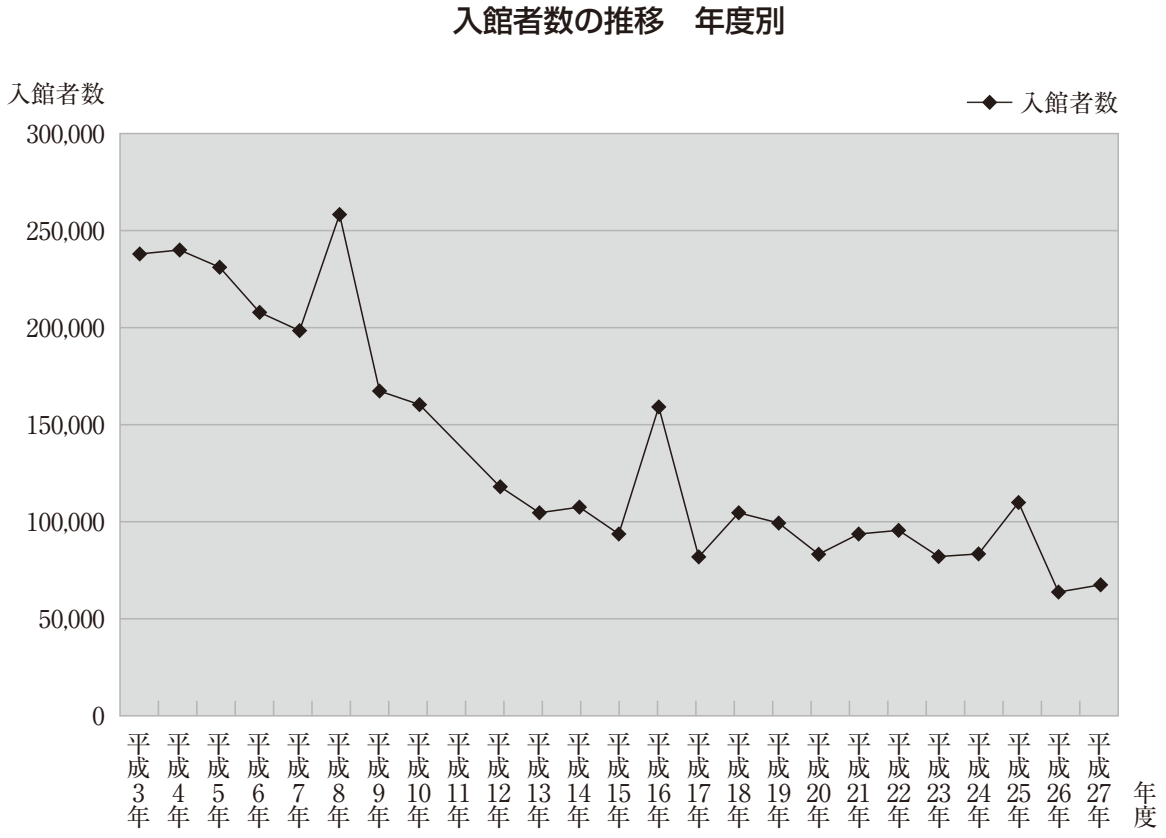
（2）入館者の推移

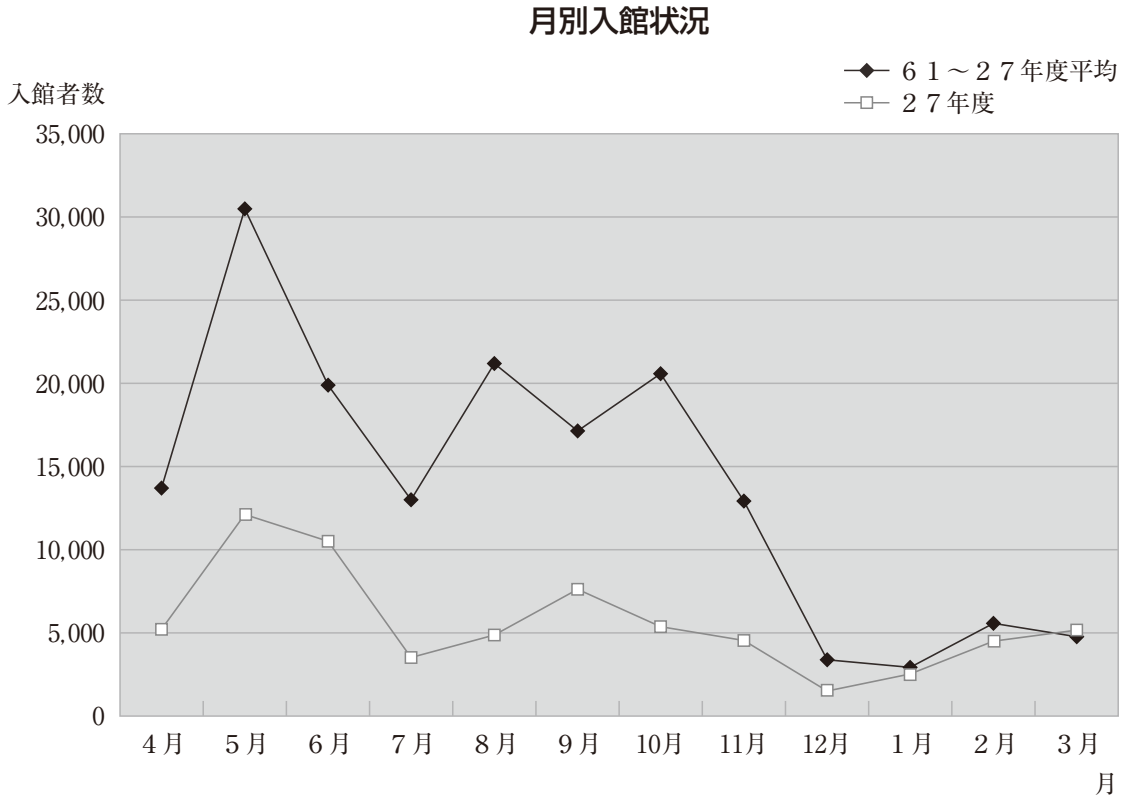
入館者の推移（年度別・月別）

（単位：人）

区分	4　月	5　月	6　月	7　月	8月	9月	10　月	11　月	12　月	1　月	2　月	3　月	合　計	日　数	日平均	月平均	累　計
61年							31, 758	49, 868	8, 860	6, 531	13, 614	11, 850	122, 481	133	921	20, 414	122, 481
62年	25, 919	48, 367	17, 831	23, 356	40, 749	24, 259	27, 099	27, 082	5, 548	4, 010	7, 653	7, 878	259, 751	297	875	21, 646	382, 232
63年	20, 561	35, 853	14, 823	22, 651	32, 396	20, 198	29, 648	21, 234	4, 512	4, 959	6, 350	4, 405	217, 590	296	735	18, 133	599, 822
元	25, 699	52, 872	20, 356	18, 456	31, 127	18, 248	26, 832	16, 058	3, 369	4, 048	6, 986	4, 873	228, 924	299	766	19, 077	828, 746
2年	22, 750	50, 265	19, 043	24, 050	34, 218	17, 008	34, 201	18, 482	2, 303	3, 813	5, 982	7, 115	239, 230	299	800	19, 936	1, 067, 976
3年	22, 851	52, 723	23, 592	20, 340	33, 257	21, 882	21, 851	15, 682	3, 618	8, 675	7, 006	6, 530	238, 007	298	799	19, 834	1, 305, 983
4年	16, 637	56, 983	23, 841	22, 800	37, 431	20, 334	18, 565	17, 592	4, 028	5, 073	9, 096	7, 606	239, 986	297	808	19, 999	1, 545, 969
5年	17, 975	50, 452	29, 319	21, 138	28, 490	18, 285	20, 022	15, 629	6, 989	4, 993	9, 137	8, 640	231, 069	293	789	19, 256	1, 777, 038
6年	15, 320	38, 693	20, 737	12, 328	25, 837	16, 551	28, 034	19, 857	7, 839	4, 732	9, 197	8, 742	207, 867	296	702	17, 322	1, 984, 905
7年	16, 571	42, 832	28, 622	15, 340	23, 785	16, 428	20, 252	15, 096	2, 048	2, 701	7, 631	7, 160	198, 466	298	666	16, 539	2, 183, 371
8年	12, 433	40, 138	18, 185	9, 725	21, 495	15, 879	64, 772	50, 811	9, 473	3, 141	6, 700	5, 616	258, 368	294	879	21, 531	2, 441, 739
9年	13, 521	39, 844	22, 279	8, 036	15, 803	13, 082	26, 015	10, 290	2, 125	2, 111	7, 578	6, 686	167, 370	295	567	13, 948	2, 609, 109
10年	14, 922	34, 430	24, 933	9, 541	16, 208	13, 794	18, 431	9, 061	2, 395	3, 218	9, 770	3, 575	160, 278	295	474	13, 357	2, 769, 387
11年	13, 456	30, 999	23, 659	9, 051	13, 607	12, 175	15, 696	7, 937	1, 582	2, 714	4, 795	3, 676	139, 347	294	393	11, 612	2, 908, 734
12年	10, 539	21, 341	18, 775	7, 127	13, 184	12, 794	15, 609	8, 120	1, 801	829	5, 353	2, 897	118, 369	301	393	9, 864	3, 027, 103
13年	8, 473	20, 267	16, 475	5, 682	8, 451	13, 423	12, 192	5, 825	5, 797	1, 412	3, 836	2, 818	104, 651	303	345	8, 721	3, 131, 754
14年	8, 028	19, 242	17, 211	4, 706	14, 702	19, 901	10, 688	5, 265	1, 078	1, 196	3, 183	2, 386	107, 586	306	352	8, 966	3, 239, 340
15年	4, 899	13, 884	12, 884	8, 732	10, 630	12, 525	13, 000	7, 693	1, 665	1, 235	3, 733	2, 734	93, 614	302	310	7, 801	3, 332, 954
16年	8, 770	19, 287	16, 768	20, 318	34, 732	35, 813	11, 227	5, 440	2, 192	855	2, 019	1, 690	159, 111	302	527	13, 259	3, 492, 065
17年	8, 440	14, 548	12, 008	7, 507	7, 157	8, 787	11, 972	4, 374	926	1, 159	2, 815	2, 262	81, 955	305	269	6, 830	3, 574, 020
18年	7, 019	11, 381	14, 151	5, 246	10, 548	13, 405	25, 464	9, 029	1, 989	1, 468	2, 928	2, 058	104, 686	310	338	8, 724	3, 678, 706
19年	7, 419	12, 271	25, 016	6, 808	7, 148	10, 084	12, 495	8, 261	1, 938	1, 627	2, 943	3, 290	99, 300	306	325	8, 275	3, 778, 006
20年	6, 521	10, 730	13, 011	7, 401	8, 582	10, 326	11, 388	6, 798	1, 558	1, 037	2, 193	3, 730	83, 275	306	272	6, 940	3, 861, 281
21年	7, 977	13, 060	11, 912	7, 356	14, 280	16, 864	9, 211	6, 761	1, 383	1, 127	1, 815	1, 850	93, 596	306	306	7, 800	3, 954, 877
22年	11, 669	15, 085	16, 283	10, 472	11, 658	9, 513	8, 522	6, 280	1, 637	1, 947	1, 796	694	95, 556	293	326	7, 963	4, 050, 433
23年	2, 292	6, 582	4, 990	5, 557	11, 047	15, 972	9, 465	6, 399	3, 159	4, 280	7, 087	5, 218	82, 048	305	269	6, 837	4, 132, 481
24年	8, 940	9, 350	6, 912	7, 532	12, 764	10, 702	10, 683	6, 438	2, 316	1, 551	3, 173	3, 040	83, 401	306	273	6, 950	4, 215, 882
25年	6, 523	11, 722	25, 363	9, 013	20, 966	12, 299	11, 802	4, 025	2, 736	1, 617	1, 463	2, 309	109, 838	309	355	9, 153	4, 325, 720
26年	4, 972	7, 374	7, 677	4, 250	5, 845	7, 457	4, 549	8, 878	3, 815	1, 036	3, 765	4, 121	63, 739	309	206	5, 312	4, 389, 459
27年	5, 215	12, 117	10, 507	3, 520	4, 873	7, 621	5, 375	4, 543	1, 552	2, 492	4, 502	5, 173	67, 490	309	218	5, 624	4, 456, 949
平均	12, 287	27, 334	17, 833	11, 657	18, 999	15, 366	18, 894	13, 294	3, 341	2, 853	5, 470	4, 687	148, 565				

入館者数の推移グラフ（年度別月別）





利用状況

（3）企画展入館者統計

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
61	武家の文化	61.10.18～61.11.16	27日	18,806人	1,967人	4,474人	25,247人
	福島のまつり	62. 1.17～62. 3. 1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福島の顔	62. 4.18～62. 6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植物化石展	62. 7.18～62. 9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会津の仏像	62.10.17～62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸奥の古瓦	63. 1.23～63. 3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境の神・風の神	63. 4.16～63. 6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江戸時代の流通路	63. 7.16～63. 9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東国の埴輪	63.10. 8～63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鉱物の世界	元. 1.21～元. 3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄文の四季	元. 4.18～元. 6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町の成立とにぎわい	元. 7. 4～元. 9. 3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中通りの仏像	元. 9.22～元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東北の陶磁史	2. 1.20～ 2. 3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	亜欧堂田善とその系譜	2. 4.21～ 2. 6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太古の生きものたち	2. 7. 6～ 2. 9. 2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀吉・氏郷・政宗	2. 9.22～ 2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日本の音色	3. 1.19～ 3. 3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シルクロード紀行	3. 4.16～ 3. 6. 9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄文絵巻	3. 7.20～ 3. 9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜通りの仏像	3.10.10～ 3.12. 8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふくしま鉱山のあゆみ	4. 1.18～ 4. 3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マンガ文化の源流	4. 4.18～ 4. 6. 4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐竜のあるいた道	4. 7.18～ 4. 9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定信と文晁	4.10.17～ 4.12. 6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発掘ふくしま	5. 1.16～ 5. 3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明治はじめて物語	5. 4.17～ 5. 6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲とくらし	5. 7.17～ 5. 9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東北からの弥生文化	5.10.16～ 5.12. 5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会津の自然史	6. 1.22～ 6. 3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉堂と春琴・秋琴	6. 4.23～ 6. 6. 5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げんき・病・元気	6. 7.23～ 6. 9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会津大塚山古墳の時代	6.10. 8～ 6.12. 4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村芝居の世界	7. 1.21～ 7. 3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
7	探検貝化石ワールド	7. 4.22～ 7. 6.11	44	9,187	1,608	26,208	37,003
	海のまくあけ	7. 7.22～ 7. 9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福島1000年時のかたち	7.10. 7～ 7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	いにしえの木の匠	8. 1.20～ 8. 3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875
8	福島の山岳信仰	8. 4.20～ 8. 6. 9	44日	8,931人	976人	12,432人	22,339人
	地震・火山・津波	8. 7.20～ 7. 9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀吉と桃山文化	8.10. 5～ 8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155
	近代子どもの世界	9. 1.18～ 9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074
9	縄文たんけん	9. 4.19～ 9. 6. 8	43	5,282	1,164	23,052	29,498
	日本の魚学・水産学事始め	9. 7.19～ 9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染める	9.10.10～ 9.12.7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠澤と探幽	10. 1.24～10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089
10	戦国の城	10. 4.18～10. 6.14	49	8,731	600	19,452	28,783
	発掘ふくしま2	10. 7.18～10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天の絹絲	10.10.10～10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日本の美	11. 1.26～11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷河時代	11. 4.17～11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新弥生紀行	11. 7.17～11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生の中の死	11.10. 9～11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊かなる世界へ	12. 1.22～12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集古十種	12. 4.22～12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海獣パレオパラドキシア	12. 7.15～12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英雄たちの系譜	12.10. 7～12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安積艮斎と門人たち	13. 1.20～13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食と考古学	13. 4.21～13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武者たちが通る	13. 9.22～13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化石芸術	14. 4.27～14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪村展	14. 8.10～14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26日	2,473人	386人	647人	1,424人	4,930人
	発掘ふくしま3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《笑い》の想像力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊辰戦争といま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	アートオブスター・ウォーズ展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふくしまの工芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
17	老い	17. 4.23～17. 6. 5	39	1,732	80	414	814	3,040
	婚礼	17. 9.23～17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818
18	馬と人との年代記	18. 4.22～18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布の声をきく	18. 7.22～18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川将軍家と会津松平家	18. 9.30～18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540
19	樹と竹	19. 7.21～19. 9.17	52日	1,987人	44人	429人	619人	3,079人
	わくわく！化石大集合	19.10. 6～19.11.25	44	2,611	21	1,593	2,233	6,458
	計		96	4,598	65	2,022	2,852	9,537
20	宝の山２００８	20. 7.19～20. 9.23	58	3,943	66	1,131	1,070	6,210
	遠藤香村	20.10.11～20.11.24	41	1,619	131	106	973	2,829
	計		99	5,562	197	1,237	2,043	9,039
21	岡本太郎の博物館	21.10.10～21.11.23	40	1,905	9	95	1,371	3,380
	計		40	1,905	9	95	1,371	3,380
22	千少庵と蒲生氏郷	22. 4.17～22. 5.30	39	6,077	27	489	985	7,578
	森に生き山に遊ぶ	22. 6.26～22. 8.22	51	12,588				12,588
	漆のチカラ	22.10. 9～22.11.28	43	2,564	31	159	1,259	4,013
	計		133	21,229	58	648	2,244	24,179
23	保科正之の時代	23.10. 8～23.11.27	43	4,908	28	188	0	5,124
	小さなもの集まれ	24. 2.18～24. 3.31	36	2,523	21	271	0	2,815
	計		79	7,431	49	459	0	7,939
24	小さなもの集まれ	24. 4. 1～24. 5.13	38	4,264	82	493	875	5,714
	恐竜時代のふくしま	24. 7.14～24. 9.17	54	6,985	128	4,055	2,648	13,816
	会津の寺宝	24.10. 6～24.11.25	44	6,668	16	72	872	7,628
	計		136	17,917	226	4,620	4,395	27,158
25	八重の桜	25. 5.17～25. 7. 3	46	13,146	130	5,462	5,197	23,935
	対決！恐竜展	25. 7.27～25. 9.16	46	9,948	273	5,033	3,733	18,987
	考古学からの挑戦	25.10. 5～25.12. 1	50	1,955	11	85	634	2,685
	計		142	25,049	414	10,580	9,564	45,607
26	東北－風土・人・くらし	26. 4.19～26. 5.18	26	1,094	30	102	360	1,586
	アイヌの工芸	26. 7.19～26. 9.15	52	2,841	62	531	702	4,136
	みちのくの観音さま	26.11. 1～26.12.14	38	6,441	18	73	1,419	7,951
	計		116	10,376	110	706	2,481	13,673
27	ふるさと会津の人と四季	27. 5. 2～27. 6.21	44				5,992	5,992
	被災地からの考古学１	27. 7.18～27. 9.13	51	1,518	39	221	362	2,140
	相馬中村藩の人びと	27.10.10～27.11.29	44	1,406	8	34	317	1,765
	計		139	2,924	47	255	6,671	9,897

※平成16年度のアート オブ スター・ウォーズ展については高校生の区分は中学生・高校生、小・中学生の区分は小学生と読替え

2. 出版物販売

図録売り上げ表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
武家の文化	600		2		1		1	1	3				1	9	5,400
ふくしまの顔	500				1	1								2	1,000
陸奥の古瓦	400		1		1	4	4	1					2	13	5,200
鉱物の世界	400		1		1		3		1	1			1	8	3,200
縄文の四季	500		3	2	1		2	2	1		3	1	2	17	8,500
まちの成立とにぎわい	500		1		2		2	1						6	3,000
亜欧堂田善とその系譜	1,000	1			1		2	1	1	1			1	8	8,000
太古の生きものたち	500					1								1	500
日本の音色	800				2									2	1,600
シルクロード紀行	1,000												1	1	1,000
縄文絵巻	800		2	2	2		3	5		3	1		1	19	15,200
浜通りの仏像	500	2	2	1		2		1						8	4,000
ふくしま鉱山のあゆみ	800	1			1		2	1	1		1	1	1	9	7,200
マンガ文化の源流	1,000	1		1	2									4	4,000
恐竜のあるいた道	500													0	0
定信と文晁	1,000	1	3		1			1		4			1	11	11,000
明治はじめて物語	500	2	1	1	1	1	1						1	8	4,000
稲とくらし	800	1		1	1	1								4	3,200
東北からの弥生文化	800		1		1		1	3					1	7	5,600
会津の自然史	800				3	3		1	1		2	1	1	12	9,600
玉堂と春琴・秋琴	1,100	1				4		2		1		1		9	9,900
げんき・病・元気	800		2			1	1	1						5	4,000
村芝居の世界	900			1	4			1				1		7	6,300
探検貝化石ワールド	800													0	0
海のまくあけ	800				2		1	1						4	3,200
福島1000年時のかたち	900	1			1				1					3	2,700
いにしえの木の匠	600	1	1	1		1	2						1	7	4,200
福島の山岳信仰	800	4	1		1	2	2		2		1			13	10,400
地震・火山・津波	500		1				1						2	4	2,000
近代子どもの世界	900	1		1	1				1					4	3,600
縄文たんけん	900		1			1	2				1		1	6	5,400
日本の魚学・水産学事始め	500										1			1	500
染める	600	2				1								3	1,800
遠澤と探幽	1,300	1	1	1					1	1				5	6,500
天の絹絲	1,300	5	1	3	2				1	1		1	2	16	20,800
日本の美	800	2			1									3	2,400
氷河時代	700		1						1		1	1		4	2,800
新弥生紀行	1,100		1				1	2			1		1	6	6,600
生の中の死	900	1	5	1	2	1	2			1			2	15	13,500
豊かなる世界へ	600	1			1				1	1			1	5	3,000
集古十種	1,100		3		1	1		1	2		1	1	2	12	13,200
海獣パレオパラドキシア	600	1		1			1	1	1			1	1	7	4,200
英雄たちの系譜	500	2			1			1						4	2,000
食と考古学	500		3	1	2	5			2		2		2	17	8,500
肖像に見る福島を築いた人々	900	1	1		2							1	1	6	5,400
武者たちが通る	400		5	2	3	1	1	5	8		4	3	5	37	14,800

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
発掘ふくしま3	600		1		2	3	3		1			2		12	7,200
笑いの想像力	1,000				1								1	2	2,000
老い	1,000	1			2								1	4	4,000
婚礼	800				1	1					1			3	2,400
馬と人との年代記	1,600	2		2	2	2	2		1					11	17,600
布の声をきく	1,300	3											1	4	5,200
徳川将軍家と会津松平家	1,200	3	13	1	6	9	5	9	8	1	1	1	2	59	70,800
樹と竹	1,200	1				2	1			1			1	6	7,200
わくわく！化石大集合	800										1		2	3	2,400
会津磐梯山	1,000		3		2	1	2	2	1	1		1	2	15	15,000
遠藤香村	1,500	2					1	1	1				1	6	9,000
岡本太郎の博物館	1,000	1					1							2	2,000
千少庵と蒲生氏郷	500	1	3	1	1	1	2	2	1	1	1	30		44	22,000
漆のチカラ	800	2	5	4		1	2	3			1			18	14,400
保科正之の時代	1,000	2	8	1	4	8	6	4	4		1		4	42	42,000
恐竜時代のふくしま	500				1	1	1	3			1		1	8	4,000
会津の寺宝	1,000	3	3	4	1	1	4		14	1			1	32	32,000
八重の桜	2,000		1		2	1	1	1	1			2		9	18,000
対決！恐竜展ガイドブック	300				1				1				2	4	1,200
恐竜博2011ポプラディア完全ガイド	500	1												1	500
恐竜博2011公式図録	2,000						1							1	2,000
考古学からの挑戦	900	1	2	1	5	7	7	3	1		1		3	31	27,900
アイヌの工芸	1,000	2	2	2	1	2	1		1			1		12	12,000
被災地からの考古学1	200				41	82	54	20	13	79	7	3	109	408	81,600
相馬中村藩の人びと	700							130	147	35	7	2	12	333	233,100
紀要（数量）		8	9	7	21	10	7	9	9	5	2	3	6	96	
紀要（金額）		10,500	8,700	6,800	19,600	11,200	7,300	9,500	9,300	7,800	1,700	3,600	4,900	100,900	100,900
ふくしまの仏像(仏像図説)	1,300	2	1	2			1	1	1			1	2	11	14,300
福島の古墳	1,200	2	5	2	7	4	7	1	1	1	1		1	32	38,400
福島の化石	1,500	1							1				1	3	4,500
戦時下の福島	800	2	1	3	4		1		3		1	2		17	13,600
福島の年中行事	1,100	1				2			2				1	6	6,600
ガイドブック	300	5	11	4	7	13	11	4	4	1	1		6	67	20,100
手引き（小）	700		1		1		1						2	5	3,500
常世原田遺跡	600		3										1	4	2,400
ふくしまの農具	1,000	1				2				1				4	4,000
報告書（数量）		10	17	3	6	17	9	10	8	3	9	3	2	97	0
報告書（金額）		15,600	23,200	2,900	8,900	20,800	12,000	8,400	8,200	2,500	12,100	5,600	1,400	121,600	121,600
絵葉書	50	54	37	38	3	33	28	6	27	5	3		1	235	11,750
クリアホルダー	200	1	9	6	14	2	6	1	6	5	1	1		52	10,400
勾玉セット	200													0	0
文化の力	1,500		12	4	1									17	25,500
ポケットミュージアム	1,000		4	2										6	6,000
一筆箋	350		5	3	3		4						1	16	5,600
斎藤清絵はがきセット	350		21	10	1	1	6	2	2	10	2	5	1	61	21,350
体験学習材料費															17,100
合計		145	179	101	182	236	200	243	286	154	59	65	201	2,051	1,322,000

Ⅳ 法　　規

福島県立博物館条例

（昭和61年３月25日条例第30号）

（設　置）

第１条　博物館法（昭和26年法律第285号）第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条及び地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条第１項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、福島県立博物館（以下「博物館」という。）を設置する。

（位　置）

第２条　博物館は、会津若松市城東町８番地に置く。

（業　務）

第３条　博物館において行う業務は、次のとおりとする。

1　歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。

2　博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。

3　博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。

4　博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。

5　前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

（観覧料）

第４条　博物館の展示品（以下「展示品」という。）を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

（観覧料の免除）

第５条　知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

（観覧料不返還の原則）

第６条　既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

（遵守事項）

第７条　博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

1　博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。

2　物品を販売し、又は頒布しないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。

3　展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。

4　所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。

5　他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

6　前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

（入館の規制等）

第８条　教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

1　前条の規定に違反した者

2　博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者

3　館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

（職　員）

第９条　博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

（委　任）

第10条　この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附　則　この条例は、昭和61年４月１日から施行する。

附　則（平成９年３月25日条例第52号）この条例は、平成９年４月１日から施行する。

附　則（平成11年12月24日条例第93号）この条例は、平成12年４月１日から施行する。

附　則（平成15年３月24日条例第53号）この条例は、平成15年４月１日から施行する。

附　則（平成25年条例第119号）　この条例は、平成26年４月１日から施行する。

別表（第４条関係）

区　　分	普通観覧料の額（一人当たり）		特別観覧料の額
	個　人	団　体	
一般（大学生を含む。）	270円	210円	その都度知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者	無　料	無　料	その都度知事が定める額
中学生及び小学生	無　料	無　料	その都度知事が定める額

備　考
1　「普通観覧料」とあるのは、常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは、企画による展示品を観覧する場合の観覧料をいう。
2　「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

福島県立博物館運営協議会条例

（昭和61年３月25日 条例第31号）

（設　置）
第１条　博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第１項の規定に基づき、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。
（組　織）
第２条　協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、10人以内とする。
（委員の任命及び任期）
第３条　委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。
2　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
3　委員は、再任されることができる。
（会長及び副会長）
第４条　協議会に会長及び副会長各１人を置き、委員の互選により定める。
2　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
（会　議）
第５条　協議会の会議は、会長が招集する。
2　協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
3　協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
（庶　務）
第６条　協議会の庶務は、博物館において処理する。
（雑　則）
第７条　この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。
附　則
この条例は、昭和61年４月１日から施行する。

福島県立博物館条例施行規則

（昭和61年３月25日教育委員会規則第５号）

（休館日）
第１条　福島県立博物館（以下「博物館」という。）の定期の休館日は、次のとおりとする。
1　月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（次号において「休日」という。）に当るときを除く。
2　休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当るときを除く。
3　１月１日から同月４日まで
4　12月28日から同月31日まで
2　博物館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。
（開館時間）
第２条　博物館の開館時間は、午前９時30分から午後５時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。
（観覧手続）
第３条　館長は、福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。）第4条の規定により観覧料を納入した者に対し、観覧券（様式第１号）を交付するものとする。
（観覧料の免除及びその手続き）
第４条　館長は、条例第５条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1　大学生（これに準ずる者として福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が別に定める者を含む。）及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生（これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。）の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
2　県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額（引率者にあっては全額）

3　国民の祝日に関する法律第２条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4　知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5　その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2　観覧料の免除を受けようとする者（前項の表の第３号又は第４号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第２号に該当する場合にあっては観覧しようとする日の３日前まで、第５号に該当する場合にあっては10日前までに観覧料免除申請書（様式第２号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3　館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第３号）を交付するものとする。

(観覧料の返還)

第５条　館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

1　観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。 全額

2　その他やむを得ない理由があると認めるとき。 教育長が別に定める額

2　観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（様式第４号）に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

(博物館資料の特別利用)

第６条　博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようする者は、館長の承認を受けなければならない。

(教育長への委任)

第７条　この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附　則

この規則は、昭和61年４月１日から施行する。

附　則（昭和63年３月25日教育委員会規則第９号）

この規則は、昭和63年４月１日から施行する。

附　則（平成４年７月28日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成４年９月１日から施行する。

附　則（平成７年３月31日教育委員会規則第15号）

この規則は、平成７年４月１日から施行する。

附　則（平成８年３月29日教育委員会規則第16号）

この規則は、平成８年４月１日から施行する。

附　則 (平成８年８月20日教育委員会規則第20号)

この規則は、平成８年10月１日から施行する。

附　則 (平成12年３月31日教育委員会規則第16号)

この規則は、平成12年４月１日から施行する。

附　則（平成14年３月26日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成14年４月１日から施行する。

附　則（平成15年３月24日教育委員会規則第３号）

この規則は、平成15年４月１日から施行する。

様式第１号（第３条関係）

観　覧　券 （観覧者の区分） （金　　額） 福島県立博物館	観　覧　券 （観覧者の区分） （金　　額） 福島県立博物館

備考　寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第2号(第4条関係)

年　月　日

福島県立博物館長

申請者　住所又は所在地
氏名又は名称及び代表者の氏名　印

観覧料免除申請書

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年　月　日		時　分から 時　分まで	
観覧者の種別及び人数	一般	人	その他(　)	人
	大学生		(　)	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
引率者の職及び氏名	職	氏名		
連絡先及び電話番号	電話　(　)			
観覧料	免除率	免除金額	免除の根拠	
※　円	※	※　円	※	

第　号
年　月　日

上記のとおり承認してよろしい。

館長	副館長	総務課長		主任

(注)　※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

第　号
年　月　日

様

福島県立博物館長　印

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年　月　日		時　分から 時　分まで	
観覧者の種別及び人数	一般	人	その他(　)	人
	大学生		(　)	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
注意事項				
観覧料	免除率	免除金額		
円		円		

様式第4号(第5条関係)

年　月　日

福島県立博物館長

申請者　住所又は所在地
氏名又は名称及び代表者の氏名　印

観覧料返還申請書

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称			
観覧料の納入月日	年　月　日		
既納観覧料の区分及び金額	区分	人数	金額
		人	円
	合計		
返還を申請する理由			
連絡先及び電話番号	電話　(　)		
観覧料	返還率	返還金額	返還の根拠
※　円	※	※　円	※

上記のとおり返還してよろしい。

館長	副館長	総務課長		主任

受付月日	・　・	決裁月日	・　・

(注)　※印の欄は、記入しないこと。

福島県立博物館組織規則

（昭和61年３月25日　教育委員会規則第６号）

（目　的）

第１条　この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

（　課　）

第２条　博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

（事業分掌）

第３条　総務課においては、次の事務を行う。

1　館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。

2　公印の管理に関すること。

3　人事に関すること。

4　文書の収受、発送、編集及び保存に関すること。

5　予算の編成、経理及び執行に関すること。

6　物品の調達及び処分に関すること。

7　財産の管理に関すること。

8　観覧料の徴収に関すること。

9　福島県立博物館運営協議会に関すること。

10　前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2　学芸課においては、次の事務を行う。

1　博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。

2　博物館資料に関する調査及び研究に関すること。

3　博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。

4　博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。

5　博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。

6　国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。

7　前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

（館　長）

第４条　博物館に館長を置く。

2　館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

（副館長）

第５条　博物館に副館長を置く。

2　副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

（課長）

第６条　博物館の課に課長を置く。

2　課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。

第７条　削除

（学芸員等）

第８条　博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

2　主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。

3　専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。

4　主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。

5　副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。

6　学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

（主任主査その他の職）

第９条　博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職　務
主任主査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
主査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副主査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専門員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

附　則

この規則は、昭和61年４月１日から施行する。

附　則（平成６年３月15日教育委員会規則第４号）

この規則は、平成６年４月１日から施行する。

附　則（平成13年３月27日教育委員会規則第６号）

この規則は、平成13年４月１日から施行する。
附　則（平成14年３月29日教育委員会規則第18号）
この規則は、平成14年４月１日から施行する。

福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

（昭和61年３月25日 福島県規則第11号）

福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号）第５条、第６条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。
附　則
この規則は、昭和61年４月１日から施行する。

福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

（設　置）
第１条　福島県立博物館に収蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（組織等）
第２条　委員会は12人以上の委員を持って構成する。
２　委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長（以下「館長」という。）が委嘱する。
３　委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。
４　委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。
（会　議）
第３条　委員会は必要のつど館長が招集する。
２　委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。
３　委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。
（展示計画作成委員）
第４条　委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから６人の展示計画作成委員（以下「展示委員」 という。）を選任する。
２　展示委員は次の任務を遂行する。
⑴　展示計画原案の作成
⑵　展示計画作成のための基礎的資料の収集
⑶　展示計画作成に関する専門的指導
（任　期）
第５条　委員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。
２　補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（庶　務）
第６条　委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。
（その他）
第７条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。
附　則
この要綱は、昭和56年５月１日から施行する。
昭和61年４月１日一部改正

福島県立博物館資料所在調査要領

1）　調査の目的
福島県内に散在する考古、歴史、民俗美術工芸等の資料について、その所在及び内容を把握し、県立博物館の活動のための基礎データを得ることを目的とする。
2）　調査の実施
⑴　調査員
イ）調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から館長が委嘱する。
ロ）委嘱期間は、４月１日から３月31日までの１年間とする。
⑵　調査の内容
資料の種類、形状、用途、数量、由来、時代、保存状況、所有者等について調査する。

⑶　調査の時期
　４月１日から３月31日とする。
⑷　調査カードの作成・提出
　調査員は、調査資料についてカードを作成し、福島県立博物館に提出する。

福島県立博物館資料調査員設置要綱

（設　置）
第１条　福島県立博物館の収集、展示、研究等に関する基礎データを得るため福島県立博物館資料調査員　（以下「資料調査員」という。）を置く。
（選　任）
第２条　資料調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から、福島県立博物館館長（以下「館長」という。）が委嘱する。
（職　務）
第３条　資料調査員は、福島県内に散在する考古、歴史、民俗、美術工芸等の資料について、所在及び内容を調査し、その結果を館長に報告する。
（任　期）
第４条　資料調査員の任期は1年とする。
　２　補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（補　足）
第５条　この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。
　附　則
この要綱は、昭和55年４月１日から施行する。
　　昭和61年４月１日一部改正。

福島県立博物館友の会規約

（名　称）
第１条　本会の名称は、福島県立博物館友の会という。
（目　的）
第２条　本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。
（事　業）
第３条　本会は次の事業を行う。
　１　広報活動
　２　講演会・研修会等の開催
　３　博物館に関連する事業への協力
　４　図書等の斡旋等の事業
　５　その他必要な事業
（会員及び会費）
第４条　会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。
　　①　個人会員　本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
　　②　家族会員　本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
　　③　高校生会員　本会の趣旨に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
　　④　賛助会員　本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。
　２　会員の期間は、入会の年４月１日から翌年の３月31日までの１年間とする。
　３　会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。
（会員の特典）
第５条　会員は次の特典を受けることができる。
　１　博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
　２　会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。
　３　会の事業に参加することができる。
　４　会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。
（役　員）
第６条　本会に次の役員を置く
　　会　　長　　１名
　　副　会　長　　若干名
　　幹　事　長　　１名
　　幹　　事　　若干名（各サークルの代表者は、本会の幹事となる。）

監　　事　　２名
２　幹事のうち１名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。
（役員の選出及び任期）
第７条　役員は総会において選出し、任期は２年とする。ただし再任は妨げない。
２　補欠のため任ぜられた役員の任期は、前任者の残任期間とする。
（役員の職務）
第８条　会長は、本会を代表し、会務を総理する。
２　副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。
３　幹事長は、本会の会務並びに実務を主となって処理する。
４　幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。
５　監事は、本会の会計を監査する。
（会　議）
第９条　総会は、毎年１回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。
２　役員会は、必要のつど会長が招集する。
３　総会及び役員会の議長は、会長があたるものとする。
４　議事は、出席者の過半数により決する。
（顧問）
第10条　本会は、顧問をおくことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。
（会計年度）
第11条　本会の会計年度は、毎年３月１日に始まり、翌年２末日に終わるを原則とする。
２　本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあてるものとする。
（事務局）
第12条　本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。
２　本会の事務局員は会長が委嘱する。
（その他）
第13条　本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

附　則
１ この規約は、平成元年４月１日から施行する。
２ この規約は、平成３年４月１日から施行する。（第６条第２項関係）
３ この規約は、平成５年４月１日から施行する。（第４条第１項②関係）
４ この規約は、平成７年４月１日から施行する。（第11条第１項、第12条第１項関係）
５ この規約は、平成８年４月１日から施行する。（第４条第１項③関係）
６ この規約は、平成11年４月１日から施行する。（第６条第１項関係）
７ この規約は、平成23年３月１日から施行する。（第11条第１項関係）
８ この規約は、平成27年３月26日から施行する。（第６条、第８条第３項・４項関係）
９ この規約は、平成28年４月１日から施行する。（第６条第１項関係）

V　施設の概要

1. 建築概要

設　計　者　㈱佐藤武夫設計事務所
工事監理　福島県会津若松建設事務所
㈱佐藤武夫設計事務所
施　工　者　建築本体工事
福島県立博物館（本体）工事
清水建設㈱・会津土建㈱・秋山建設㈱
共同企業体
電気設備工事
福島県立博物館建設（電気設備）工事
六興電機㈱・吉田電工㈱共同企業体
空気調和設備工事
福島県立博物館建設（空気調和設備）工事　新日本空調㈱・若松ガス工業㈱共同企業体
火災報知その他設備工事
福島県立博物館建設（火災報知その他設備）工事　㈱富士工業商会
給排水衛生設備工事
福島県立博物館建設（給排水衛生設備）工事　㈱共立配管工業所
昇降機設備工事
福島県立博物館建設（昇降機設備）工事
ダイコー㈱
面　　積　敷地面積　37,269.6㎡
建築面積　10,986.23㎡
延 面 積　11,071.44㎡
1　　階　9,980.45㎡
2　　階　1,090.99㎡
建築事業費　6,451,641千円
内訳　建物本体　4,623,714
展示工事　1,257,500
外構工事　368,688
その他庁用備品等　201,739
規　　模　地上２階
最高の高さ　20.6m
最高の軒高　13.6m
地 域 地 区　住居地域　風致地区第１種
構　　造　主体構造　鉄骨鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
基礎構造　場所打ちコンクリート杭
外部仕上げ　屋根　厚0.6硫化銅板　特殊一文字葺
外壁　特焼磁器質タイル打込プレキャストコンクリート板
建具　アルミ断熱サッシ電解着色仕上げ
内部仕上げ　（エントランスホール・展示ロビー）
床　　花崗岩ジェットバーナー仕上げ
壁　　凝灰岩リブ付厚40㎜
天井　練付合板　クリアーラッカー仕上げ
（総合展示室）
床　　カーペットタイル
壁　　プラスターボード厚12㎜
天井　アルミ特殊ルーバー天井
（講　　堂）
床　　カーペットタイル
壁　　凝灰岩　リブ付
天井　練付合板　アクリルラッカー仕上げ
（第１・３・６収蔵庫）
床　　ブナフローリングボード厚12㎜
壁　　杉板厚12㎜　ヒブクラハギ張
天井　杉板厚12㎜　本実張
（第２収蔵庫）
床　　コンクリート塗り床
壁　　化粧硅酸カルシウム板
天井　化粧硅酸カルシウム板
（第４収蔵庫）
床　　ブナフローリングボード厚12㎜
壁　　化粧硅酸カルシウム板
天井　化粧硅酸カルシウム板
（第５収蔵庫）
床　　コンクリート塗り床
壁　　ブラスターボード
天井　化粧硅酸カルシウム板
工　　期　着工　昭和59年７月７日
完成　昭和61年３月25日

2. 設　備

電気設備
1．電気設備　受電電圧　３相３線式　6.6ＫＶ　50Hz
変圧器容量（業務用）1575ＫＶＡ
（冬季用）400ＫＶＡ
2．非常用電源　発電機　３相３線式6.6ＫＶ　50Hz
400ＫＶＡ　蓄電池　密閉型アルカリ
ＡＨ－ＰＥ200ＡＨ86セル
3．そ の 他　電話設備、インターホン設備、ＴＶ共同視聴設備、自動火災報知器設備、防火戸等制御設備、ガス漏警報設備、非常用放送設備、ＩＴＶ監視設備
4. 視聴設備　ＴＶカメラ、ビデオ調整卓、ビデオデッキ、音響総合ラック

空調設備
1．空調方式　各室ユニット型空調機　17系統ファンコイル　ユニット方式
2．熱源設備　ガス直焚冷温水発生器（150ＲＴ）×２
ガス焚鋳鉄セクショナルボイラー
（396.00Kcal/H）　水冷式チーリングユニット（120ＲＴ）

衛生設備
1．給　　水　市水道　受水槽：50㎥
2．消火設備　（屋内）スプリンクラーとハロン消化設備の併用、（屋外）野外消火栓

昇降機設備　油圧式エレベーター定格荷重：３ｔ１基
油圧式リフト　定格荷重：２ｔ1基

融雪設備　ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋根ヒーター・ドレンヒーター、外気温度地面温度・降雪感知器・乾地面温度・湿地面温度センサーの組み合わせにより自動運転または手動運転。

監視設備　分散形総合監理制御システムにより、受電設備・防災設備・熱源設備・空調設備・融雪設備・庭園設備等を遠方発停制御及び計測監視を行う。

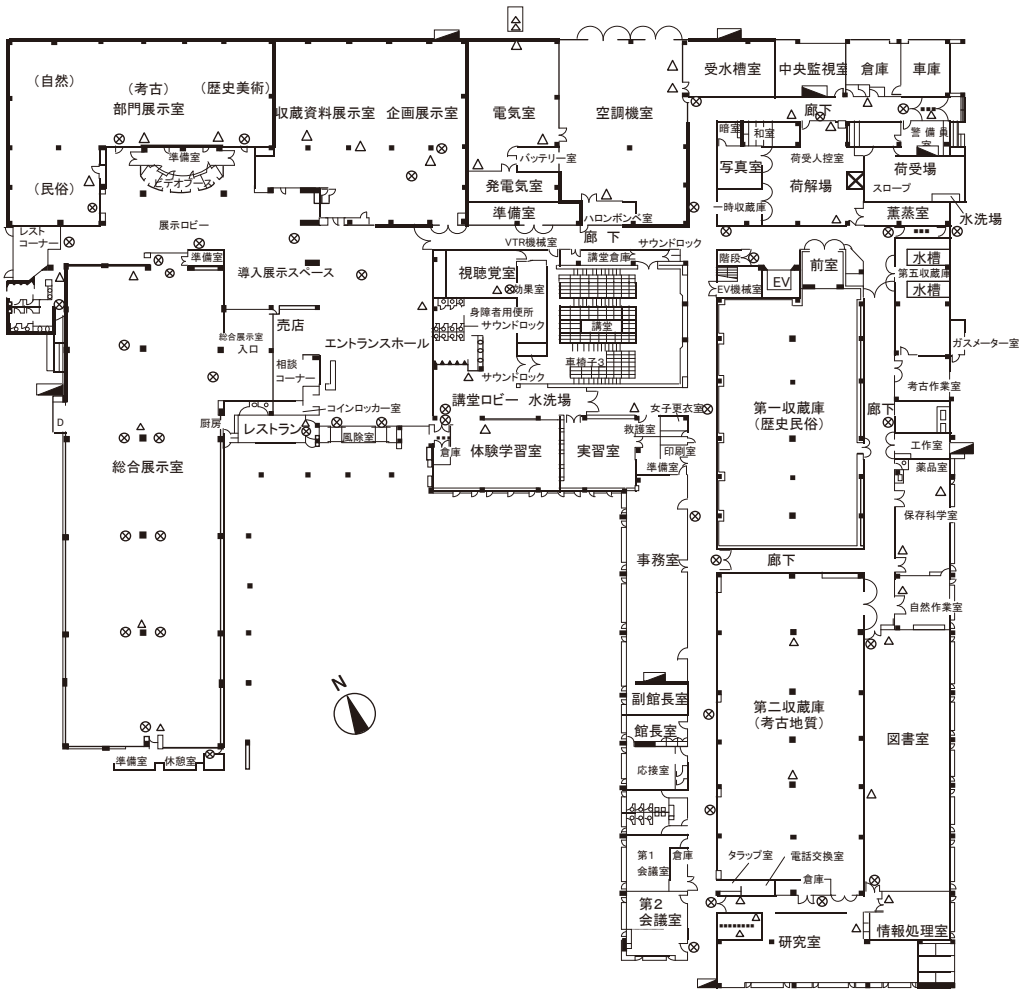
電話設備　電子交換外線３回線　内線64回線

火災報知設備　受信盤Ｐ型１級　60回線（自火報）33回線（防排煙設備）、煙感知機274箇所、熱感知機93箇所、排煙区画８系統、平面地図盤（照光式）により表示

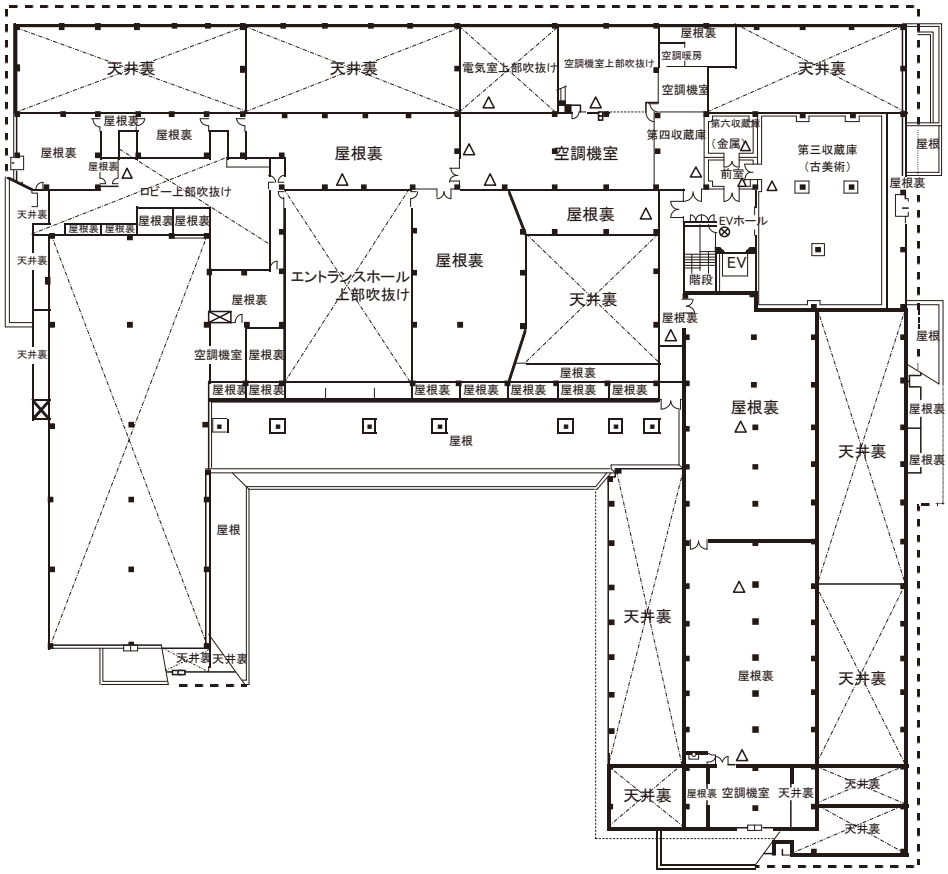
防犯設備　電波センサー・電子サイン・ＩＴＶを必要箇所に設置し、監視制御システムと併用

3. 平面図・各室一覧

1 階平面図



2 階平面図



各室面積表

室名	面積(㎡)	備考
収蔵スペース		2,294.8（㎡）
荷受場	90.5	
荷解場	164.5	
荷受人控室	25.1	
一時収蔵庫	30.4	
燻蒸室	30.7	
工作室	39.6	
写真室	57.0	スタジオと暗室
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗
第2収蔵庫	617.7	考古・地質
第3収蔵庫	393.6	古美術
第4収蔵庫	75.6	剥製・植物標本
第5収蔵庫	104.9	液浸
第6収蔵庫	51.5	金属
研究スペース		788.3（㎡）
研究室	238.4	
自然作業室	37.6	
保存科学室	77.2	
考古作業室	72.3	
薬品庫	8.8	
図書室	300.0	
情報処理室	54.0	
展示スペース		2,815.1（㎡）
総合展示室	1,536.9	
部門展示室	585.8	
企画展示室	484.1	
収蔵資料展示室	208.3	
教育普及スペース		693.1（㎡）
講堂	257.8	
講堂倉庫	15.0	
体験学習室	173.5	
視聴覚室	65.6	
効果室	32.1	
実習室	128.3	
実習準備室	20.8	
管理スペース		719.5（㎡）
事務室	166.1	
館長室	45.6	
副館長室	31.5	

室名	面積(㎡)	備考
応接室	36.5	
第1会議室	34.8	
第2会議室	70.7	
更衣室	13.2	
湯沸室	5.0	
印刷室	16.2	
救護室	13.2	
警備員室	30.0	
宿直室	25.1	
倉庫A	29.4	
倉庫B	43.6	収集用 (1)
車庫	55.8	
展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・収蔵資料用
機械スペース		1,253.1（㎡）
空調機室1F	393.2	
空調機室2F	479.4	
電気室	132.5	
中央監視室	52.8	
発電気室	50.2	
バッテリー室	14.4	
受水槽室	66.7	
ハロンボンベ室	31.7	
EV機械室	17.1	
電話交換機室	6.3	
VTR機械室	8.8	
サービス・共用スペース		2,507.54（㎡）
エントランス・ホール	461.1	
レストラン	83.7	厨房含む
売店・相談コーナー	73.3	ロッカー含む
便所（展示）	32.6	
便所（中央）	68.8	
便所（管理）	31.3	
展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワークショップを含む
レストコーナー	40.3	
その他	1202.64	
計	11071.44	

4. 施設の修理・改築

平成 7年 8月 9日　消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10.31）
平成 8年10月 1日　博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置　段差解消スロープ　車椅子駐車場２台分）（～９.３.19）
平成12年10月27日　給水ポンプ取替工事（～13.１.９）
平成14年 9月12日　博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12.16）
平成15年 9月19日　非常用蓄電池取替工事（～11.20）
10月21日　吸収冷温水機真空部取替工事（～16.１.８）
平成16年10月 5日　屋根補修工事（～12.17）
12月21日　吸収冷温水機真空部取替他工事（～17.３.18）
平成17年 7月22日　屋根補修工事（～10.４）
平成18年 1月 6日　熱源コントローラー交換工事（～３.17）
スプリンクラーヘッド交換工事（～３.17）
平成19年 1月 5日　スプリンクラー設備修繕工事（～３.23）
平成19年 2月 1日　１階床張替え補修工事（～３.23）
平成19年 2月21日　ウォシュレット取付け工事（～３.19）
平成21年 1月21日　高圧引込設備改修工事（電柱立替外）（～３.24）
平成21年 6月 3日　冷却塔ヘッダー管交換２回（～12.25）
平成21年12月18日　消防設備修繕（呼水槽、消火栓ホース、ハロゲン非常用電源設備外）（～22.２.26）
平成22年 2月17日　企画展示室改修工事（～３.29）
平成22年11月16日　中央監視システム更新工事（～23.４.25）
平成22年11月26日　空調熱源機器改修工事（～23.４.22）
平成23年 1月20日　空調設備改修工事（～４.25）
平成27年 9月 1日　冷暖房設備改修工事（～11.24）
平成27年 9月 2日　シャッター撤去・新設工事（～10.15）

5. 沿　革

《開館にいたるまで》

昭和52年 5月13日　文化を考える県民会議の設置
6～ 8月　文化に関する県民意識調査の実施
昭和53年 1月24日　文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告
7月26日　第１回文化振興会議開催
昭和54年 2月 2日　文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告
3月19日　文化施設等整備基金条例制定
4月 1日　福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置
12月24日　福島県美術品等取得基金条例制定
昭和55年 4月 1日　福島県教育庁文化課内文化施設整備室を設置
昭和56年 1月26日　県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける
2月 3日　県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定
昭和57年 2月18日　県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告
昭和58年 7月30日　建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所）
展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所）
昭和59年 6月 8日　建設工事契約（㈱清水建設仙台支店・㈱会津土建・㈱秋山建設による共同企業体）
7月 7日　県立博物館建築工事着工（～61.3.25）
7月10日　展示工事委託契約（㈱トータルメディア開発研究所・㈱乃村工藝社・㈱丹青社による共同企業体）
7月13日　展示工事着工（～61.9.10）
昭和61年 3月25日　県立博物館条例　同施行規則　同運営協議会条例及び組織規則制定（61.4.1施行）
3月31日　県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止
4月 1日　県立博物館公所開設　髙橋富雄が初代館長として就任　運営協議会委員10名委嘱
10月 1日　展示解説員19名採用
10月18日　県立博物館開館

《開館してから》

昭和61年11月28日　登録博物館の指定（第10号）
昭和63年 8月21日　入館者50万人達成
平成元年 3月10日　友の会設立
平成 2年10月 7日　入館者100万人達成
平成 4年 3月31日　日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）
平成 5年 4月 1日　展示解説員22名となる
平成 7年 5月 5日　入館者200万人達成
平成 8年10月 5日　開館10周年記念式典を催す
平成12年10月15日　入館者300万人達成
平成13年 1月25日　博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される
平成14年 3月25日　博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定

平成15年	3月24日	博物館条例第４条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を無料とする
	3月28日	髙橋富雄館長 「金曜講座」第393回目開催
	3月31日	髙橋富雄館長退任
	4月 1日	赤坂憲雄が県立博物館長に就任 前館長髙橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
平成16年	4月 8日	赤坂憲雄館長・学芸員 「木曜の広場」第１回開催
平成17年	5月 6日	入館者350万人達成
平成18年	9月29日	博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催
平成19年	7月21日	当館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で企画展「樹と竹－列島の文化北から南から－」を開催
平成20年	7月19日	磐梯山噴火記念館および野口英世記念館と連携して共同企画展「会津磐梯山」を開催
平成22年	6月26日	県内の５つの文化施設（福島県立博物館、福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して夏の企画展「山に生き森に遊ぶ－ふくしまの森林文化－」を開催
平成23年	3月11日	宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生。会津若松市は震度５強。博物館では設備および資料に若干の被害があり、展示室の安全性の確認と修繕工事のため４月10日まで休館。
平成24年	5月15日	「福島県被災文化財等救援本部」が発足。当館は、福島県教育庁文化財課、福島大学、福島県文化振興財団とともに幹事として参画。８月～11月にかけて、東京電力福島第１原発事故による警戒区域内に所在する双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、大熊町民俗伝承館に収蔵されている資料の梱包、搬出、一時保管場所への搬入作業を実施。
平成25年	5月17日	2013年NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」を開催
	11月27日	「博物館ニュース」創刊から400号達成
平成27年	5月 2日	福島県立博物館と福島県立美術館が美術館移動展「ふるさと会津の人と四季―福島県立美術館名品展―」を共催

Ⅵ　利用案内

● **開館時間**

午前９時30分～午後５時（最終入館は午後４時30分まで）

● **休館日**

◎毎週月曜日 (祝祭日にあたる場合は開館)
◎祝祭日の翌日 (土・日・祝祭日にあたる場合は開館)
◎年末年始（12月28日～１月４日）
◎その他、館内くん蒸などのために臨時に休館することがあります。

● **観覧料**

◎常設展　　（　　）内は、団体20人以上の料金
一般・大学生270円（210円）　高校生以下は無料
◎企画展　　そのつど定めます。
★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は申請により減免措置を受けることができます。(常設展のみ)
★身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料
また１種（精神障害者保健福祉手帳にあっては１級）の認定を受けている方に限り、介護者１名が無料。
★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は無料。(常設展のみ)
★展示室以外の入館は無料。

● **常設展無料開放日**

５月５日(子供の日)／９月第３月曜日(敬老の日)／11月３日(文化の日)／８月21日(県民の日)

● **企画展無料開放日（高校生以下のみ）**

11月１日～11月７日(ふくしま教育週間)

● **交通案内**

◎会津若松駅より約３㎞
◎市内バス利用の場合
①まちなか周遊バス「ハイカラさん」鶴ヶ城三の丸口下車徒歩１分
②まちなか周遊バス「あかべぇ」鶴ヶ城三の丸口下車徒歩１分
③病院循環バス「ひまわり」県立病院前下車徒歩５分

● **体の不自由な方へ**　スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。

● **講座・講演など**　博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

福島県立博物館年報　第30号

平成29年１月20日　印刷
平成29年１月20日　発行

編集・発行　福島県立博物館
〒965-0807　会津若松市城東町1-25
ＴＥＬ（0242）28-6000
ＦＡＸ（0242）28-5986
http://www.general-museum.fks.ed.jp/

印　　刷　株式会社 ア ポ ロ
〒965-0044　会津若松市七日町14-７
ＴＥＬ（0242）22-5139

この年報の本文は再生紙を使用しています。

あなたに夢を。宝くじ　街に元気を。
クーちゃん

福島県立博物館

〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25　TEL0242(28)6000